

Hokkaido University News

北大時報

令和8年

4

No. 865 April 2026

総長就任挨拶

役員新体制紹介

令和7年度学位記授与式の挙行

令和8年度入学式の挙行



1 総長就任挨拶 役員新体制紹介

全学ニュース

- 19 令和7年度学位記授与式の挙
- 23 令和8年度入学式の挙
- 27 理事の退任セレモニーを
- 28 令和7年度「北海道大学永年勤続者表彰」表彰式を挙
- 30 名誉教授に43氏
- 31 令和7年度「北海道大学職員表彰」表彰式を挙
- 32 令和8年度北海道大学の予
- 34 令和7年度新渡戸カレッジ修了式（学部教育コース）を挙
- 35 新渡戸カレッジ修了式（大学院カリキュラム）を挙
- 36 令和7年度現代日本学プログラム課程学士学位記授与式を
- 37 令和7年度インテグレイテッドサイエンスプログラム（ISP）修了式を
- 38 令和7年度北海道大学鈴木章記念賞－自然科学実験－表彰式を
- 39 令和7年度北海道大学大塚賞授与式を
- 40 令和7年度北海道大学クラーク賞授与式を
- 41 令和7年北大えるむ賞授与式を
- 42 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）連携研究プラットフォーム事業研究成果中間報告会兼交流会を
- 43 北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）
- 46 令和7年度北海道大学・北海道地区国立高等専門学校 技術職員交流研修を
- 47 北海道大学×北海道情報大学×HBA共催「HACK FOR IMPACT 共創で未来を生み出すハッカソン」を
- 48 「Do-nan Innovation Gathering」を
- 49 「第2回北大発認定スタートアップ企業Meet-Up」を
- 50 北海道どさんこプラザ有楽町店で北大ブランド商品の催事を
- 51 米マサチューセッツ大学アマースト校とのシードファンド採択
- 52 豪メルボルン大学とのマッチングファンド2026を採
- 53 「SDG-UP公開シンポジウム」に横田 篤理事・副学長が登壇
- 54 ウェルネス推進プロジェクト「H-ARTs（ハーツ）」で「無料で健康チェック！」を実施
- 55 「炭素会計アドバイザーセミナー」を
- 56 「北海道大学所在地の先住民族に対する敬意の表明」を公
- 57 「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 講師が講義、見学を実施
- 60 キャリアセンターと先端人材育成センターが合同で北海道大学キャリア支援シンポジウムを開催～全国からキャリア支援関係者が集結
- 61 学生相談総合センター学生相談室主催「ほっとかわりプログラム」を
- 62 ピアサポートルームで年末イベントを実施
- 63 「全国大学ピアサポーター合同研修会びあわ2025 in 愛媛」参加報告会を実施
- 64 企業に内定した博士と語る「内定者座談会」の実施



令和8年度入学式の挙



医学部が令和7年度最終講義・退職記念式典を



総長就任挨拶



令和7年度学位記授与式の挙

部局ニュース

- 65 経済学院がベスト・チューター賞授与式を
- 66 理学研究院と国土交通省北海道開発局が連携協定を締結
- 67 医学部が令和7年度最終講義・退職記念式典を
- 68 北大PRISM-HU事業で豪メルボルン大学医学と連携
- 69 薬学研究院が「第22回薬学研究院研究発表会」を
- 70 令和7年度北海道大学物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム修了式を
- 71 令和7年度北海道大学スマート物質科学を拓く アンビシャスプログラム第3期生修了式を
- 72 国立陽明交通大学においてラーニングサテライトを実施
- 73 国際シンポジウム「第13回人獣共通感染症克服のためのコンソーシアム会議」を合同
- 74 米国マサチューセッツ大学アマースト校とワークショップ「帝国の世界秩序とその後」を
- 75 冬の植物園ウォッチング・ツアーを
- 76 産官学を繋ぐ環境政策セミナーを東京で
- 77 環境健康科学研究教育センターが令和7年度後期「社会と健康」修了生にディプロマを授与
- 78 環境健康科学研究教育センターがクイーンズランド大学QAEHSから大学院生を受け入れ
- 79 脳科学研究教育センター脳科学（発達脳科学）専攻 第22期修了生に修了証書授与
- 80 総合博物館で第18回「卒論ポスター発表会」を
- 81 附属図書館所蔵「和文パンフレット」デジタル化資料のインターネット公開

博士学位記授与 82

表敬訪問 102

人事 103

- 113 新任部局長等紹介
- 117 部局長等（再任）紹介
- 118 新任部課長等紹介
- 124 新任教授紹介

訃報

- 131 名誉教授 牛山 敬二 氏
- 131 教授 村井 祐一 氏
- 132 名誉教授 本間 行彦 氏

資料

- 133 令和8年度入学者の道内・道外別及び卒業年度調べ
- 134 令和8年度入学者の都道府県分布及び地域比率



理学研究院と国土交通省北海道開発局が連携協定を締結



冬の植物園ウォッチング・ツアーを

表紙：令和8年度入学式の挙（関連記事23頁に記載）

裏表紙：キャンパス懐古③ 大野池の桜（1980年代）

新しい大学像 Novel Japan University を目指して

第20代総長 寶金 清博



1) 4年後の私たち・あなたたちへのメッセージ

2025年の総長選考・監察会議の決定を経て、文部科学大臣の任命を受け、2026年4月1日より2030年3月31日までの4年間、北海道大学総長として再任されました。今後4年間、ご支援をよろしくお願いいたします。

総長特設サイトのメッセージは、今後4年間、そのまま掲載される予定です。年頭の挨拶のように、毎年、書き換えることは想定していません。

24時間後の世界でさえ見通すことの難しい時代、価値観がジェットコースターのように目まぐるしく変化する時代に、4年間、色褪せないメッセージを残すことは、容易ではありません。早ければ、半年後くらいには、賞味期限を過ぎた文章がここに残る可能性は高いと思います。少子化の中で、私立大学の中には存立継続すら困難な大学もある状況で、北海道大学の在り方も大きく問われることは間違いありません。

しかし、そうした予想不可能性と複雑性に満ちた時代であるからこそ、大学は、揺るぎないビジョンを持って、色褪せないミッションを掲げるべきです。それは、時代の大きな変化のうねりの前では、身の程知らずの無謀なことかもしれません。

しかし、「世界は変えることができる」という生き方を、私たち大学人が選ばなければ、一体、誰が世界を変えることができるのでしょうか？これこそが、札幌農学校設立以来の志である「Be Ambitious」の精神であり、この言葉は、学生に向けられた言葉であると同時に、私たちの大



学そのものに向けられた言葉です。

今、大学には、社会を変える力が求められていると思います。人財育成「教育」、イノベーション「研究」、社会実装「地域創生・医療」を通じて、間違いなく、大学には社会を変える特別な力があります。

2) 新しい大学像 Novel Japan University

2023年に、北海道大学は、2030年に向けた中期的ビジョン、HU VISION 2030を発表しました。その中で、持続可能なWell-being社会の実現をミッションとし、その達成に向けたメカニズムとして、卓越性と社会展開力の二軸からなる「新しい日本型の大学モデル」“Novel Japan University”を提示しました。

この大学像を提示した当時、私は、この“Novel Japan University”を明確な言葉で定義することができないでいました。しかし、この間、学内外で議論を深めてきた中で、北海道大学が目指す新しい大学像は、2つの大学像のハイブリッドであると考えようになりました。それは、①「戦略的総合融合研究大学」と、②「壮大な地域創生装置」です。つまり、北海道大学は、戦略的に研究を統合・融合する大学であると同時に、地域の未来を創り出す大規模な装置として機能する大学を目指しているということです。

日本社会に限らず、産業革命以後の近代国家において、大都市への一極集中と地域の崩壊は、200年以上に及ぶ深刻な世界的課題であり続けています。エネルギー自給率、食料自給率ともに極めて低い東京に、未だに、膨大な労働人口・若年層が流入し続けています。そして、私たちはこの深刻な国家的脆弱性に対する解決の処方箋を提示できないまま、今に至っています。

一方、明治以来、壮大なcountrysideであった北海道の価値は、「北の大地」という象徴的な言葉で表現されてきました。正直、私は、「北の大地」という表現があまり好きではありません。「北の大地」は、近代史において、常に「可能性の大地」のままであり、むしろ、人口減少などの負の課題の先進地となってしまいました。

しかし、今、北海道では、何か歴史の必然の力に導かれるように、世界が注目する3つのopportunity、①豊富な再生可能エネルギー開発、②持続的かつ自然再生的な食料生産、③AI社会を先導する北海道デジタルパーク構想が、

同時に進行し始めました。産業革命以来、回転してきた「大都市への一極集中と地域の崩壊」という巨大な歴史の歯車が、ギンギンと音を立てて、ゆっくりと停止し、「地域創生」に向けて逆回転し始めています。それは、数学的な特異点、あるいは、最近の言葉では、シンギュラリティ“singularity”と言ってもよいかと思えます。

この北海道の地に150年前に生まれた北海道大学は、日本でも最大規模の学部・大学院・研究所等を有する総合研究大学として発展してきました。そして、その真価は、まさに、こうした多様な学術の融合にあり、また、世界最大級のフィールド、test bedに恵まれた環境を活かし、「戦略的総合融合研究大学」であることが、北海道大学が示す新しい大学モデルの一つの在り方です。

そして、「北の大地」という「褒め言葉」で讃えられてきた北海道が、真の意味で「地域創生」の旗手として、200年以上の近代国家の在り方を転換し、「壮大な地域創生装置」としてデジタル田園都市国家構想を実現するフロントランナーになる機会が訪れました。これは、世界の課題解決そのものです。

北海道大学は、「戦略的総合融合研究大学」であると同時に、「壮大な地域創生装置」として、人財育成とイノベーションを進める大学モデルを目指します。これが、“Novel Japan University”です。

3) 次の150年に向けて

この文章を書いている2026年は、北海道大学の前身である札幌農学校が設置された1876年から数えて150年目であり、創基150周年記念の様々な事業が行われます。私たちにとってこの機は、私たちの大学の来し方・行く末を考える機会でもあります。

来年2027年は、創基151年、そして、2030年には、創基154年目を迎えます。いずれ、50年後には、創基200年を迎え、150年後には創基300年を迎えます。次の150年に向けて、大きなビジョンを掲げ、その目標実現に向けて着実に歩を進めつつ、2030年を迎えたいと思います。



略 歴

- 生年月日：昭和29年9月24日
- 昭和54年 3月 北海道大学医学部卒業
- 昭和61年11月 } 米国カリフォルニア大学デービス校客員研究員
- 平成元年 1月 }
- 平成 2年 7月 北海道大学医学部附属病院助手
- 平成 3年 3月 博士（医学）（北海道大学）
- 平成 3年10月 柏葉脳神経外科病院医師
- 平成 4年 6月 北海道大学医学部助手
- 平成 4年 6月 北海道大学医学部附属病院講師
- 平成 8年11月 米国スタンフォード大学・英国王立神経研究所文部省在外研究員
- 平成12年11月 北海道大学大学院医学研究科助教授
- 平成13年11月 札幌医科大学医学部教授
- 平成22年 3月 北海道大学大学院医学研究科教授
- 平成22年 9月 } 北海道大学病院副院長
- 平成25年 3月 }
- 平成25年 4月 北海道大学病院教授
- 平成25年 4月 } 北海道大学副理事
- 平成29年 3月 }
- 平成25年 4月 } 北海道大学病院長
- 平成31年 3月 }
- 平成29年 4月 } 北海道大学副学長
- 平成31年 3月 }
- 平成31年 4月 北海道大学病院客員教授
- 令和元年 9月 柏葉脳神経外科病院参与
- 令和元年 9月 北海道大学大学院保健科学研究院特任教授
- 令和 2年10月 北海道大学総長

役員新体制紹介

令和8年4月1日現在



理事・副学長に

のぐち のほる
野口 伸 氏

野口 伸氏は、令和8年4月1日付で、理事・副学長に発令されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

担 当

総括理事、経営統括（IRによる経営分析を含む）、将来戦略・大学機能強化、教職員人事制度改革（統括）、中期目標・中期計画、教育研究組織改革（統括）、運営組織改革（統括）、電子ジャーナル課題対応（統括）

兼務する職

経営企画本部長、総合IR本部長

略 歴

生 年 月 日 昭和36年7月17日
昭和60年 3月 北海道大学農学部卒業
昭和62年 3月 北海道大学大学院農学研究科修士課程修了
平成 2年 3月 北海道大学大学院農学研究科博士課程修了
平成 2年 3月 農学博士（北海道大学）
平成 2年 4月 北海道大学農学部助手
平成 9年 4月 北海道大学農学部助教授
平成11年 4月 北海道大学大学院農学研究科助教授
平成16年 4月 北海道大学大学院農学研究科教授
平成18年 4月 北海道大学大学院農学研究科教授
平成29年 4月 } 北海道大学大学院農学研究科副研究科長・農学院
令和 5年 3月 } 副研究科長・農学部副学部長
平成31年 4月 } 北海道大学教育研究評議会評議員
令和 8年 3月 }
令和 5年 4月 } 北海道大学大学院農学研究科長・農学院長・農学部長
令和 8年 3月 }



理事・副学長に

あみつか ひろし
網塚 浩 氏

網塚 浩氏は、令和8年4月1日付で、理事・副学長に発令されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

担 当

最高教育責任者、教育統括、教育組織改革（学部・学院、学内共同施設（教育）等）、入試・高大連携、リカレント教育、収容定員・現員管理（学部・大学院）、キャリア支援・奨学支援・学生福利厚生

兼務する職

教育改革室長、技術連携統括本部長、アドミッション本部長、教育イノベーション機構長

略 歴

生 年 月 日 昭和39年3月27日
昭和62年 3月 北海道大学理学部卒業
平成元年 3月 北海道大学大学院理学研究科修士課程修了
平成元年 6月 北海道大学大学院理学研究科博士後期課程退学
平成元年 7月 北海道大学理学部助手
平成 6年 3月 博士（理学）（北海道大学）
平成 7年 4月 北海道大学大学院理学研究科助手
平成 7年 5月 } ファンデルワールス=ゼーマン研究所文部省在外研究員
平成 8年 2月 }
平成 7年10月 北海道大学大学院理学研究科講師
平成12年 5月 北海道大学大学院理学研究科助教授
平成17年 4月 北海道大学大学院理学研究科教授
平成18年 4月 北海道大学大学院理学研究科教授
平成26年 4月 } 北海道大学総長補佐、北海道大学創成研究機構副機構長
平成29年 3月 }
平成26年 4月 } 北海道大学創成研究機構共用機器管理センター長
平成27年12月 }
平成28年 1月 } 北海道大学グローバルファシリティセンター長
平成30年 3月 }
平成29年 4月 } 北海道大学大学院理学院長
令和 3年 3月 }
令和 2年 1月 } 北海道大学グローバルファシリティセンター長
令和 8年 3月 }
令和 3年 4月 } 北海道大学大学院理学研究科長
令和 7年 3月 }
令和 7年 4月 } 北海道大学副学長
令和 8年 3月 }
令和 7年 7月 北海道大学技術連携統括本部長



理事・副学長に

せとぐち つよし
瀬戸口 剛 氏

瀬戸口剛氏は令和6年4月1日から理事・副学長を務め、令和8年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き、同氏が再任されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

担 当

最高研究責任者、研究統括、産学官連携統括、研究力強化、研究推進支援（研究公正を除く）、研究組織改革（研究院、附置研究所、研究センター、学内共同施設（研究）等）、研究セキュリティ、産学官連携、スタートアップ創出支援、D-SQUARE運営体制整備

兼務する職

研究戦略室長、総合イノベーション創発機構長、産学・地域協働推進機構長、統合URA本部長

略 歴

生 年 月 日	昭和37年10月18日
昭和61年 3月	早稲田大学理工学部卒業
昭和63年 3月	早稲田大学大学院理工学研究科修士課程修了
平成 3年 3月	早稲田大学大学院理工学研究科博士課程単位取得修了
平成 6年 3月	博士（工学）（早稲田大学）
平成 2年 4月	早稲田大学理工学部助手
平成 3年 4月	北海道大学工学部助手
平成 7年 4月	北海道大学工学部助教授
平成 9年 4月	北海道大学大学院工学研究科助教授
平成13年 9月	カリフォルニア大学バークレイ校客員研究員
平成14年 8月	
平成19年 4月	北海道大学大学院工学研究科准教授
平成22年 5月	北海道大学大学院工学研究院教授
平成29年 4月	北海道大学大学院工学研究院副研究院長
平成31年 3月	
平成31年 4月	北海道大学大学院工学研究院長・工学院院长・工学部長
令和 5年 3月	
令和 6年 4月	北海道大学理事・副学長



理事・副学長に

いしづか まゆみ
石塚 真由美 氏

石塚真由美氏は、令和8年4月1日付で、理事・副学長に発令されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

担 当

最高国際責任者、国際統括、サステイナビリティ統括、コンプライアンス統括、国際連携、留学生受入・派遣、環境整備、サステイナビリティ、コンプライアンス、ハラスメント対応、研究公正・利益相反、ダイバーシティ・インクルージョン（DEI）

兼務する職

国際連携推進本部長、サステイナビリティ推進機構長、ダイバーシティ・インクルージョン推進本部長、教育イノベーション機構長代理

略 歴

生 年 月 日	昭和44年12月10日
平成 6年 3月	北海道大学獣医学部卒業
平成10年 3月	北海道大学大学院獣医学研究科博士課程修了
平成10年 3月	博士（獣医学）（北海道大学）
平成10年 4月	北海道大学大学院獣医学研究科研究生
平成10年10月	
平成10年11月	日本学術振興会特別研究員
平成11年 1月	
平成11年 2月	任期付研究員（国立環境研究所環境健康部保健指標研究室）
平成12年 9月	
平成12年10月	北海道大学獣医学部助手
平成16年 4月	北海道大学大学院獣医学研究科助教授
平成19年 4月	北海道大学大学院獣医学研究科准教授
平成22年 6月	北海道大学大学院獣医学研究科教授
平成25年 4月	北海道大学大学院獣医学研究科副研究科長
平成29年 3月	
平成29年 4月	北海道大学大学院獣医学研究院教授
平成31年 4月	北海道大学総長補佐
令和 6年12月	
令和 3年 4月	北海道大学大学院獣医学院長
令和 7年 3月	
令和 7年 1月	北海道大学副理事
令和 8年 3月	



理事・副学長に

こうだ あきら
甲田 彰 氏

甲田 彰氏は令和6年4月1日から理事を務め、令和8年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き、同氏が理事・副学長として再任されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

担 当

最高財務責任者、財務統括、施設統括、情報統括、財務基盤強化、資産運用、施設・環境整備、安全衛生、情報基盤・DX、病院経営・再開発支援

兼務する職

施設・環境計画室長、情報環境推進本部長、安全衛生本部長

略 歴

昭和60年 3月 東京大学工学部卒業
 昭和60年 4月 東京海上火災保険株式会社
 平成11年 4月 東京海上火災保険株式会社個人商品業務部積立保険第2課課長
 平成14年 7月 科学技術振興事業団
 平成16年 1月 科学技術振興機構特別プロジェクト推進室調査役
 平成21年 4月 科学技術振興機構経営企画部調査役（戦略企画担当）
 平成23年 4月 科学技術振興機構人財部長
 平成27年10月 科学技術振興機構理事
 令和 5年 4月 科学技術振興機構副理事
 令和 6年 4月 北海道大学理事



理事・副学長・事務局長に

よこい まさお
横井 理夫 氏

横井理夫氏は、令和8年4月1日付で、理事・副学長・事務局長に発令されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

担 当

事務統括、リスク管理統括、社会連携統括、労務全般、リスク管理、事務組織改革、職員人事制度改革、障がい者対応、中央官庁調整、社会連携（自治体連携・大学間連携）

兼務する職

広報・社会連携本部長

略 歴

生 年 月 日 昭和47年2月24日
 平成 6年 3月 同志社大学経済学部卒業
 平成 6年 4月 文部科学省助成局教職員課
 平成16年 4月 石川県企画開発部企画課高等教育振興室長
 平成17年 4月 石川県企画振興部地域振興課高等教育振興室長
 平成18年 4月 文部科学省官房国際課専門官
 平成18年 9月 在中華人民共和国大使館一等書記官
 平成22年 4月 文部科学省初中局特別支援教育課特別支援教育企画官
 平成25年 7月 文部科学省科政局産業連携・地域支援課大学技術移転推進室長
 平成26年 9月 在中華人民共和国大使館一等参事官
 平成30年 4月 内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当）付参事官（イノベーション創出環境担当）
 令和元年 7月 文部科学省科政局企画評価課長
 令和 2年10月 文部科学省総合局地域学習推進課長
 令和 3年 7月 独立行政法人国立青少年教育振興機構理事
 令和 6年 4月 文化庁政策課長



理事（非常勤）に

クリスティーナ アメージャン
CHRISTINA AHMADJIAN 氏

CHRISTINA AHMADJIAN氏は令和6年4月1日から理事（非常勤）を務め、令和8年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き、同氏が再任されました。
任期は、令和10年3月31日までです。

担 当

大学ビジョン、経営改革

略 歴

昭和56年 6月 ハーバード大学東アジア研究学部卒業
昭和57年11月 } 三菱電機株式会社
昭和59年 2月 }
昭和60年 1月 } Shearson Lehman Brothers, Tokyo, Japan. Research Associate.
昭和60年 6月 }
昭和62年 9月 } Bain & Company, San Francisco, CA. Consultant.
昭和64年 1月 }
平成 6年12月 カリフォルニア大学バークレイ校経営学博士課程修了
平成 7年12月 Ph.D.（経営学）（カリフォルニア大学）
平成 7年 1月 } Columbia University, Graduate School of Business.
平成13年10月 } Assistant Professor.
平成12年 9月 } 東京大学 客員研究員
平成13年 9月 }
平成13年10月 } 一橋大学大学院国際企業戦略研究科助教授
平成16年 3月 }
平成16年 4月 } 一橋大学大学院国際企業戦略研究科教授
平成24年 3月 }
平成21年 6月 } エーザイ株式会社社外取締役
平成25年 6月 }
平成22年 4月 } 一橋大学大学院国際企業戦略研究科研究科長
平成24年 3月 }
平成24年 4月 } 一橋大学大学院商学研究科教授
平成30年 3月 }
平成24年 6月 } 三菱重工業株式会社社外取締役
令和 3年 6月 }
平成26年 6月 } 株式会社日本取引所グループ社外取締役
令和 4年 6月 }
平成30年 4月 } 一橋大学大学院経営管理研究科教授
令和 4年 4月 }
平成30年 6月 } 住友電気工業株式会社社外取締役
令和 7年 6月 }
令和元年 6月 } アサヒグループホールディングス社外取締役
令和 7年 3月 }
令和 2年 4月 } 東京理科大学非常勤講師
令和 5年 3月 }
令和 3年 6月 } 日本電気株式会社社外取締役
令和 7年 6月 }
令和 4年 4月 } 一橋大学名誉教授
令和 4年 4月 } 立教大学経営学部国際経営学科特任教授
令和 5年 3月 }
令和 4年 6月 } 日本特殊陶業株式会社社外取締役
令和 5年 1月 } 株式会社東京大学エッジキャピタルパートナーズ社外取締役
令和 6年 4月 } 北海道大学理事（非常勤）
令和 7年 6月 } 株式会社大和証券社外取締役
令和 7年 6月 } 株式会社ディスコ社外取締役



副学長に

よこた あつし
横田 篤 氏

横田 篤氏は令和2年10月1日から理事・副学長を務め、令和8年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き、同氏が副学長として再任されました。
任期は、令和9年3月31日までです。

担 当

創基150周年記念事業統括、同窓会・校友会連携、フロンティア基金統括

略 歴

生 年 月 日 昭和32年2月22日
昭和54年 3月 北海道大学農学部農芸化学科卒業
昭和56年 3月 北海道大学大学院農学研究科農芸化学専攻修士課程修了
昭和59年 3月 北海道大学大学院農学研究科農芸化学専攻博士後期課程修了
昭和59年 3月 農学博士（北海道大学）
昭和59年 4月 味の素株式会社中央研究所研究員
平成元年 3月 北海道大学農学部助手
平成 3年 4月 北海道大学農学部講師
平成 4年 4月 北海道大学農学部助教授
平成11年 4月 北海道大学大学院農学研究科助教授
平成12年 8月 北海道大学大学院農学研究科教授
平成18年 4月 北海道大学大学院農学研究院教授
平成24年 4月 } 役員補佐
平成25年 3月 }
平成25年 4月 } 北海道大学大学院農学研究院副研究院長、教育研究評議会評議員
平成27年 3月 }
平成27年 4月 } 北海道大学大学院農学研究院長・農学院長・農学部長
平成31年 3月 }
令和 2年10月 } 北海道大学理事・副学長
令和 8年 3月 }



副学長に

やまもと ふみひこ
山本 文彦 氏

山本文彦氏は令和2年10月1日から理事・副学長を務め、令和8年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き、同氏が再任されました。

任期は、令和9年3月31日までです。

担 当

アイヌ共生推進本部、附属図書館、大学文書館

兼務する職

アイヌ共生推進本部長、附属図書館長、大学文書館長

略 歴

昭和60年 3月 東北大学文学部卒業
 昭和62年 3月 東北大学大学院文学研究科博士課程前期修了
 平成 4年 3月 東北大学大学院文学研究科博士課程後期単位修得退学
 平成 4年 4月 北海道大学文学部助教授
 平成 6年 2月 博士（文学）（東北大学）
 平成12年 4月 北海道大学大学院文学研究科助教授
 平成19年 4月 北海道大学大学院文学研究科准教授
 平成21年 4月 北海道大学大学院文学研究科教授
 平成24年 4月 } 北海道大学大学院文学研究科副研究科長
 平成28年 3月 }
 平成26年 4月 } 北海道大学教育研究評議会評議員
 平成28年 3月 }
 平成28年 4月 } 北海道大学大学院文学研究科研究科長・文学部長
 平成31年 3月 }
 平成31年 4月 } 北海道大学大学院文学研究院長・文学部長
 令和 2年 3月 }
 令和 2年10月 } 北海道大学理事・副学長
 令和 8年 3月 }



副学長に

な す ほら やすゆき
南須原 康行 氏

南須原康行氏は令和7年4月1日から副学長を務め、令和8年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き、同氏が再任されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

担 当

病院経営・再開発

兼務する職

北海道大学病院長

略 歴

生 年 月 日 昭和38年2月11日
 昭和63年 3月 北海道大学医学部卒業
 昭和63年 6月 北海道大学医学部附属病院医員
 平成 8年 3月 博士（医学）（北海道大学）
 平成 8年10月 } インベリアル大学国立心肺研究所胸部疾患部門研究員
 平成11年 3月 }
 平成11年 4月 北海道大学病院助手
 平成17年 4月 北海道大学病院講師
 平成20年 4月 北海道大学病院准教授
 平成28年 4月 北海道大学病院病院長補佐
 平成29年 7月 北海道大学病院教授
 平成31年 4月 北海道大学病院副病院長
 令和 7年 4月 北海道大学副学長、北海道大学病院長



副学長に

ラ フェイ ミシェル
LA FAY MICHELLE 氏

LA FAY MICHELLE氏は令和7年4月1日から副学長を務め、令和8年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き、同氏が再任されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

担 当

新渡戸カレッジ

兼務する職

新渡戸カレッジ副校長

略 歴

平成 2年 5月 アメリカ合衆国カンザス州マクファーソン大学卒業
 平成 9年 3月 北海道大学大学院文学研究科修士課程修了
 平成15年 6月 北海道大学大学院文学研究科博士後期課程修了
 平成20年 4月 北海道教育大学教育学部講師
 平成23年 4月 北海道教育大学教育学部准教授
 平成26年 4月 北海道大学大学院文学研究科特任准教授
 平成28年 4月 北海道大学大学院文学研究科准教授
 平成31年 4月 北海道大学大学院文学研究院准教授
 令和 4年 4月 北海道大学大学院文学研究院教授
 令和 7年 4月 北海道大学副学長、新渡戸カレッジ副校長



副学長に

いしもり こういちろう
石森 浩一郎 氏

石森浩一郎氏は令和2年10月1日から副学長を務め、令和8年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き、同氏が再任されました。

任期は、令和9年3月31日までです。

担 当

半導体関連、化学反応創成研究拠点 (ICReDD)、EXEX 博士人材フェロシップ事業

兼務する職

半導体フロンティア教育研究機構長

略 歴

生 年 月 日 昭和36年5月12日
 昭和59年 3月 京都大学工学部卒業
 昭和61年 3月 京都大学大学院工学研究科修士課程修了
 平成元年 3月 京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了
 平成元年 3月 工学博士 (京都大学)
 平成元年 4月 京都大学工学部助手
 平成 7年10月 京都大学工学部助教授
 平成 8年 4月 京都大学大学院工学研究科助教授
 平成17年 4月 北海道大学大学院理学研究科教授
 平成18年 4月 北海道大学大学院理学研究院教授
 平成25年 4月 } 北海道大学役員補佐
 平成26年 3月 }
 平成25年10月 } 北海道大学創成研究機構副機構長
 平成26年 3月 }
 平成26年 4月 } 北海道大学大学院理学研究院副研究院長、教育研究評議会評議員
 平成27年 3月 }
 平成27年 4年 } 北海道大学大学院理学研究院院長・理学部長
 平成31年 3月 }
 令和 2年 2月 北海道大学創成研究機構化学反応創成研究拠点・大学院理学研究院教授
 令和 2年 2月 北海道大学創成研究機構化学反応創成研究拠点 エグゼクティブディレクター
 令和 2年10月 北海道大学副学長



副学長に

にしむら たかのり
西邑 隆徳 氏

西邑隆徳氏は令和6年4月1日から副学長を務め、令和8年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き、同氏が再任されました。

任期は、令和9年3月31日までです。

担 当

地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）
（リジェネラティブ農林水産業）

略 歴

生 年 月 日 昭和33年11月22日
 昭和58年 3月 北海道大学農学部卒業
 昭和59年 4月 } 北海道立新得畜産試験場技術吏員
 平成 3年 3月 }
 平成 3年 4月 北海道大学農学部助手
 平成 7年 9月 博士（農学）（北海道大学）
 平成 9年 4月 北海道大学農学部助教授
 平成11年 4月 北海道大学大学院農学研究科助教授
 平成18年 4月 北海道大学大学院農学研究院助教授
 平成19年 4月 北海道大学大学院農学研究院准教授
 平成22年 4月 北海道大学大学院農学研究院教授
 平成31年 4月 } 北海道大学大学院農学研究院長・農学院長・農学部長
 令和 5年 3月 }
 令和 6年 4月 北海道大学創成研究機構特任教授
 令和 6年 4月 北海道大学副学長
 令和 7年 1月 北海道大学総合イノベーション創発機構特任教授



副学長に

ささき まさとし
佐々木 雅寿 氏

佐々木雅寿氏は、令和8年4月1日付で、副学長に発令されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

担 当

学部入試改革

略 歴

昭和61年 3月 北海道大学法学部卒業
 平成元年 3月 北海道大学大学院法学研究科博士後期課程中途退学
 平成元年 4月 北海道大学法学部助手
 平成 2年 4月 大阪市立大学法学部助手
 平成 3年 4月 大阪市立大学法学部助教授
 平成 7年 3月 博士（法学）（北海道大学）
 平成13年10月 大阪市立大学法学部教授
 平成19年10月 北海道大学大学院法学研究科教授
 平成30年 4月 } 北海道大学大学院法学研究科副研究科長
 令和 2年 3月 }
 平成30年 4月 } 北海道大学法科大学院長
 令和 2年 3月 }
 令和 4年12月 } 北海道大学教育研究評議会評議員
 令和 6年12月 }
 令和 4年12月 } 北海道大学大学院法学研究科副研究科長
 令和 6年12月 }
 令和 6年12月 } 北海道大学大学院法学研究科研究科長
 令和 8年 3月 }



副学長に

はばざき ひろき
幅崎 浩樹 氏

幅崎浩樹氏は、令和8年4月1日付で、副学長に発令されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

担 当

グリーントランスフォーメーション（GX）関連

略 歴

昭和61年 3月 東北大学理学部卒業
 昭和63年 3月 東北大学大学院理学研究科博士前期課程修了
 昭和63年 4月 東北大学金属材料研究所助手
 平成 3年 6月 博士（理学）（東北大学）
 平成12年 4月 北海道大学大学院工学研究科助教授
 平成18年 4月 北海道大学大学院工学研究科教授
 平成22年 4月 北海道大学大学院工学研究院教授
 平成28年 4月 北海道大学大学院工学研究院附属エネルギー・
 平成31年 3月 } マテリアル融合領域研究センター長
 平成31年 4月 } 北海道大学教育研究評議会評議員
 令和 5年 3月 }
 平成31年 4月 } 北海道大学大学院工学研究院副研究院長
 令和 5年 3月 }
 令和 5年 4月 北海道大学大学院工学研究院院長・工学部長



副学長に

は せ がわ やす ひろ
長谷川 康弘 氏

長谷川康弘氏は、令和8年4月1日付で、副学長に発令されました。

任期は、令和9年3月31日までです。

担 当

経営企画、質保証（法人評価・機関別認証評価を含む）、
 ブランド戦略・広報、パブリックエンゲージメントに関する体制整備、創基150周年記念事業、古河講堂再生事業

兼務する職

質保証推進本部長、広報・社会連携本部長代理

略 歴

生 年 月 日 昭和36年4月5日
 昭和59年 4月 北海道大学
 平成23年 4月 北海道大学研究推進部産学連携課長
 平成25年 4月 北海道大学総務企画部企画課長
 平成28年 4月 北海道大学総務企画部次長（兼）企画課長
 平成30年 4月 北海道大学研究推進部長
 令和 4年 4月 北海道大学副理事



副理事に

やの りか 氏
矢野 理香 氏

矢野理香氏は、令和8年4月1日付で、副理事に発令されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和40年7月13日
 昭和62年 3月 北海道大学医療技術短期大学部卒業
 昭和63年 3月 聖路加看護大学卒業
 平成 4年 3月 聖路加看護大学大学院看護学研究科看護学専攻博士前期課程修了
 平成 5年 4月 北海道大学医療技術短期大学部助手
 平成 9年 4月 天使女子短期大学講師
 平成12年 4月 天使大学看護栄養学部講師
 平成16年 4月 北海道大学医学部保健学科講師
 平成20年 4月 北海道大学大学院保健科学研究院講師
 平成22年 9月 聖路加看護大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程修了
 平成22年 9月 博士（看護学）（聖路加看護大学）
 平成23年 4月 北海道大学大学院保健科学研究院准教授
 平成30年 2月 北海道大学大学院保健科学研究院教授
 令和元年 4月 } 北海道大学人材育成本部女性研究者支援室長
 令和 2年 3月 }
 令和 2年 4月 } 北海道大学人材育成本部ダイバーシティ・研究環境推進室長
 令和 4年 3月 }
 令和 3年 7月 } 北海道大学総長補佐
 令和 4年 3月 }
 令和 4年 4月 北海道大学副理事
 令和 4年 4月 北海道大学ダイバーシティ・インクルージョン推進本部副本部長
 令和 5年 4月 } 北海道大学大学院保健科学研究院長
 令和 7年 3月 }



副理事に

むらやま あきひろ 氏
村山 明宏 氏

村山明宏氏は、令和8年4月1日付で、副理事に発令されました。

任期は、令和9年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和35年9月10日
 昭和58年 3月 東北大学工学部卒業
 昭和60年 3月 東北大学大学院工学研究科修士課程修了
 昭和60年 4月 } 旭硝子（現AGC）株式会社
 平成13年 1月 }
 平成 7年 3月 東北大学大学院工学研究科博士課程修了
 平成 7年 3月 博士（工学）（東北大学）
 平成13年 2月 東北大学科学計測研究所助教授
 平成13年 4月 東北大学多元物質科学研究所助教授
 平成19年 4月 東北大学多元物質科学研究所准教授
 平成20年10月 北海道大学大学院情報科学研究科教授
 平成28年 4月 } 北海道大学大学院情報科学研究科副研究科長
 平成30年 3月 }
 平成29年 4月 } 創成研究機構副機構長
 令和 2年 9月 }
 平成29年 4月 } 北海道大学総長補佐
 令和 4年 3月 }
 平成31年 4月 北海道大学大学院情報科学研究院教授
 令和 2年11月 創成研究機構副機構長
 令和 5年 6月 北海道大学副理事



副理事に

てらうち いくお 氏
寺内 伊久郎 氏

寺内伊久郎氏は、令和8年4月1日付で、副理事に発令されました。

任期は、令和9年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和35年7月15日
 昭和59年 3月 早稲田大学理工学部卒業
 昭和59年 4月 } パナソニック株式会社 (現パナソニックHD)
 平成26年 2月 }
 平成26年 3月 北海道大学産学連携本部創造的知財創出部門長
 (兼) 産学連携法務室長
 平成27年 4月 北海道大学産学連携本部戦略企画部門長
 平成30年 4月 北海道大学産学・地域協働推進機構産学連携本部長
 平成31年 4月 北海道大学産学・地域協働推進機構産学連携推進本部長
 令和 2年12月 博士 (経営学) (北海道大学)
 令和 3年 8月 北海道大学産学・地域協働推進機構副機構長
 (兼) 産学連携推進本部長
 令和 6年 4月 北海道大学産学・地域協働推進機構産学連携グローバル推進室長
 令和 6年 4月 北海道大学副理事



副理事に

よしの まさのり 氏
吉野 正則 氏

吉野正則氏は、令和8年4月1日付で、副理事に発令されました。

任期は、令和9年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和32年6月7日
 昭和55年 4月 株式会社日立製作所
 平成 5年 株式会社日立製作所 主任技師 (部長代理)
 平成12年 株式会社日立製作所デジタルメディアグループ統括営業本部長
 平成18年 株式会社日立製作所ユビキタスプラットフォーム
 グループマーケティング本部 担当本部長
 平成23年 日立コンシューマエレクトロニクス株式会社社会インフラ
 事業推進本部 (現 生活インフラ事業推進本部) 本部長
 平成27年 株式会社日立製作所基礎研究センタ シニアプロジェクト
 マネージャー、北海道大学COI拠点長・客員教授
 平成28年 株式会社日立製作所 基礎研究センタ 日立北大ラボ ラボ長
 令和 4年 北海道大学産学・地域協働推進機構社会・地域創発本部長・特任教授
 令和 6年 4月 北海道大学副理事



副理事に

つちや つとむ
土屋 努 氏

土屋 努氏は、令和8年4月1日付で、副理事に発令されました。

任期は、令和9年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和35年5月5日
 昭和59年 3月 北海道大学法学部卒業
 昭和59年 4月 株式会社安田信託銀行
 平成 8年 4月 株式会社セラフ代表取締役CEO
 平成28年 7月 株式会社セラフ取締役会長
 平成31年 4月 北海道大学招へい教員
 令和 2年 1月 北海道大学招へい教員（客員教授）
 令和 2年12月 北海道大学産学・地域協働推進機構特任教授
 令和 3年 7月 北海道大学産学・地域協働推進機構産学連携推進本部スタートアップ創出部門長
 令和 4年 9月 北海道大学副理事
 令和 5年 4月 } 北海道大学産学・地域協働推進機構スタートアップ創出本部長
 令和 7年 3月 }
 令和 6年 5月 文部科学省アントレプレナーシップ推進大使



副理事に

さとう のりひろ
佐藤 典宏 氏

佐藤典宏氏は、令和8年4月1日付で、副理事に発令されました。

任期は、令和9年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和35年3月18日
 昭和60年 3月 北海道大学医学部卒業
 昭和60年 6月 北海道大学医学部附属病院第二内科医員（研修医）
 平成 7年10月 北海道赤十字血液センター研究課長
 平成13年 4月 北海道赤十字血液センター製剤副部長
 平成14年11月 北海道大学医学部附属病院講師
 平成14年11月 } 北海道大学医学部附属病院輸血部副部長
 平成19年 3月 }
 平成21年 7月 北海道大学病院教授
 平成21年 7月 } 北海道大学病院高度先進医療支援センター（現北
 令和 7年 3月 } 海道大学病院臨床研究開発センター）センター長
 平成23年 4月 } 探索医療教育研究センター（兼務）
 平成26年10月 }
 平成28年 4月 } 北海道大学病院病院長補佐
 現 在 }
 平成30年 1月 } 北海道大学国際連携教育研究局
 令和 3年 4月 }
 平成31年 4月 } 北海道大学病院先端診断技術開発センター センター長
 令和 7年 3月 }
 令和元年12月 } 北海道大学病院医療機器開発推進センター センター長
 令和 7年 3月 }
 令和 2年10月 } 北海道大学総長補佐
 令和 6年 3月 }
 令和 4年 7月 北海道大学病院医療・ヘルスサイエンス研究開発機構 機構長
 令和 4年10月 北海道大学総合イノベーション創発機構ワクチン研究開発拠点副拠点長・同臨床開発部門長
 令和 6年 4月 北海道大学副理事



副理事に

もんで けんじ 氏
門出 健次 氏

門出健次氏は、令和8年4月1日付で、副理事に発令されました。

任期は、令和9年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日	昭和36年7月30日
昭和59年 3月	北海道大学理学部卒業
昭和63年 3月	北海道大学大学院理学研究科博士課程中退
昭和63年 4月	北海道大学理学部助手
平成 5年 3月	博士（理学）（北海道大学）
平成 6年 3月	米国コロンビア大学博士研究員
平成 8年 7月	東北大学反応科学研究所助手
平成13年 4月	東北大学多元物質科学研究所助手
平成13年 7月	北海道大学理学部助教授
平成18年 4月	北海道大学大学院先端生命科学研究院助教授
平成19年 4月	北海道大学大学院先端生命科学研究院准教授
平成22年 4月	北海道大学大学院先端生命科学研究院教授
平成25年 4月	北海道大学大学院先端生命科学研究院附属
平成28年 3月	次世代ポストゲノム研究センター長
平成25年 4月	北海道大学大学院先端生命科学研究院副研究院長
平成31年 3月	
平成28年 4月	北海道大学大学院先端生命科学研究院附属
令和 7年 3月	次世代物質生命科学研究センター長
平成31年 4月	北海道大学大学院先端生命科学研究院長
令和 5年 3月	
平成31年 4月	理化学研究所客員主管研究員
令和 5年 3月	
令和 5年 4月	北海道大学総長補佐
令和 6年 3月	
令和 6年 4月	内閣府上席科学技術政策フェロー
令和 6年 4月	北海道大学副理事



副理事に

むねとも まさはる 氏
棟朝 雅晴 氏

棟朝雅晴氏は、令和8年4月1日付で、副理事に発令されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日	昭和43年9月10日
平成 3年 3月	北海道大学工学部卒業
平成 5年 3月	北海道大学大学院工学研究科修士課程修了
平成 5年 3月	修士（工学）（北海道大学）
平成 8年 3月	北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了
平成 8年 3月	博士（工学）（北海道大学）
平成 8年 4月	北海道大学工学部助手
平成 9年 4月	北海道大学大学院工学研究科助手
平成10年 6月	イリノイ大学 Visiting Scholar（客員研究員）
平成11年 3月	
平成11年10月	北海道大学情報メディア教育研究総合センター助教授
平成15年 4月	北海道大学情報基盤センター助教授
平成19年 4月	北海道大学情報基盤センター准教授
平成24年 8月	北海道大学情報基盤センター教授
平成25年 4月	北海道大学情報基盤センター副センター長
平成31年 3月	
平成27年 4月	北海道大学情報環境推進本部情報化統括責任者補佐役
平成31年 4月	北海道大学情報化推進室長
平成31年 4月	北海道大学情報基盤センター長
令和 6年 4月	北海道大学副理事



副理事に

おかだ みやこ 氏
岡田 美弥子 氏

岡田美弥子氏は、令和8年4月1日付で、副理事に発令されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和39年7月31日
 平成 7年 3月 北九州大学商学部卒業
 平成 9年 3月 神戸大学大学院経営学研究科博士前期課程修了
 平成12年 9月 神戸大学大学院経営学研究科博士後期課程修了
 平成12年 9月 博士（経営学）（神戸大学）
 平成12年 4月 } 関西学院大学商学部非常勤講師
 平成13年 3月 }
 平成13年 4月 北海道大学大学院経済学研究科講師
 平成15年 4月 北海道大学大学院経済学研究科助教授
 平成19年 4月 北海道大学大学院経済学研究科准教授
 平成29年 4月 北海道大学大学院経済学研究院准教授
 平成30年10月 北海道大学大学院経済学研究院教授
 平成31年 4月 } 北海道テレビ放送番組審議会委員長
 令和 7年 3月 }
 令和元年 6月 北海道瓦斯株式会社社外取締役
 令和 2年10月 } 北海道大学総長補佐
 令和 8年 3月 }
 令和 7年 4月 北海道大学経済学部経営学科長
 令和 7年 6月 日本放送協会（NHK）経営委員会委員
 令和 8年 3月 日本放送協会（NHK）監査委員会委員



副理事に

はが ひさし 氏
芳賀 永 氏

芳賀 永氏は、令和8年4月1日付で、副理事に発令されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和42年1月14日
 平成元年 3月 北海道大学理学部卒業
 平成元年 4月 } 大同ほくさん株式会社研究職
 平成元年 6月 }
 平成 4年 3月 北海道大学大学院理学研究科修士課程修了
 平成 6年 4月 } 日本学術振興会特別研究員
 平成 8年 3月 }
 平成 7年 3月 北海道大学大学院理学研究科博士後期課程修了
 平成 7年 3月 博士（理学）（北海道大学）
 平成 7年 6月 } アメリカ合衆国マサチューセッツ工科大学博士研究員
 平成 9年 3月 }
 平成 9年 3月 北海道大学大学院理学研究科助手
 平成14年11月 北海道大学大学院理学研究科助教授
 平成18年 4月 北海道大学大学院理学研究院助教授
 平成19年 4月 北海道大学大学院理学研究院准教授
 平成22年 4月 北海道大学大学院先端生命科学研究院准教授
 平成25年 5月 北海道大学大学院先端生命科学研究院教授
 令和 5年 4月 北海道大学大学院先端生命科学研究院長



副理事に

たかぎ やすあき
都木 靖彰 氏

都木靖彰氏は、令和8年4月1日付で、副理事に発令されました。

任期は、令和9年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和36年6月11日
 昭和59年 3月 北海道大学水産学部卒業
 昭和61年 3月 北海道大学大学院水産学研究科修士課程修了
 平成元年 4月 日本学術振興会特別研究員
 平成 2年 3月 北海道大学大学院水産学研究科博士後期課程修了
 平成 2年 3月 水産学博士（北海道大学）
 平成 3年 5月 東京大学海洋研究所附属大槌臨海研究センター助手
 平成14年 4月 北海道大学大学院水産科学研究科教授
 平成17年 4月 北海道大学大学院水産科学研究院教授
 平成30年 4月 } 北海道大学教育研究評議会評議員
 令和 4年 3月 }
 令和 4年 4月 } 北海道大学大学院水産科学研究院長・
 令和 8年 3月 } 水産科学院長・水産学部長



副理事に

みやした かずし
宮下 和士 氏

宮下和士氏は、令和8年4月1日付で、副理事に発令されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和43年7月16日
 平成 3年 3月 北海道大学水産学部卒業
 平成 5年 3月 北海道大学大学院水産学研究科修士課程修了
 平成 8年 3月 東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了
 平成 8年 3月 博士（農学）（東京大学）
 平成 8年 5月 } 日本学術振興会特別研究員
 平成 9年 3月 }
 平成 9年 4月 } 海洋水産資源開発センター調査員
 平成10年 3月 }
 平成10年 3月 北海道大学水産学部助教授
 平成19年 4月 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター准教授
 平成23年 7月 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授
 令和 4年 4月 } 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター長
 令和 8年 3月 }



副理事に

くろいわ あさと
黒岩 麻里 氏

黒岩麻里氏は、令和8年4月1日付で、副理事に発令されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和48年6月27日
 平成 9年 3月 名古屋大学農学部卒業
 平成14年 3月 名古屋大学大学院生命農学研究科博士課程後期課程修了
 平成14年 3月 博士（農学）（名古屋大学）
 平成13年 4月 } 日本学術振興会特別研究員
 平成15年 9月 }
 平成15年10月 北海道大学先端科学技術共同研究センター講師
 平成17年 4月 北海道大学創成科学共同研究機構講師
 平成20年11月 北海道大学大学院理学研究院講師
 平成21年 4月 北海道大学大学院理学研究院准教授
 平成28年 4月 北海道大学大学院理学研究院教授
 平成29年 4月 } 北海道大学総長補佐
 令和 8年 3月 }
 令和 7年 4月 北海道大学大学院理学研究院副研究院長



副理事に

ひらまつ とおる
平松 亨 氏

平松 亨氏は、令和8年4月1日付で、副理事に発令されました。

任期は、令和9年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和39年12月10日
 昭和58年 4月 北海道大学
 平成15年 4月 北海道大学総務部人事課専門職員（定員管理・運用担当）
 平成16年 4月 北海道大学総務部人事課任用計画係長
 平成18年 4月 北海道大学企画部企画調整課企画調整係長
 平成19年 4月 北海道大学企画部企画調整課係長（企画調整担当）
 平成22年 4月 北海道大学総務部人事課課長補佐
 平成23年 4月 北海道大学総務企画部企画課課長補佐
 平成26年 4月 北海道大学総務企画部人事課課長補佐
 平成28年 4月 北海道大学総務企画部人事課厚生労務室長
 平成30年 4月 北海道大学総務企画部企画課長
 令和 3年 4月 北海道大学総務企画部総務課長
 令和 4年 4月 北海道大学総務企画部次長（兼）総務課長
 令和 6年 4月 } 北海道大学総務企画部長
 令和 8年 3月 }



監事に

たかはし ともえ
高橋 朋江 氏

高橋朋江氏は、令和2年9月1日から監事を務めています。
任期は、令和10年6月30日までです。

略 歴

昭和59年 3月 北海道大学理学部卒業
昭和60年 4月 北海道庁
平成25年 4月 北海道庁総務部法人局大学法人室参事
（北海道公立大学法人札幌医科大学（参事）派遣）
平成27年 6月 北海道庁総合政策部政策局参事（総合教育）
平成29年 4月 北海道庁石狩振興局副局長
令和元年 6月 北海道庁総務部参与（北海道公立大学法人札幌
医科大学（事務局長）派遣）
令和 2年 9月 北海道大学監事（常勤）



監事（非常勤）に

きたむら よしたか
北村 好孝 氏

北村好孝氏は、令和6年9月1日から監事（非常勤）を務
めています。

任期は、令和10年6月30日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和43年9月5日
平成 4年 3月 北海道大学経済学部卒業
平成 7年 4月 センチュリー監査法人（現EY新日本有限責任監査法人）札幌事務所
平成19年 7月 北村好孝公認会計士事務所代表
平成23年 8月 監査法人ライトハウス理事長代表社員
令和 6年 9月 北海道大学監事（非常勤）

■全学ニュース

令和7年度学位記授与式の挙

令和7年度学士学位記授与式



学位記を受ける総代



札幌キャンパス会場の様子

令和7年度学士学位記授与式を3月25日（水）に、第一体育館において挙

行了しました。
学位記授与式は、来賓、役員、学部長の列席の下、北海道大学交響楽団による「エルムの鐘」の演奏の後開始され、水産学部を除く11学部及び現代日本学プログラム課程の卒業生2,288名（獣医学部共同獣医学課程のうち、帯広畜産大学が本籍の者を除く）を代表し、各学部の総代へ学部長から学士学位記が授与されました。また、新渡戸カレッジの修了者44名を代表し、総代へ寶金清博総長から修了証書が授与されました。

寶金総長は告辞の中で、「皆さんが学位と共に得た専門知識と広範な適応能力をもってすれば、必ず、持続可能なWell-being社会の未来を創造するフロントランナーとして活躍すると確信している」と述べ、「クラーク先生の『Be ambitious』の精神を胸に、学びを続け、挑戦を続け、勇気をもって、この困難な時代を堂々と歩み、光を北

から放ち、その光が世界を照らすことを期待しています」との言葉を贈りました。

続けて、北海道大学校友会エルム会長真弓明彦氏は祝辞の中で、ミケランジェロの格言「我々にとって最も危険なことは、目標が高すぎて失敗することではなく、低すぎる目標を達成することだ」を引用し、「誇りと自信を持ち、失敗を恐れず、挑戦を続けてください」と卒業生へはなむけの言葉を贈りました。

その後、出席者全員による「都ぞ弥生」の斉唱で式は終了しました。

翌日3月26日（木）には、プレミアホテル -CABIN PRESIDENT- 函館において、水産学部の学位記授与式が挙行されました。

式典では、水産学部卒業生191名を代表し、各学科の総代へ、水産学部長から学士学位記が授与され、新渡戸カレッジの修了者には、山本文彦新渡戸カレッジ校長代理から修了証書が授与されました。



告辞を述べる寶金総長



祝辞を述べられる真弓会長



学位記を受ける総代（函館キャンパス）

令和7年度修士・専門職学位・博士学位記授与式

令和7年度修士・専門職学位・博士学位記授与式を、学士学位記授与式の終了後に、第二体育館において挙行しました。

役員、研究科等の長の列席の下、水産科学院を除く16研究科等の修士課程修了者1,442名を代表し、各研究科等の総代へ修士学位記が、また、法科大学院（法学研究科法律実務専攻）修了者40名、経済学院会計情報専攻修了者15名及び公政策学教育部公政策学専攻修了者29名を代表し、各研究科等の総代へ専門職学位記が、各研究科等の長から授与されました。

引き続き、18研究科等の博士課程修了者289名、論文博士8名を代表し、各研究科等の総代へ、寶金清博総長から博士学位記が授与されました。

この後、寶金総長より告辞があり、最後に北海道大学交響楽団による「都ぞ弥生」の演奏で、式は締めくくられました。

翌日3月26日（木）には、プレミアホテル -CABIN PRESIDENT- 函館において、水産科学院の修士課程修了者98名を代表し、各専攻の総代へ水産科学院長から修士学位記が、また、博士課程修了者17名に対し、寶金総長から博士学位記が授与されました。

学部・研究科等別の卒業者数、修了者数及び論文博士授与者数は以下のとおりです。

博士学位記授与者については、本号82ページに掲載しています。

（学務部学務企画課）



学位記を受ける総代（札幌キャンパス）



函館キャンパス会場の様子

学部別卒業生数一覧

学部名	卒業生
文学部	180
教育学部	61
法学部	215
経済学部	192
理学部	306
医学部	284
歯学部	41
薬学部	76
工学部	669
農学部	206
獣医学部	(81) 44
水産学部	191
現代日本学プログラム課程	14
計	(2,516) 2,479

括弧書きの数字は本学及び帯広畜産大学の合計数

研究科等別大学院修士課程・専門職学位課程修了者数一覧

研究科等名	修了者	研究科・教育部・専攻名	修了者
法学研究科	13	法科大学院（法学研究科法律実務専攻）	40
水産科学院	98	経済学院会計情報専攻	15
環境科学院	139	公政策学教育部公政策学専攻	29
理学院	110		
農学院	140		
生命科学院	100		
教育学院	36		
国際広報メディア・観光学院	44		
保健科学院	47		
工学院	(350) 337		
総合化学院	136		
経済学院	24		
医学院	15		
医理工学院	9		
国際食資源学院	14		
文学院	93		
情報科学院・情報科学研究科	185		
計	(1,553) 1,540	計	84

括弧書きの数字は本学及び九州大学の合計数

研究科等別大学院博士課程修了者及び論文博士数一覧

研究科等名	課程博士	論文博士
法学研究科	2	
水産科学院	17	
環境科学院	21	
理学院	18	
農学院	23	2
生命科学院	21	1
教育学院	9	2
国際広報メディア・観光学院	4	
保健科学院	15	
工学院	28	1

研究科等名	課程博士	論文博士
総合化学院	20	
経済学院	1	
医学院・医学研究科	42	
歯学院・歯学研究科	23	
獣医学院	12	
医理工学院	0	
国際感染症学院	7	1
国際食資源学院	7	1
文学院・文学研究科	21	
情報科学院	15	
計	306	8

学士学位記授与式

北海道大学総長 寶金 清博

本日、本学を卒業される2,479名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。北海道大学を代表して、心からお祝い申し上げます。

また、皆さんを支えてこられたご家族、関係者の皆さまに対しても、心よりお祝いと御礼を申し上げます。さらに、この間、本学へのご支援をいただいた方々には、この場を借りて、深く御礼申し上げます。また、本日は、アメリカ合衆国領事のご臨席を賜り、深く感謝申し上げます。

本日、学位を授与される皆さんへお祝いと期待を込めて、学位の意味、高等教育の意味をお伝えしたいと思います。

大学の最も重要な使命の一つは、学生に対して、高度な教育の場を提供し、研究を支援し、その評価を行い、学位に相応しい業績を上げた人に対して学位を授与するという、学位授与機関としての使命です。これは、社会に存在する全ての組織の中で、大学に与えられた重要な権限であり、同時に、責任でもあります。

また、学位を授与された皆さんにも大きな責任と権限が与えられます。それは、これから先の社会が、どのような社会になるのか、言い換えれば、混乱と絶望の社会になるか、あるいは、持続可能なWell-being社会になるかは、高等教育を受け、学位を授与された皆さんの双肩にかかっているということを意味しています。

これまで、日本は、数千年の歴史の中で、徐々に人口を増加させ、特に明治維新以降は、爆発的に人口を増加してきました。この人口増加は、世界でも見られ、世界の人口は現在80億人を超過しており、2080年くらいまでは増加を続け、100億人を超過とされています。

しかし、日本社会は今、かつて経験したことのない規模の人口減少という大きな転換点を迎えています。本日、学位を授与された皆さんは、この人口減少社会という歴史的な変化を真正面から受け止めながら、新しい時代の姿を構想し、形にしていく世代です。明治維新以降、社会は拡張と成長を前提に発展してきました。しかし、私たちは今、その前提そのものを見直す局面に立っています。これまでに確立されたモデルでは十分な答えを見出しにくいからこそ、皆さんの新しい発想と挑戦が求められているのです。

加えて、近年、私たちを取り巻く世界情勢は劇的な変化

を続けています。まず、この数十年、気候変動により、地球環境の持続可能性に対する脅威が明確に可視化されました。また、緊張を増す地政学的環境の変化の中で、国際秩序の行方は大変に不透明になっています。

さらに、私たちの先人が、歴史の教訓から学んできた人道主義や多様性の価値についても逆風があります。また、科学技術の進歩やイノベーションが真に持続可能なWell-being社会をもたらすかということも議論され、科学そのものに対する疑念も生まれています。一方で、生成AIの登場は、人間の知性の在り方に対する根本的な問いを投げかけ、私たちの社会や日常に大きな変化をもたらしています。

こうして見ると、世界の課題先進国である日本社会の人口減少、世界の価値観の動揺、地球の持続性に対する懸念、人間の知性に対する人工知能の挑戦など、従来とは違った根源的な不安が、今のこの時代を覆っています。先行きの見えない不透明感と不確実性が世界を支配しています。

しかし明確なことは、私たちの今の時代は、「次の時代への移行期」であるという事実です。そして、その行方を決めるのは、他にもない、まさに本日学位を授与された皆さんであり、皆さん以外にはあり得ないということです。皆さんを私たちは、未来を切り拓く「フロンランナー」と称します。

今、述べたように、日本の将来、世界の行く末が、どれほど不透明で不確実であっても、皆さんが学位と共に得た専門知識と広範な適応能力をもってすれば、必ず、持続可能なWell-being社会の未来を創造するフロンランナーとして活躍するものと、私は確信しています。

北海道大学は、今年、創基150周年を迎えます。この150周年を迎える私たちが選んだ言葉は、「光は北から」というメッセージです。光は、まさに、ここにいらっしゃる皆さん一人一人を意味しています。皆さん一人一人の強い一条の光が、一隅を照らし、それは、やがて重なり合って、世界を照らすでしょう。私は「光は北から」という言葉に続けて、「北から世界へ」という言葉を続けています。どうか、皆さんの北からの光が世界を照らすことを期待しています。

本日の学位記授与式の最後に、本学の礎を築いた、札幌農学校初代教頭であるW.S.クラーク博士の人生について、

改めて、皆さんにお伝えしたいと思います。なぜなら、彼の生き方は、150年の時間を経てもなお、この2026年の私たち、あなたたちの生き方に対する大きなinspirationを与えるからです。

クラーク先生は、今から150年前、1876年明治政府の依頼を引き受け、アメリカ大陸を横断し、太平洋を渡り、東京で英語を学んだ学生13名と共に、北海道にやってきます。当時の明治政府はまだ極めて不安定であり、また、当時の極東の地政学的状況は今以上に不透明でした。

札幌農学校の礎を築くというミッションを成し遂げると、彼は、「Boys, be ambitious, like this old man!」という、実にシンプルで、心に突き刺さるメッセージを残して、札幌を去ります。

これらのことから私たちが明確に読み取れるのは、彼の人生が、生涯を通じて、チャレンジそのものであったという事実です。クラーク先生の生涯は、学術や教育に留まら

ず、世界・社会を変えようとし続けたものであり、彼自身の言葉通りambitionに満ちた果敢な人生でした。

そして、クラーク先生と彼に同行した教師たちが目指したグローバル人材育成の結晶が、新渡戸稲造であり、内村鑑三であり、宮部金吾です。そして、150年の歳月を経て、こうした先人のDNAを受け継ぐ後継者が、ここにいる皆さん一人一人です。

皆さんは、私たちの最高のロールモデルであるクラーク先生の「Be ambitious」の精神を胸に、学びを続け、挑戦を続け、勇気をもって、この困難な時代を堂々と歩み、光を北から放ち、その光が世界を照らすことを期待しています。

卒業生の皆さんのご健康と今後の大いなるご活躍を心から祈念して、私の結びの言葉といたします。

令和8年度入学式の挙行

4月6日（月）、創基150周年を迎える令和8年度入学式を、札幌農学校初代教頭W.S.クラーク博士ゆかりの地である北広島市のエスコンフィールドHOKKAIDOにて執り行いました。特別な会場での開催にあたり、式典開始前から会場内では様々な企画が行われ、新入生と保護者を対象としたフィールドウォークには開始直後から多くの参加者がありました。

式典は、来賓の校友会エルム会長の真弓明彦氏、在札幌米国総領事館首席領事のユキ・近藤シャー氏、中華人民共和国駐札幌総領事館総領事の王 根華氏、北海道大学第18代総長の山口佳三氏、本学総長顧問の千本倅生氏、本学協定締結機関等の方々、エクセレントビジョナリスポンサー及びビジョナリスポンサーの方々、役員、副学長及び学部長等の列席の下、新渡戸カレッジフェローの森 順子さんが司会を務め、北海道大学交響楽団による

「エルムの鐘」の演奏により開式され、寶金清博総長から新入生に対し告辞が述べられました。

寶金総長は告辞の中で、北海道大学創基150周年という節目に、初めてエスコンフィールドHOKKAIDOで入学式を挙行した意義に触れ、本学が歩んできた歴史を振り返られました。また、札幌キャンパスの地が先住民族であるアイヌの人々の暮らしと深く結びついてきた歴史に言及し、多様性と多文化共生を重んじる北海道大学の姿勢を示されました。さらに、生成AIの進展による大きな社会変革の時代において、「Be Ambitious」の精神のもと、新入生たちが本学において社会課題を解決する幅広い知と力を身につけていくことへの期待が述べられました。

総長告辞に続いて、2,588名の入学者を代表して戸上棋里矢さんによる入学者宣誓が行われました。その後、来賓、本学理事、監事、副学長及び学部

長等の紹介が行われ、鈴木直道北海道知事、秋元克広札幌市長、「こども本の森 札幌・北大」を手掛けた建築家安藤忠雄氏、その名誉館長である漫画家 ヤマザキマリ氏らから寄せられたビデオメッセージが大型ビジョンで放映されました。

続いて、千本総長顧問による講演が行われ、失敗しないよりも挑戦すること、成功より失敗から多くを学ぶことなど、新入生への道標となる熱い激励メッセージが贈られました。その後、北海道大学チアリーディング部による演技、北海道大学応援団による演舞、北海道大学合唱団による合唱、北海道大学交響楽団による演奏の後、北海道大学交響楽団及び北海道大学合唱団による「都ぞ弥生」の演奏・斉唱が行われ、式は終了しました。

(学務部学務企画課)



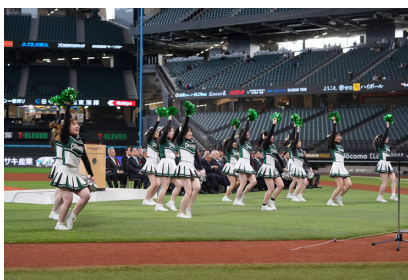
会場の様子



告辞を述べる寶金総長



総代による入学者宣誓



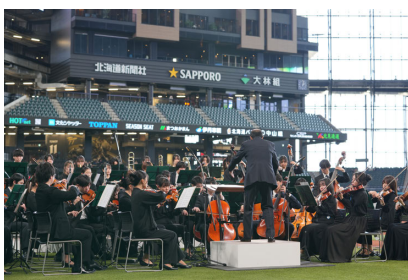
北海道大学チアリーディング部による演技



北海道大学応援団による演舞



北海道大学合唱団による合唱



北海道大学交響楽団による演奏



千本総長顧問による講演

令和8年度入学式

北海道大学総長 寶金 清博

2,588人の学部新入生の皆さん、本日は、北海道大学ご入学、誠におめでとうございます。

北海道大学を代表して、皆さんのご入学を心からお祝い申し上げます。また、本日は多くのご家族の皆様にもご臨席いただいております。皆様に対しましても、心からお祝い申し上げます。

本日の入学式では、この後、大型ビジョンにてビデオメッセージが放映され、多くの方々からのお祝いの言葉が届けられます。この150年という特別な節目の時に北海道大学へ入学された皆さんに寄せる大きな期待が語られます。どうぞご期待ください。

本日はまた、本学と連携しております主な自治体、企業そして寄附者の皆様にも入学式へご案内申し上げたところ、多数ご出席いただきました。ご多忙のところ、誠にありがとうございます。また、在札幌米国総領事館首席領事ユキ・近藤シャー様、中華人民共和国駐札幌総領事館総領事 王根華様のご臨席をいただき、感謝申し上げます。

さらに、ペナントレースが開始している中、本入学式をエスコンフィールドHOKKAIDOで執り行うにあたり、大変なご尽力をいただきました株式会社ファイターズスポーツ&エンターテイメント様に、心より御礼申し上げます。

さて、本日の入学式は、ここ北広島市にあるエスコンフィールドで挙行いたしました。この場所で入学式を行うのは、長い北海道大学の歴史の中でも初めての試みです。

先ほど申し上げたように、このエスコンフィールドでは、昨日まで、プロ野球パシフィック・リーグの公式戦が行われておりました。従って、この入学式のリハーサルはできず、本学職員が、今朝早朝から、手作りでの準備を全力で進めてきました。そのため、入学式の中で、至らぬところがあり、皆様にご迷惑をおかけすると思えます。ただ、私たち北海道大学は、「Be Ambitious」を最も大切な言葉にしています。この入学式が、チャレンジそのものであり、Ambitiousそのものですので、どうか、そのようにご理解いただき、この何が起こるかかわからない入学式を楽しんでいただければ幸いです。

最初に、なぜ入学式をこの北広島のエスコンフィールドで行うのか、そしてそれに関連して、北海道大学の歴史についてお話ししたいと思います。

今から150年前の1876（明治9）年、欧米の大学に匹敵する高等教育機関を目指し、明治政府により「札幌農学校」が設立されました。これが北海道大学の前身であり、日本で最も早く設立された高等教育機関の一つです。

札幌農学校では、米国流のリベラルアーツ教育が行われていました。「リベラルアーツ」とは、「幅広い一般教養」を意味します。設立当初から、農学のみならず、数学、化学、生物学、さらには歴史学や経済学に至るまで、多様な基礎教育が英語で実施されていたことは、本当に驚くべきことです。これは今日（こんにち）においても、極めて先進的なことであり、現在、北海道大学が国際的な教育基盤の強化を進めている原点は、まさに150年前の札幌農学校にあります。

以来、北海道大学はリベラルアーツ教育を通じて、四つの基本理念を培ってきました。すなわち、新しい学問領域を探索する「フロンティア精神」、国際人としての素養を身に付け、多様性を尊重する「国際性の涵養」、人間形成の基盤を培う「全人教育」、そして、得られた成果を社会に還元する「実学の重視」です。

また、本学の札幌キャンパスは、日本でも有数の多様性とスケールを誇り、四季を通じて美しく、他に類を見ない素晴らしい大学キャンパスです。また、函館キャンパスや多くの地方研究施設、さらに日本最大の研究林を含めると、本学は大学が保有する土地面積として日本最大規模を誇ります。こうした環境から、持続可能性や多様性といった、北海道大学の価値が生まれています。

ここで、新入生の皆さんにぜひ知っておいていただきたいことがあります。札幌キャンパスの地は、札幌農学校が設置される以前、先住民族であるアイヌの人々が暮らし、日々の生活を営んでいた場所でした。水や緑に恵まれた豊かな土地は、アイヌの人々にとっても、大切な生活の場であったと想像されます。この地に学ぶ私たちは、こうした歴史を忘れてはならないと思います。この歴史を学ぶことは、民族的多様性の尊重や多文化共生というグローバルな目標を目指す北海道大学の進むべき方向を改めて認識することにつながります。

本年3月には、アイヌ民族がこの地で長い歴史と文化的なつながりを持ってきたことに深く敬意を表し、歴史的経緯を語り継ごうという、私たちの思いを込めた掲示を大学正門付近に設置しました。ぜひご覧ください。

本年は北海道大学創基150周年にあたる記念すべき年であり、多くの記念事業を予定しています。その一環として、本日のエスコンフィールドでの入学式を挙げていただきました。

北海道大学の前身である札幌農学校初代教頭のW. S. クラーク博士が、「青年よ、大志を抱け」「Be Ambitious」という言葉を馬上から残し、一期生に見送られて米国に帰国されたのは、今から150年前、1877（明治10）年4月のことです。その最後の別れの地が、ここ北広島市でした。まさに、皆さん、北大創基150年目の入学生を迎えるに相応しい土地です。

本日お配りしている『北大と北大生の150年』は、北海道大学の歩みが日本の近現代史と重なっていることを理解できる一冊です。ぜひお読みください。

今、世界は大きな転換点に差し掛かっています。人工知能、すなわちAIが世界を変えつつあります。その変化のスピード、人間社会に与えたインパクトの大きさは、私たちの想像を遥かに超えるものです。

私たち人間の脳が持つ能力には、知性、感性、理性の三つがあります。

まず、知性に関して。人間の言語が持つ曖昧さを扱うことのできるLarge Language Modelの登場により、様々な文章や論文を生成するAI、教育や学習を支援するAIなどが急速に発展し、人間の知性の一部をすでに凌駕しています。

では、感性はどうでしょうか。Large Language Modelを基盤としたAIの誕生からほどなくして、画像・動画・音声といった多様なデータを扱う生成AIが登場しました。これにより、絵画、音楽、映画など、長らく人間の感性のみが担うと考えられてきた領域にあっていう間にAIが入り込むようになりました。

さらに、近年では、生成AIの一形態として、DNAやRNAなどの遺伝子配列を読み取るGenomic Language Modelが出現し、人間や生命体そのものをAIが分析するようになりました。

このように、人間が持つ知性・感性・理性の三つの能力のうち、知性と感性については、生成AIが急速に追いつきつつあります。実際、近年では自律型のAI Agentも活躍しており、モルトブックというAIエージェント同士が対話するSNSまで登場しています。

今後、人間に匹敵する汎用型人工知能、すなわちAGI（Artificial General Intelligence）が実用化されるのは時間の問題とも言われています。ある種の感情を含む、Creativeな能力においても、AIは人間に迫りつつあります。

どの学術分野においても、このAIの時代に生きるには、皆さんも含めて私たち教職員も、知性・感性・理性の磨き方を根本から考え直す必要があります。

文学部、経済学部、教育学部、法学部などに入学された皆さんが将来関わる行政、金融、教育といった分野においても、AIによって職務が代替される可能性が指摘されています。同様に、工学部、理学部、農学部、水産学部で学ぶ皆さんにとっても、AIの脅威は決して他人事ではありません。実際、シリコンバレーでは、生成AIの登場によって職を失ったのが、理系人材であったとされています。医学、薬学、獣医学、歯学などの生命科学・ヘルスサイエンス分野においても、診断、治療、創薬といった領域で、すでにAIの活用が進み、人間の関与が大幅に減り始めています。

さらに、全ての研究分野において、人の介入を必要としない、いわゆる「光のいない研究室」、すなわちDark Labが出現しつつあります。AIが自ら研究計画を立案し、実験・測定を行い、結論を導き出す時代は決して遠い未来ではありません。すでに、Dark Labは一部で実用化されています。

入学の日にふさわしくない話をしてしまったかもしれません。しかし、人間には理性があります。AIによる急激な社会変化の中にあっても、次の時代への大きな転換期を、自らの手で創り出すことができると、私は確信しています。そして、それに向けて、私たち大学自身も変革していく必要があります。

皆さんは、AIの時代を切り開き、AIを生かし、これを使いこなしながら、少子化、環境問題、エネルギー問題といった社会課題を解決していくフロントランナーです。

皆さんの時代には、月面での長期滞在が実現し、人類が火星へ到達し、核融合などの持続可能なエネルギー源が実用化され、多くの疾患が遺伝子編集などの新しい治療法で克服されるでしょう。環境を再生させながら食糧を安定供給する技術が定着し、世界の平和を維持する新たな仕組みが生まれる時代であるべきです。北海道は、自然と調和しつつ新産業を創出することで、世界が憧れる豊かなデジタル田園都市を実現し、日本の成長と発展を牽引する地域になるはずです。

北海道大学で学ぶ皆さんにはこうした大きな時代の転換期を乗り越える力を養うための、素晴らしい環境があります。何より、北海道大学には、12の学部と21の研究科・学院等があり、日本で最も幅広い学問領域をカバーする総合大学です。

北海道大学に入学された皆さんには、この恵まれた教育環境を活用し、多様性や国際性、真理を追求する実学を通じて、社会課題を解決する力を身につけてほしいと願っています。

クラーク博士が目指した、当時のAmbitious Challengeは、寒冷な北海道の地に先進的な農業を確立することでし

た。これは、当時の明治政府の国策でもありました。

それから一世紀半、150年の時を経て、この挑戦は、安定的な食糧生産のための研究という形へと進化し、現在も続いています。

そして今、再生可能エネルギーの実用化、さらには先端半導体を核とする新産業創出を目指す「北海道デジタルパーク構想」が、北海道大学の第二のAmbitious Challengeとして、動き出しています。

このように、北海道大学は、一貫して、イノベーションへの果敢な挑戦を続ける、まさに、Ambitiousな大学です。今日のこの入学式がまさにAmbitious Challengeです。挑戦しない大学、挑戦しない総長や教職員の下に、挑戦する

Ambitiousな学生が生まれるはずがありません。

北海道大学は、「Be Ambitious」の精神を150年にわたり脈々と受け継いできた、比類なき大学です。これからの4年間、6年間、10年間に及ぶ北海道大学での生活が、皆さんに大きな成長をもたらすことを心から祈っております。

皆さんのこの素晴らしい北海道大学への入学を、改めて心よりお祝い申し上げます。

以上をもちまして、私から新入生の皆さんへの告辞いたします。

理事の退任セレモニーを開催

3月23日（月）、役員会室において、3月をもって退任された山口淳二理事・副学長、横田 篤理事・副学長、山本文彦理事・副学長、高橋 彩理事・副学長及び行松泰弘理事の退任セレモニーが執り行われました。

本セレモニーには、事務局等幹部職員が出席し、これまで本学の運営・発展に多大なご尽力をいただいた各理事

のご功績を称えるとともに、感謝の意が表されました。式は、寶金清博総長による挨拶で開会し、在任期間中の各理事のご尽力と、本学の教育・研究・経営基盤の充実に果たされた役割について述べられました。続いて秘書室職員から花束が贈呈され、退任される理事の皆様からは、在任期間を振り返りつつ、本学への思いや今後への期待、

職員への感謝の言葉を述べられました。

退任される理事の皆様のごこれまでのご貢献に深く敬意を表すとともに、今後ますますのご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

（総務企画部総務課）



退任される理事及び寶金総長による記念写真

令和7年度「北海道大学永年勤続者表彰」表彰式を挙

3月31日（火）、学术交流会館において、令和8年3月31日をもって定年、または15年以上在職し退職された93名に対する「北海道大学永年勤続者表彰」表彰式が執り行われました。

関係者列席のもと、被表彰者の代表

として、薬学研究院教授 原島秀吉氏に、寶金清博総長から表彰状及び記念品が授与された後、寶金総長から被表彰者の本学に対する永年にわたる精励と努力に対し、深い敬意と感謝の意が表せられました。

なお、この度表彰を受けられた方々は、以下のとおりです。

(総務企画部人事課厚生労務室)



表彰状及び記念品授与



寶金総長からの挨拶



総長、理事、被表彰者との記念撮影

永年勤続者表彰（退職時）被表彰者

所 属	氏 名	所 属	氏 名
法学研究科	上 田 信太郎	理学研究院	谷 野 圭 持
〃	川 村 力	〃	見 延 庄士郎
法学研究科附属高等法政教育研究センター	佐々木 紫 代	〃	塚 本 尚 義
水産科学研究院	酒 井 隆 一	〃	小 林 厚 志
水産学部附属練習船おしよろ丸	亀 井 佳 彦	薬学研究院	原 島 秀 吉
水産科学研究院	山 口 篤	農学研究院	貴 島 祐 治
〃	大 西 広 二	〃	近 藤 巧
地球環境科学研究院	野 田 隆 史	〃	園 山 慶
〃	森 川 正 章	〃	山 本 康 貴
〃	鷲 尾 健 司	〃	倉 持 寛 太
〃	吉 田 磨 仁	〃	畑 谷 達 児
理学研究院	小 亀 一 弘	教育学研究院	安 達 潤
〃	佐 田 和 己	〃	大 竹 政 美
〃	鈴 木 久 男	〃	渡 邊 誠

所 属	氏 名
メディア・コミュニケーション研究院	長 島 美 織
〃	西 村 龍 一
保健科学研究院	遠 山 晴 一
〃	山 口 博 之
工学研究院	青 木 芳 尚
〃	太 田 泰 彦
〃	高 野 伸 栄
〃	大 利 徹
〃	富 岡 智
〃	渡 部 正 夫
〃	石 山 竜 生
〃	加 藤 博 之
〃	坂 入 正 敏
〃	土 家 琢 磨
〃	水 野 誠 司
〃	古 内 仁
経済学研究院	岩 田 智
〃	久保田 肇
医学研究院	渥 美 達 也
〃	藤 山 文 乃
〃	加 藤 徳 雄
〃	舟 山 恵 美
歯学研究院	高 橋 茂
〃	八 若 保 孝
〃	高 山 芳 幸
獣医学研究院	坪 田 敏 男
〃	野 中 成 晃
文学研究院	瀬名波 栄 潤
〃	平 澤 和 司
〃	宮 下 弥 生
情報科学研究院	今 井 英 幸
〃	河 口 万 由 香
〃	田 中 文 基

所 属	氏 名
情報科学研究院	西 村 生 哉
〃	松 下 昭 彦
北海道大学病院	根 岸 淳
〃	金 子 知 生
〃	加 藤 裕 貴
〃	池 端 明 美
〃	川 又 万 紗 子
〃	齋 藤 典 子
〃	佐々木 美 香
〃	若 木 奈 々
低温科学研究所	渡 辺 力
〃	落 合 正 則
〃	笠 原 康 裕
〃	豊 田 威 信
スラブ・ユーラシア研究センター	岩 下 明 裕
北方生物圏フィールド科学センター	車 柱 榮
観光学高等研究センター	西 山 徳 明
北極域研究センター	深 町 康
総合博物館	湯 浅 万 紀 子
技術連携統括本部（農学研究院）	長 野 宏 則
監査室・監事支援室	羽 澤 明 文
総務企画部人事課（室蘭工業大学に在籍出向）	千 葉 浩 之
総務企画部人事課	山 本 久 仁
学務部学生支援課	八 戸 勇 人
研究推進部研究支援課	小 田 桐 英 樹
〃	砂 塚 孝 子
施設部環境配慮促進課	空 橋 博 幸
施設部施設整備課	押 田 聡
社会共創部広報課卒業生・基金室	花 畠 純
学術情報部図書館利用支援課	横 井 有 紀
環境科学事務部	原 田 由 美
獣医学系事務部	佐々木 結

名誉教授に43氏

本学名誉教授称号授与規程に基づき、3月6日（金）から10日（火）開催の教育研究評議会において、次の43氏に対し名誉教授の称号を授与することを決定（うち1氏は令和5年3月15日（水）開催の同評議会で決定）し、本年4月から新たに名誉教授となられる方々には、決定通知が送付されました。

なお、称号授与式は、6月2日（火）を予定しています。

（総務企画部人事課厚生労務室）

北海道大学名誉教授

上田 信太郎	（元大学院法学研究科教授）	高野 伸 栄	（元大学院工学研究院教授）
酒井 隆 一	（元大学院水産科学研究院教授）	大 利 徹	（元大学院工学研究院教授）
野田 隆 史	（元大学院地球環境科学研究院教授）	富 岡 智	（元大学院工学研究院教授）
森川 正 章	（元大学院地球環境科学研究院教授）	長 野 克 則	（元大学院工学研究院教授）
齋藤 睦	（元大学院理学研究院教授）	渡 部 正 夫	（元大学院工学研究院教授）
坂口 和 靖	（元大学院理学研究院教授）	岩 田 智	（元大学院経済学研究院教授）
鈴木 久 男	（元大学院理学研究院教授）	久保田 肇	（元大学院経済学研究院教授）
谷野 圭 持	（元大学院理学研究院教授）	渥 美 達 也	（元大学院医学研究院教授）
見延 庄士郎	（元大学院理学研究院教授）	真 部 淳	（元大学院医学研究院教授）
山口 淳 二	（元大学院理学研究院教授）	森 本 裕 二	（元大学院医学研究院教授）
塚本 尚 義	（元大学院理学研究院教授）	八 若 保 孝	（元大学院歯学研究院教授）
原 島 秀 吉	（元大学院薬学研究院教授）	大 橋 和 彦	（元大学院獣医学研究院教授）
貴 島 祐 治	（元大学院農学研究院教授）	坪 田 敏 男	（元大学院獣医学研究院教授）
近藤 巧	（元大学院農学研究院教授）	瀬名波 栄 潤	（元大学院文学研究院教授）
信濃 卓 郎	（元大学院農学研究院教授）	平 澤 和 司	（元大学院文学研究院教授）
園 山 慶	（元大学院農学研究院教授）	今 井 英 幸	（元大学院情報科学研究院教授）
山本 康 貴	（元大学院農学研究院教授）	大 島 慶 一 郎	（元低温科学研究所教授）
安達 潤	（元大学院教育学研究院教授）	福 井 学	（元低温科学研究所教授）
長 島 美 織	（元大学院メディア・コミュニケーション研究院教授）	WOLFF DAVID	（元スラブ・ユーラシア研究センター教授）
西村 龍 一	（元大学院メディア・コミュニケーション研究院教授）	西 山 徳 明	（元観光光学高等研究センター教授）
遠山 晴 一	（元大学院保健科学研究院教授）	湯 浅 万 紀 子	（元総合博物館教授）
山口 博 之	（元大学院保健科学研究院教授）		

令和7年度「北海道大学職員表彰」表彰式を挙行

3月24日（火）、事務局において「北海道大学職員表彰」表彰式が執り行われ、関係者列席のもと、寶金清博総長から被表彰者に賞状及びメダルが授与されました。

この表彰は、職務上顕著な功績等があった方及び職務外において職員の模範として表彰に値する善行を行った方を対象とするものです。

なお、この度職務上顕著な功績等に

より表彰を受けられた方々は、以下のとおりです。

（総務企画部人事課厚生労務室）



表彰式の様子



総長、理事、受賞者及び部局長との記念撮影

職員表彰被表彰者

技術連携統括本部（理学研究院）	中村 晃輔
技術連携統括本部（工学研究院）	片岡 良美

令和8年度北海道大学の予算

令和8年度 北海道大学収入・支出予算書

(単位：千円)

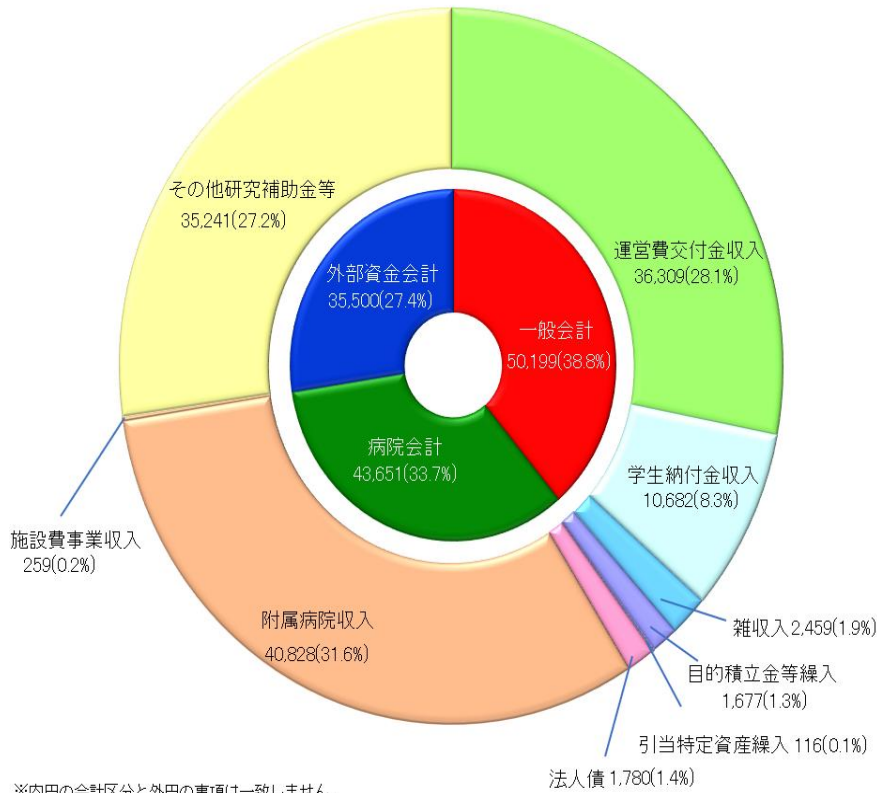
収入				支出			
事項	前年度 予算額	令和8年度 予算額	増減額	事項	前年度 予算額	令和8年度 予算額	増減額
[一般会計]	47,117,178	50,199,334	3,082,156	[一般会計]	47,117,178	50,199,334	3,082,156
運営費交付金収入	33,759,642	33,749,307	△10,335	人件費	28,288,898	29,720,178	1,431,280
学生納付金収入	10,466,302	10,681,674	215,372	教育研究組織改革分	1,384,250	1,384,250	0
雑収入	1,731,163	2,195,284	464,121	共通政策課題分	1,139,604	1,045,824	△93,780
目的積立金等繰入	817,499	1,676,879	859,380	特殊要因経費	2,187,310	1,849,366	△337,944
引当特定資産繰入	100,000	116,430	16,430	退職手当	2,143,475	1,849,366	△294,109
法人債	242,572	1,779,760	1,537,188	建物新営に伴う設備費	11,309	0	△11,309
				移転費	32,526	0	△32,526
				大学ビジョン推進経費	3,498,175	4,587,774	1,089,599
				既定分	2,849,927	1,849,113	△1,000,814
				機能強化促進事業費	405,676	0	△405,676
				教育研究活動充実経費(仮称)	0	790,401	790,401
				大学債投資事業	242,572	1,779,760	1,537,188
				大学債償還引当金	0	168,500	168,500
				調整費	100,000	100,000	0
				特定経費	4,484,106	5,357,980	873,874
				電子計算機借料	802,953	1,143,620	340,667
				公租公課、保険料等	1,196,458	1,409,814	213,356
				授業料等減免費	893,951	813,354	△80,597
				収入見合経費	1,590,744	1,991,192	400,448
				基盤配分経費	6,034,835	6,153,962	119,127
[病院会計]	40,460,215	43,650,516	3,190,301	[病院会計]	40,460,215	43,650,516	3,190,301
運営費交付金収入	2,491,728	2,559,214	67,486	人件費	9,203,404	9,896,375	692,971
附属病院収入	37,728,925	40,827,675	3,098,750	病院診療経費	30,681,236	33,178,566	2,497,330
雑収入	239,562	263,627	24,065	大学ビジョン推進経費(既定分)	475,730	475,730	0
				基盤配分経費	99,845	99,845	0
[外部資金会計]	33,456,523	35,499,976	2,043,453	[外部資金会計]	33,456,523	35,499,976	2,043,453
施設費事業収入	929,700	259,090	△670,610	施設整備費	929,700	259,090	△670,610
保育園運営費補助金収入	84,458	90,044	5,586	保育園運営費補助金事業費	84,458	90,044	5,586
授業料等減免費交付金収入	320,957	1,204,391	883,434	授業料等減免費交付金事業費	320,957	1,204,391	883,434
寄附金収入	3,745,660	3,104,538	△641,122	直接事業費	27,913,002	29,181,213	1,268,211
受託研究収入	10,969,229	11,794,926	825,697	寄附金事業費	3,691,507	3,045,059	△646,448
共同研究収入	2,797,328	2,952,450	155,122	受託研究費	9,060,952	9,619,514	558,562
受託事業収入	1,247,841	1,402,638	154,797	共同研究費	2,216,094	2,315,110	99,016
大学改革補助金等収入	6,377,690	7,389,825	1,012,135	受託事業費	1,175,243	1,325,309	150,066
文部科学省科学研究費補助金	6,837,698	7,126,871	289,173	大学改革補助金等事業費	6,350,290	7,234,723	884,433
厚生労働省科学研究費補助金	52,312	41,180	△11,132	文部科学省科学研究費補助金	5,292,423	5,514,743	222,320
その他助成金等	93,650	134,023	40,373	厚生労働省科学研究費補助金	34,103	23,660	△10,443
				その他助成金等	92,390	103,095	10,705
				間接経費	4,208,406	4,765,238	556,832
				大学ビジョン推進経費(既定分)	425,602	771,164	345,562
				特定経費(燃料費)	794,160	793,303	△857
				特定経費(電子ジャーナル経費)	720,000	720,000	0
				特定経費(全学共用施設等管理経費)	200,000	200,000	0
				部局配分経費	2,068,644	2,280,771	212,127
合計	121,033,916	129,349,826	8,315,910	合計	121,033,916	129,349,826	8,315,910

令和8年度 北海道大学収入・支出予算（グラフ）

（単位：百万円）

収入予算 全体

129,350百万円

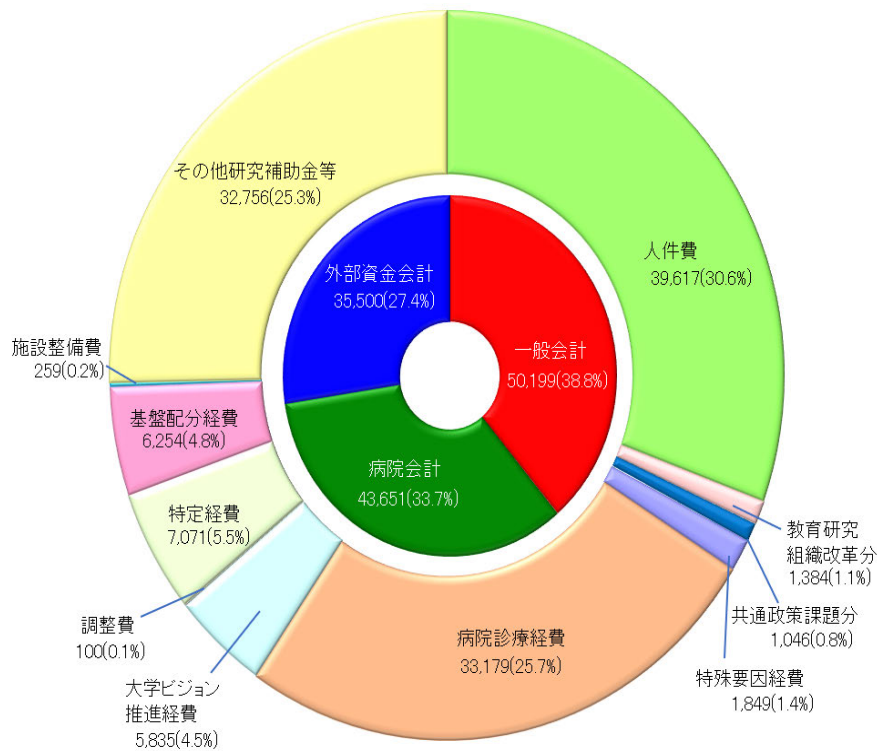


※内円の会計区分と外円の事項は一致しません。

（単位：百万円）

支出予算 全体

129,350百万円



※内円の会計区分と外円の事項は一致しません。

※項目毎に四捨五入を行っているため、合計が一致しない場合があります。

（財務部主計課）

令和7年度新渡戸カレッジ修了式（学部教育コース）を挙

令和7年度新渡戸カレッジ修了式（学部教育コース）が、3月25日（水）に高等教育推進機構にて挙行されました。修了生44名のうち29名が出席し、寶金清博校長（総長）、山本文彦校長代理（理事・副学長）、ラフェイ・ミシェル副校長、真弓明彦副校長（校友会エルク会長）をはじめ、新渡戸カレッジ関係教職員や修了生の保護者から祝福を受けました。

式では、修了生を代表して農学部畜産科学科卒業の西川優嗣さんに、寶金

校長から修了証書が授与されました。続いて寶金校長が挨拶を行い、新渡戸カレッジのカリキュラムを修了した学生たちの努力を労うとともに、これからの人生で学びを生かし、グローバルリーダーとして活躍することへの期待を述べました。修了生代表挨拶では、経済学部経営学科卒業の逸見京花さんが、新渡戸カレッジでの学びを振り返り、今後の抱負を語りました。また、校友会エルク会長の真弓副校長が挨拶を行い、新渡戸カレッジフェローの石

川めぐみ氏からも修了生に向けた激励の言葉が贈られました。

オナーズプログラム学部教育コースの修了生には、「Summa cum Laude」（with highest honor）、「Magna cum Laude」（with great honor）、「Cum Laude」（with honor）、「Associate」の称号がそれぞれ授与されます。

（学務部教育推進課）



修了証書の授与



寶金校長挨拶



修了生代表挨拶



記念撮影

新渡戸カレッジ修了式（大学院カリキュラム）を挙

令和7年度新渡戸カレッジ修了式（大学院カリキュラム）を3月18日（水）に高等教育推進機構にて行い、留学生9名を含む、26名が修了しました。

はじめに、ラフェイ・ミシェル副校長から修了生代表に修了証書が授与されました。ラフェイ副校長の挨拶に続いて、修了生を代表して、ワング・マ

イア・リサンドラ・マヌエルさんが、新渡戸カレッジで学んだ経験や今後の抱負などについてスピーチを行い、修了式は終了となりました。

オナーズプログラム修了生にはアシエイト（大学院）の称号を授与するとともに、特に優秀と認められた学生に対し、優秀賞が授与されます。

（優秀賞受賞者）
解 文凱（理学院）
佐藤野乃佳（農学院）

（学務部教育推進課）



修了生代表による挨拶



集合写真

令和7年度現代日本学プログラム課程学士学位記授与式を開催

外国人留学生を対象とした4年間の学士課程プログラムである現代日本学プログラム課程の第8期生14名が3月25日（水）に卒業の日を迎え、高等教育推進機構において挙行された現代日本学プログラム課程学士学位記授与式に出席しました。

学位記授与式では、山本文彦理事・副学長（現代日本学プログラム課程長）、高橋 彩理事・副学長をはじめ、同課程担当教職員が参列する中、山本

理事・副学長から卒業生一人一人へ学位記が授与されました。また、現代日本学プログラム課程最優秀学生賞及び現代日本学プログラム課程最優秀卒業論文賞の表彰が併せて行われました。

引き続き、山本理事・副学長から卒業生へ祝辞が述べられ、母国を離れ異国の地での予備課程を含む4.5年間の長く険しい留学生生活を自らの糧にできたこと、またグローバルな変容にも柔軟に対応し、それを乗り越えてきたこ

とに対する労いの言葉に、卒業生は感銘を受けていました。

卒業生の多くは、卒業後に国内の企業への就職や北大をはじめとする国内外の大学への進学を予定しており、日本の良きパートナーとして日本と世界の架け橋の一端を担ってゆくことが期待されます。

（学務部教育推進課）



山本理事・副学長と現プロ卒業生との記念写真

令和7年度インテグレイテッドサイエンスプログラム (ISP) 修了式を挙

外国人留学生を対象とした理系の学士課程・修士課程プログラムである「インテグレイテッドサイエンスプログラム (ISP)」の修了式を3月24日(火)に高等教育推進機構において挙

し、厳粛な中にも和やかな雰囲気です式典が執り行われました。

山本理事・副学長から修了生に修了証書が授与された後、祝辞が述べられ、母国を遠く離れ、様々な困難を乗り越えて学業を成し遂げた修了生を称え、本プログラムを通じて身につけた知識や経験を活かして、今後もグローバルに活躍することを期待する言葉が贈られました。

続いて、修了生2名がそれぞれスピーチを行い、ISPへの思いと関係者への感謝の言葉を述べました。

最後は、式典を見守っていた先生方、ご家族、後輩学生も交えて、記念撮影が行われ、ISPを巣立つ修了生の前途を祝しました。

(学務部教育推進課)



式典参加者の記念撮影



修了生 (左: トウリブカリエフ・アイトゥアルさん、右: デ オカンボ・マシューさん) と鈴木副プログラム長 (中央)

令和7年度北海道大学鈴木章記念賞－自然科学実験－表彰式を挙

3月4日（水）、高等教育推進機構において、令和7年度北海道大学鈴木章記念賞－自然科学実験－表彰式が挙

行されました。この賞は、全学教育科目「自然科学実験」において、特に優秀な成績を修め、本学の目指す全人教育の理念にふさわしい学生を表彰することを目的として設けられた制度です。

表彰式は、山本文彦高等教育推進機構長及び鈴木久男総合教育部長の列席の下、山本機構長から受賞者8名のうち欠席者5名を除く3名に賞状が授与さ

れました。

続いて、山本機構長から、鈴木名誉教授の経歴の紹介とともに、「学術と社会の発展に貢献できる人材へと育てていただきたい」との挨拶がありました。

受賞者は、偉大なる先輩の名を冠した賞を授与されたことにより、今後も勉学に一層励むべく自覚を新たにしてい

ました。
(学務部学生支援課)

被表彰者

【第1学期被表彰者】

- 20組 乗原 琉佳
- 28組 岩 舘 大聖
- 30組 奥 山 仁統
- 40組 石 田 寛和

【第2学期被表彰者】

- 34組 竹 部 正汰
- 34組 中 村 天飛
- 35組 古 田 一愛
- 49組 窪 田 優羽



授与の様子



記念撮影

令和7年度北海道大学大塚賞授与式を挙

3月16日（月）、事務局において、北海道大学大塚賞授与式を挙

大塚賞は、大学院博士課程を当該年度内に修了し、研究者を目指す優秀な女子学生に授与される奨励金制度です。

今回は、令和7年度内の博士課程修了予定者及び既修了者の計10名が受賞者として選ばれました。

授与式には、寶金清博総長、大塚榮子名誉教授、高橋 彩理事・副学長、矢野理香ダイバーシティ・インクルー

ジョン推進本部副本部長列席の下、寶金総長より賞状が授与され、お祝いの言葉が述べられました。

式終了後には交流会が開催され、研究分野に関する情報交換や将来の活躍を誓い合う機会となりました。

これからも、研究者を目指す多くの女子学生が受賞されることを期待しております。

(学務部学生支援課)

受賞者

水産科学院	為近(松野) 昌美
水産科学院	井 筒 彩 歌
保健科学院	山 本 瀬 菜
保健科学院	中 村 真 弥
工学院	松 尾 堇
総合化学院	ハミダ ビンティ ハム
獣医学院	鈴 木 玲 海
国際食資源学院	ナス リプサ ラニ
文学院	平 岡 和
文学院	張 琴 琴



授与式での記念撮影

令和7年度北海道大学クラーク賞授与式を挙

3月24日（火）、高等教育推進機構において、令和7年度北海道大学クラーク賞授与式を挙

北海道大学クラーク賞は、平成27年度末で解散した公益財団法人北海道大学クラーク記念財団が実施していたクラーク賞を北海道大学が継承し、平成28年度から制定した賞です。

本賞は、本年卒業する学部学生のうち、各学部において、最も優秀な学生であると推薦された1名を表彰するものです。

授与式では、高橋 彩理事・副学長から、受賞者13名のうち、所属学部で表彰式を行う5名を除く8名に賞状が授与され、続いてお祝いと期待の言葉が述べられました。

なお、所属学部において表彰式を行う学部では、水産学部は3月26日（木）に、それ以外の学部は3月25日（水）に、表彰式が挙

（学務部学生支援課）

受賞者

文学部	高 倉 真 琴
教育学部	伊 藤 愛 沙子
法学部	川 添 祐 基
経済学部	黄 振 峰
理学部	吉 田 修
工学部	濱 田 和
農学部	吉 田 祐 太
獣医学部	寺 島 寧 来
水産学部	田 中 千 喜
医学部医学科	戸 田 壮 太郎
医学部保健学科	北 川 正 隆
歯学部	金 子 昌 史
薬学部	彦 坂 晴



授与の様子



記念撮影

令和7年北大えるむ賞授与式を挙

3月16日（月）、事務局において、令和7年北大えるむ賞の授与式を行い、寶金清博総長から表彰状が授与されました。

北大えるむ賞は、平成9年に本学の伝統である全人教育の充実のため、学生の健全な課外活動及び社会活動等を積極的に支援し、その振興と活性化を

図ることを目的として創設されたものです。

本賞は、国際的・全国的規模の競技会等で優秀な成績をおさめ課外活動の振興に功績があったもの、社会活動において優れた評価を受けたもの、自己研鑽並びに他の学生の指導等に優れた評価を受けたものなどに対して表彰

するもので、今回は4件が採択されました。

授与式では、寶金総長から受賞者へねぎらいと激励の言葉があり、受賞者は今後の更なる活躍を誓いました。

（学務部学生支援課）

受賞団体及び受賞理由

◆ 団体

○ 中根由喜・岸田佑亮

昨今日本を超え世界で親しまれるゲームとなった麻雀に競技として真剣に取り組み、全国最大規模の学生麻雀大会において優勝という功績を取めたこと。

○ O's

全国の大学生・大学院生・高等専門学校生・専門学校生を対象に、ICTを活用したイノベーション創出を目的として開催される国内有数の技術コンテストであるJPHACKS 2025において、最優秀賞（Best Hack Award）を含めた複数の賞を受賞したこと。

○ 競技舞蹈部

第62回全日本学生選抜競技ダンス選手権大会において団体優勝し、5連覇を果たしたこと。

○ 交響楽団

第150回記念定期演奏会の実施にあたり、学生主体で本学が実施するクラウドファンディングを活用し、学生オーケストラの枠を超えた本格的な演奏会の企画及び多角的な広報活動を行い、本学の社会的評価向上に寄与したこと。



授与式での記念撮影

地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）連携研究プラットフォーム事業研究成果中間報告会兼交流会を開催

3月13日（金）に、事務局において、研究の進展と研究者間の交流による課題の共有や新たな協働のきっかけ作りを目的とし、「連携研究プラットフォーム事業研究成果中間報告会兼交流会」を開催しました。

本報告会兼交流会には、採択課題研究ユニットの研究者及びメンターに加え、J-PEAKS関係支援組織や創発的研究支援事業採択研究者、アンビシャス

テニュアトラック教員を含む計56名が参加しました。

第一部では、はじめに瀬戸口剛理事・副学長の開会挨拶があり、続いて連携研究プラットフォーム事業の各採択課題研究ユニットから研究の進捗状況及び今後の計画について報告がありました。その後の意見交換では、J-PEAKS事業や連携研究プラットフォーム事業の今後の展望等について参加

者の間で活発な意見交換が行われました。

第二部の研究者交流会では、開催にあたり網塚 浩副学長から挨拶があり、終始和やかな雰囲気の中で、参加者同士による研究分野や立場を越えた活発な情報交換や意見交換が行われ、交流を深めました。

（研究推進部研究支援課）



研究成果中間報告会の様子



質疑応答の様子



講評をする瀬戸口理事・副学長



交流会の様子

北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）

北海道大学は、創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に北大フロンティア基金を創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、息の長い募金活動をする事としています。

令和8年、北海道大学は創基150周年を迎えます。次の150年を見据えた記念事業のため、令和5年～令和8年度の4年間、北大フロンティア基金は「創基150周年記念募金」として、皆様からのご寄附を募集しております。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金創設時累計	(2月28日現在) / 59,934件	10,840,254,070円
うち、北海道大学創基150周年記念募金累計	(2月28日現在) / 22,886件	4,675,485,513円

<ご寄附状況>

2月は681件76,226,938円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名を掲載させていただきます（五十音別・敬称略）。

寄附者ご芳名（法人等）

株式会社アクティ建築設計、株式会社エス・ケー・ライン、特定非営利活動法人環境リレーションズ研究所、一般財団法人協済会、株式会社小鍛冶組、西條産業株式会社、一般財団法人砂防・地すべり技術センター、株式会社神鋼環境ソリューション、医療法人スワンアイクリニック、セイコーマートどもん店、株式会社セキカワ工業、高堂建設株式会社、町立中標津病院、テクノネクト株式会社、戸田建設株式会社、日本栄養食品株式会社、パリュールホーム株式会社、有限会社苗田鋼材、不二製油株式会社、バイテックス株式会社、北海道厚生農業協同組合連合会、北海道大学校友会エルム

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	青井 良平	青木 俊介	赤間健太郎	赤間 弓子	浅沼 佳南	渥海 航	阿部 雅史
在田 一則	石井 哲夫	石野 悟司	一色 博介	伊藤 宏	伊藤 雄三	井上清一郎	井原 博
今井 四郎	今井 晋	上田 諭	上原 秀晃	碓井トミ子	梅本 由佳	卜部 秀彦	榎戸 武揚
縁記 和也	遠藤 公憲	大沢 正人	太田 博	大手 彰	大野 正博	大野 泰熙	大原 正範
岡川 朋弘	岡田 英子	沖崎 遼	奥 聡	小田原一史	小原 大和	加賀屋誠一	角谷 有介
葛西 太郎	勝原 孝雄	金川 聖也	金澤 潤	金子 研一	兼古 学	加納 隆	川勝 洋史
川島 憲治	川瀬 紀子	河村 裕	菅野 彰一	北河 徳彦	北澤 智子	衣川 暢子	久々湊 聖
工藤 俊哉	倉元 祥伍	栗原 誠治	上月 浩	河野 裕規	小関 成樹	小丹枝利昭	小林 賢人
駒井 孝博	齊藤 晋	齋藤 隆	齊藤 良裕	坂井 潔	境 政人	榊原 和子	坂倉 雅夫
崎元 大志	佐々木尚子	佐藤 市雄	佐藤 栄作	佐藤壮一郎	志済 聡子	志田 薫	志田 康弘
島田 宗明	陣谷 義直	菅原 新也	杉江 和男	鈴木 貴之	曾村 尚明	高瀬登志彦	高橋 彩
高橋久美子	高橋 龍彦	田栗 和奈	谷口 恭	辻井 正人	對馬 新	土橋 宣昭	寺内伊久郎
戸田 智弘	飛澤由紀子	中川 洋	中村 徹	西川 丈次	西田 和代	西村 充弘	根本 叔治
長谷部賀宣	花田 秀一	早野 利人	原 啓介	原田 祐司	半崎 貴敏	平井 廣一	廣重 勝彦
廣谷 大地	福田 正晴	福永 悟郎	藤井 治也	藤澤 裕子	藤田 芳康	星 貞雄	前出 吉光
眞木賀奈子	松井 耕二	松崎 亮	眞屋 幹雄	三木 證永	宮川 昌樹	宮田 信幸	宮脇 義隆
武藤 寛之	村上 広輝	村瀬徳啓充	安陵 智代	矢野 啓介	八尋 謙二	山田 哲	山田 基博
尹 瑠佑	余湖 兼右	横田 篤	横田喜美子	横山 考	吉川 諒	吉田 香織	

<寄附者への特典>

創基150周年を記念した銘板

創基150周年を記念した銘板をご用意しました。銘板は、これまでのご寄附累計金額をもとに、本学総合博物館に掲出させていただきます。個人・法人共に、ご寄附の累計が1億円以上でプレミアムゴールド、1千万円以上でゴールド、500万円以上でシルバー、100万円以上でブロンズとなります。

既存のホワイト銘板は累計20万円以上が対象です（令和2年度以前は総合博物館、令和3年度以降は百年記念会館に掲出）。なお、銘板については、年度内に賜ったご寄附の累計を取りまとめ後、翌年度9月頃を目途に掲出いたします。

※このほか、ご寄附の金額に応じ、オリジナルグッズや感謝状の贈呈、御礼の場など様々な特典をご用意させていただきます（詳細はこちらでご確認ください <https://www.hokudai.ac.jp/fund/gratitude/>）。

<感謝状の贈呈>



伊古田俊夫様（令和8年2月6日）



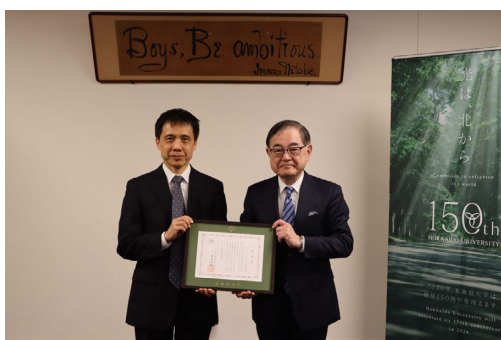
数土文夫様（令和8年2月12日）



株式会社シルバーボックス・プリンシパル様
（令和8年2月12日）



服部雅子様（令和8年2月13日）
故・服部博太郎様のご遺影とともに



キーサイト・テクノロジー株式会社様（令和8年2月16日）

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員からの寄附」にアクセスしてください。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff/>

①給与口座からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（給与口座からの引落）」をダウンロードし、ご記入の上、卒業生・基金室 基金事務担当に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

卒業生・基金室 基金事務担当にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、卒業生・基金室 基金事務担当までご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、卒業生・基金室 基金事務担当にもご用意していますので、お越しただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済・PayPayでのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 卒業生・基金室 基金事務担当（事務局・学内電話 2017）

令和7年度北海道大学・北海道地区国立高等専門学校 技術職員交流研修を開催

令和8年2月～3月に、令和7年度北海道大学・北海道地区国立高等専門学校技術職員交流研修を開催しました。

本研修は、北海道大学と北海道地区国立高等専門学校の技術職員を相互に派遣することにより、技術職員のスキルアップの機会を創出するとともに、技術職員が有するスキルや情報の共有を図り、両機関の連携を強化し、交流を促進することを目的として技術連携統括本部が主催し開催されました。

今回は北海道大学に加え、函館工業高等専門学校、苫小牧工業高等専門学校、旭川工業高等専門学校、釧路工業高等専門学校が参加し、本学から各高等専門学校（以下「高専」という。）へ1名ずつ、各高専から本学へ1名ずつ派遣する形式で、計8名（本学4名、各

高専1名）の技術職員が1～2日間の研修を受講しました。

研修は機械系、電気・電子系、土木系、情報系、化学・分析系のテーマで行われ、フィールド系の技術職員が化学・分析系の研修を、土木系の技術職員が情報系の研修を受講するなど、分野横断的な研修も実施されました。

本研修では、事前に講師を担当する技術職員と受講者の間で打合せを行い、受講者が特に学びたい分野を重点的に扱う研修プログラムを実施しました。さらに、施設見学や業務発表会、両機関の技術職員が交流を深めるための情報交換の機会も設け、充実した内容となりました。

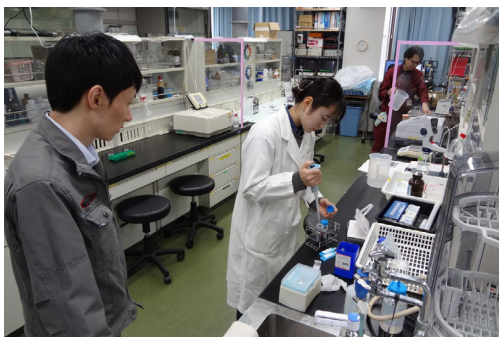
受講した各高専の技術職員からは、実務に直結する具体的な技術を学べた

ことが今後の業務に大いに役立つとの意見が寄せられました。北海道大学の技術職員からも、高専の技術職員が教育現場で重要な役割を果たしていることを改めて確認でき、自身の業務にも活かしていきたいとの声も聞かれました。また、同じ専門分野のみならず、幅広い分野の技術職員と交流する機会となったことで、設備や技術に関する情報共有、さらには条件が整えば共同研究を行いたいといった意見も挙がりました。

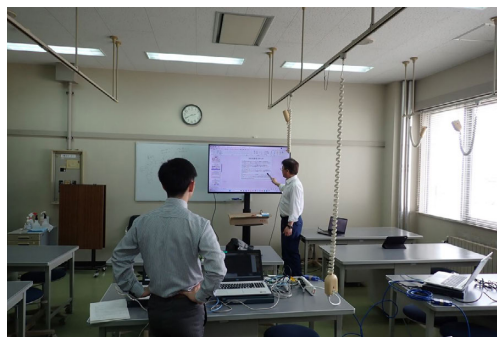
技術面でのスキルアップのみならず、両機関の連携強化にも大きく寄与したことから、次年度も研修を継続していきたいと考えています。

（技術連携統括本部）

研修担当：技術連携統括本部 研修実施専門部会



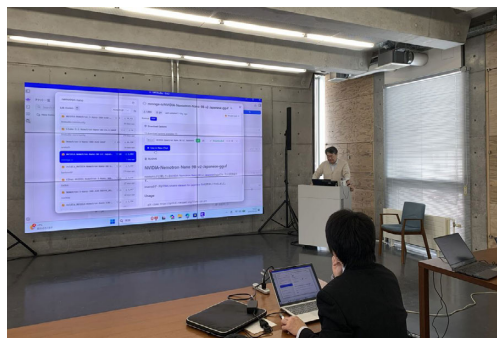
苫小牧工業高等専門学校における研修の様子



函館工業高等専門学校における研修の様子



北海道大学における電気・電子系研修の様子



北海道大学における情報系研修の様子

北海道大学×北海道情報大学×HBA共催 「HACK FOR IMPACT 共創で未来を生み出すハッカソン」を開催

2月17日（火）、株式会社HBA本社5階SYNORAにおいて、産学・地域協働推進機構、北海道情報大学アントレプレナーシップセンター及び株式会社HBAの共催によるハッカソンイベント「HACK FOR IMPACT 共創で未来を生み出すハッカソン」を開催しました。本イベントは、身近な社会課題をテーマに、学生が大学の枠を越えてチームを組み、アイデア創出からプロトタイプ制作、成果発表までを短時間で一気に体験する実践型プログラムです。当日は、本学及び北海道情報大学等から計39名の学生が参加しました。HBA社の技術やリソースに触れながら、社会課題の解決につながる新たな

アイデアを考え、大学の垣根を越えたチームでプロトタイプづくりに挑戦しました。開発未経験の学生も参加しやすいよう、HBA社のプロフェッショナルエンジニアが伴走し、初心者でも安心して取り組める環境が整えられました。プログラムでは、ITソリューションカードを活用したアイデアソン、各種ツールを用いたプロトタイプ制作、そして成果発表へと進みました。限られた時間の中で、参加学生たちはそれぞれの専門性や視点を持ち寄り、対話を重ねながら課題を整理して、解決策を形にしていきました。異なる大学・分野の学生同士が協働することで、多様

な発想が生まれ、実践的な学びの場となりました。社会課題を自分ごととして捉え、他者と協働しながら価値ある解決策を構想・試作・発信する一連のプロセスは、課題発見力、創造力、チームワーク、実行力といった資質・能力を育む貴重な機会となりました。今後も産学・地域協働推進機構は、産学連携を通じて、社会課題の解決に挑む実践的なアントレプレナーシップ教育の機会を創出し、次世代を担う人材の育成を進めてまいります。

（産学・地域協働推進機構）

実施内容

- 日程：令和8年2月17日（火）
- 場所：株式会社HBA本社 5階 SYNORA
- 対象：学生39名（北海道大学、北海道情報大学ほか）
- 主催：北海道大学産学・地域協働推進機構、北海道情報大学アントレプレナーシップセンター、株式会社HBA



チーム活動の様子



発表の様子



プロトタイプを説明



集合写真

「Do-nan Innovation Gathering」を開催

産学・地域協働推進機構スタートアップ創出本部は、2月20日（金）に函館市において、道南地域のスタートアップ・エコシステム形成を目的とした「Do-nan Innovation Gathering」を開催しました。

本イベントは、STARTUP HOKKAIDO 実行委員会が主催するグローバルスタートアップカンファレンス「SHAKE H (シェイク・エイチ)」の公式サイドイベントとして、産学・地域協働推進機構、公立はこだて未来大学、株式会社Finch、HSFC（北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワー

ク）の共催で実施されました。

当日は、本学函館キャンパスにて学生らによる英語でのピッチセッション「SHAKE SAKE Session」が行われ、工学院の佐藤遼弥さんや水産学部の黒岩夕綺さんらが、最先端の研究成果を社会実装につなげるための発表やパネルディスカッションを行いました。続いて、公立はこだて未来大学に会場を移し、IT・デジタル技術を起点とした社会実装をテーマとする「FUNDONAN MEETUP EXTRA」が実施されました。その後、湯倉神社にて「STARTUP CULTURE NIGHT」

と題した交流会が行われ、道内外から集まった研究者や学生、地域事業者など約40名の参加者が、世代や分野を越えて道南におけるイノベーション創出の可能性について活発に意見を交わしました。

産学・地域協働推進機構は、今後こうした多様なセクターとの連携を通じて、アントレプレナーシップ教育を推進し、北海道の未来を担うイノベーション創出に貢献してまいります。

（産学・地域協働推進機構）

実施内容

日 程：令和8年2月20日（金）

場 所：北海道大学函館キャンパス、公立はこだて未来大学、湯倉神社

対 象：研究者・学生・地域事業者 約40名

共 催：北海道大学産学・地域協働推進機構、公立はこだて未来大学、株式会社Finch、HSFC



「SHAKE SAKE Session」の様子



ピッチを行う佐藤さん



「FUNDONAN MEETUP EXTRA」の様子

「第2回北大発認定スタートアップ企業Meet-Up」を開催

産学・地域協働推進機構は、スタートアップ・エコシステムの価値共創の取組の一助として、本学と共に成長する北大発スタートアップ企業を対象に、「北大発認定スタートアップ企業」の称号を付与しています。その取組の一環として、2月27日（金）に「第2回北大発認定スタートアップ企業Meet-Up」を赤れんが庁舎にて開催しました。本交流イベントには現地59名、オンライン16名、総勢75名が参加しました。

はじめに、土屋 努副理事による開会の挨拶及び本学によるスタートアップへの支援体制や活動状況に関するプレゼンテーションがあり、続く講演では、成長フェーズに到達した2社、株式会社エヌビー健康研究所及びLetara株式会社が登壇しました。「スタートアップ n年目の現実」というテーマのもと、成長戦略の描き方や意思決定

のタイミングなど、実践者だからこそ語れる経験が共有されました。その後のパネルディスカッションでは、アグリ系ビジネスに関連する3社株式会社ラテラ・株式会社ユニアル・Floatmeal株式会社が「地域から世界へ：北海道発スタートアップが描く軌道と未来」をテーマに、活発な意見交換を行い、議論を深めました。また、出席企業によるピッチ（企業紹介）も行い、互いの活動内容や課題等を共有しました。

後半のミートアップタイムでは、STARTUP HOKKAIDO実行委員会の藤間恭平事務局長の乾杯の発声後、和やかな雰囲気の中、参加者同士が産官学金の垣根を超えて交流を深めました。最後は、ai-X株式会社の技術顧問及び株式会社ここたすの取締役副社長を務める、本学保健科学研究院の小笠原克彦教授が閉会の挨拶を行いました。

参加者からは「様々な世代のスタートアップの方から、実務のことや事業への思いなど、リアルな話を聞くことができた」「登壇者が語っていた世界を変えたい思いやストーリーがとても印象的で、経営者として見習うことがたくさんあった」等、非常に満足度の高い声が寄せられました。

北大発認定スタートアップ企業数は、前回の交流会開催時の56社から95社（令和8年3月現在）へと大幅に増え、コミュニティとしての広がりがこれまで以上に感じられるようになりました。互いの活動や課題感を共有し、新たな関係性や学びが生まれる“交流のハブ”となる今回のような取組を、今後も継続して実施してまいります。

（産学・地域協働推進機構）



講演1：株式会社エヌビー健康研究所



講演2：Letara株式会社



パネルディスカッションの様子



参加企業による1分間ピッチ

北海道どさんこプラザ有楽町店で北大ブランド商品の催事を開催

3月4日（水）～10日（火）の1週間、東京都千代田区の北海道どさんこプラザ有楽町店において、北大ブランド認定商品の販売催事を開催しました。本催事は、北海道庁が主催する「マーケティングサポート催事」を活用し、産学・地域協働推進機構が申請の上、実施したものです。

期間中は静内研究牧場で育った「北大短角牛」をはじめ、「北大の実り チョコ&クッキー」「北大の実り 完熟

りんごゼリー」「おしよろ丸カレー」「北大クラークラスク」「北大クラーク大福」「まるごと道産素材（漬物）」などの北大ブランド認定商品を販売しました。来店されたお客様は、北海道大学のブランドの取り組みに関心を寄せて、多くの商品を購入いただきました。また、店頭に掲示した創基150周年ポスターをご覧になり、本学の歴史の長さには驚かれるお客様の姿も見られました。催事終了後には、商品を購入

されたお客様からお褒めの声をいただくなど、本催事を通じて本学に対する好意的な印象がうかがえました。

今後も、産学・地域協働推進機構では、北海道大学認定商品を通じたブランド力の向上と情報発信により、地域との連携及び社会貢献に努めてまいります。

（産学・地域協働推進機構）



催事の様子



北海道どさんこプラザ有楽町店外観

米マサチューセッツ大学アマースト校とのシードファンド採択

北海道大学は、戦略的国際パートナー校である米国マサチューセッツ大学アマースト校（UMass Amherst, UMA）と共同研究分野の裾野を広げることを目指し、共同出資で研究者のモビリティを支援する「HU-UMA Joint Research Seed Fund（HU-UMA共同研究シードファンド）」を開設しています。二度目となる令和8年度の申請には、「先端農業（再生可能・デジタル農業を含む）」「ブルー／グリーンエコノミー、持続可能性とプラネタリー・バウンダリー」「未来の食糧」「高分子工学（ソフトマター、先端材料を

含む）」「先端製造技術」のいずれかのテーマに係る共同研究へつながる申請を募集し、北海道大学4件、UMA側7件、計11件の申請がありました。最大8,000 USD／件支援の枠で、「新興AIハードウェアに関するUMA-HU共同ワークショップ」「知能農業ロボット開発」「高スループット実験とX線散乱によるポリウレタン劣化機構の解明」「持続可能なエネルギー貯蔵のためのリグニン由来炭素材料」「ウイルスサブシド構造と動態が不活化と持続性に及ぼす影響の理解」の5件を、最大20,000 USD／件支援の枠で、「産業支援をと

おした応用に向けての高分子及びソフト材料基礎研究」の1件、合わせて両校で6件の研究申請を採択しました。

両校の既存交流を示す高分子工学、情報科学分野の申請が目立ったほか、1月30日（金）に開催したフードサイエンス・シンポジウムの講演者や、気候変動の国際的な枠組みで連携している研究チームの動きも見られました。今回の資金援助を、外部研究資金獲得への足掛かりとすることが期待されています。

（国際連携推進本部、研究振興企画課）



2026年度採択者

豪メルボルン大学とのマッチングファンド2026を採択

北海道大学は戦略的国際パートナー校である豪州メルボルン大学と、2022年に共同研究ワークショップファンドを立ち上げました。初年度は哲学、ナノ材料、住環境、高齢者医療、機械薬理学、2023年度は先住民研究、ユーラシア研究、畜産、ウイルス学、作物遺伝、2024年度は天然物探索、持続可能なインフラ、デジタルヘルス、女性の健康、スマート材料、2025年度は思春期のウェルビーイング、移民労働者と気候変動、ワイン研究、ウクライナ研究、先住民芸術と、4年で20件の多様な分野のワークショップを採択してきました。両校共同出資の下、北海道か

らメルボルンのいずれかで研究ワークショップを開催したチームからは、大型外部資金の獲得（高齢者医療、畜産、先住民研究）、国際学会での共同セッション開催につながっています。また、教育面での成果も著しく、デュアルディグリー博士課程の立ち上げ（ナノ材料で現在2名在籍。本年10月にさらに2名入学予定）、大学院生の研究滞在に加え、Hokkaidoサマー・インスティテュートでは今年度13科目を開講予定です。

3月19日（木）には、5年目の採択課題を選出する両校の合同審査会が開催され、18件の申請の中から、北海道大

学で開催する「がん微小環境と次世代型研究連携」「森林火災・洪水・極端気候に強い防災インフラ材料」「分子構造から疾病治療へ：オートファジーと神経変性研究の統合」、メルボルン大学で開催する「アジア太平洋地域の農村の未来を考えるシンポジウム」「量子可積分確率過程の対称性構造」の計5件を採択しました。この5年間、申請件数は増加し続けており、分野の多様性と成果も見られることから、来年度以降のさらなる期間延長が合意されています。

（国際連携推進本部、研究振興企画課）



両校の採択者たち

「SDG-UP公開シンポジウム」に横田 篤理事・副学長が登壇

3月13日（金）、国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）「SDG-UP公開シンポジウム」が国連大学本部ビル及びオンラインのハイブリッド形式で開催され、横田 篤理事・副学長（最高サステナビリティ責任者）が登壇しました。

SDG大学連携プラットフォーム（以下「SDG-UP」という。）は、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組を推進する国内の大学が、相互に連携する場となることを目的として、令和2年に設立されました。国連大学と国内の大学が連携し、高等教育におけるSDGsの推進、人財育成及びステークホルダーとの協働体制の強化を図ることにより、日本及び国際社会の持続可能な発展に寄与することを目指しています。

本シンポジウムでは、SDG-UPの各分科会及び参加大学による、SDGs達成に向けた取組状況が紹介されました。マネジメント層分科会からは、横田理事・副学長が登壇し、「トップダウンとボトムアップの好循環」と題して発表を行いました。

横田理事・副学長は、SDGsの達成に向けて必要となる大学運営の在り方として、各大学がそれぞれの発展の歴史や特色を活かしながら、SDGsの枠組みを大学運営に取り入れ、サステナビリティやSDGsの概念を大学全体に浸透させていくことの重要性を説明しました。その後、SDG-UPに参画している各大学の好事例を紹介し、「大学の経営力強化・2030年以降に向けた高等教育政策の方向性」として5つの提言を行いました。

続く質疑応答では、「どのようにして大学全体に浸透させるのか」という質問が寄せられ、本学の取組事例として、全構成員の気づきと一体感の醸成を図ることを目的に実施している全部局を対象とした出張FD・SDなど、教職員に対する研修の取組を紹介しました。

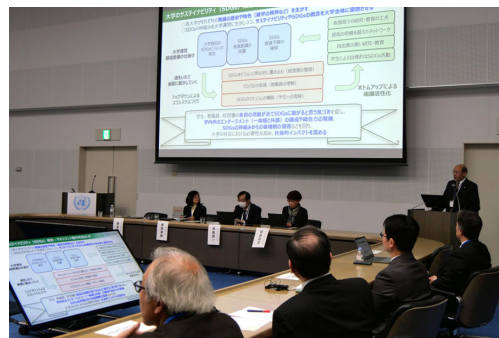
また、本シンポジウムでは、本学も参画しSDG-UP参加大学が共同開発した「国連SDG入門」コースを受講した学生たちによる発表と議論も行われました。

本学は、今後もSDG-UPの取組に参画し、大学間連携を通して持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

（サステナビリティ推進機構）



シンポジウム登壇者の集合写真



シンポジウムの様子



講演を行う横田理事・副学長

ウェルネス推進プロジェクト「H-ARTs (ハーツ)」で「無料で健康チェック！」を実施

3月8日(日)、北海道大学をはじめとする5者が連携して取り組むウェルネス推進プロジェクト「H-ARTs (ハーツ)」は、令和8年初回となる「無料で健康チェック！」を実施しました。

本イベントは、健康で持続可能な地域社会づくりへの貢献を目指し、令和5年からこれまでに計10回実施してきました。当日は326人が参加し、これまでの参加者数は延べ2,900人を超えています。また、本イベントには本学をはじめとする近隣大学の学生ボランティアがスタッフとして参加しており、学生と地域の方々との交流の場にもなっています。

令和8年は、より参加者の健康に寄

与できるように、従来のスタンプカードを「記録カード」に変更して実施しました。これにより、参加者は年間を通して測定結果を比較でき、継続的に自身の健康を意識しやすい仕組みとしました。また、学生ボランティアを企画・運営に取り入れることで、地域の方々とのより一層の交流を促すとともに、学生の主体性、やりがい、責任感の醸成を図っています。

今回のイベントでは「ハカル」「タベル」「ウゴク」「トトノエル」の4つのテーマを掲げ、6つの測定プログラムと商品試食・試食体験を展開しました。具体的には、「脳年齢測定」「骨健康度測定」、推定野菜摂取量を測定す

る「ベジチェック®」、身体のゆがみ測定と効果的な運動を提供する「TANO (タノ)」、カーブスを運営する株式会社アドバンスが提供する「握力測定」、株式会社ニッポンが提供する「血管年齢測定」「金のアマニの試食・配布」及び北海道キリンビバレッジ株式会社が提供する「イミューズ試飲」を実施しました。さらに、薬剤師や管理栄養士に相談できる「結果相談ブース」を設置し、測定結果に基づいた具体的なアドバイスが参加者に提供されました。

今回の開催は、5月31日(日)を予定しています。

(サステナビリティ推進機構)

名称：無料で健康チェック！

日程：令和8年3月8日(日) 10:00~16:00 (最終受付)

場所：スーパーアークス北24条店1F・2F (札幌市北区北24条西9丁目1-1)

主催：北海道大学、株式会社アークス、株式会社ラルズ、株式会社ツルハ、札幌市

協力：エア・ウォーター・ライフソリューション株式会社、株式会社アドバンス、株式会社ニッポン、北海道キリンビバレッジ株式会社

対象：一般市民

参加費：無料



脳年齢測定の様子



ベジチェック®測定の様子

H-ARTs無料で健康チェック！
2026年記録カード

※本日の健康チェックにも、この記録カードをご持参ください。
※結果の記入はスタッフがいたします。
※測定結果を毎年お集まりの冊子にて送付いたします。

ブース位置	1F	2F通路	2Fコミュニケーションルーム		※ブース位置は毎日販売やイベントにもご変更いたします。		スタッフ所属部署
日付	脳年齢測定	ベジチェック	握力測定	TANO (姿勢)測定	骨健康度測定	その他	
3月8日(日)	歳	点	kg	点		血管年齢測定： 歳	
5月31日(日)	歳	点	kg	点			
8月23日(日)	歳	点	kg	点			
11月8日(日)	歳	点	kg	点			

※注：お客様ご自身で「スタッフ使用欄」に比較された場合、集品のお渡しができなくなる場合があります。

今回導入した記録カード



結果相談の様子

「炭素会計アドバイザーセミナー」を開催

3月19日（木）、サステナビリティ推進機構と一般社団法人炭素会計アドバイザー協会は、環境省北海道地方環境事務所の共催、Team Sapporo-Hokkaidoの協力のもと、「炭素会計アドバイザーセミナー」を学術交流会館において、ハイブリッド形式で開催しました。本イベントにはオンラインを含め63名が参加しました。

企業が脱炭素化を進めるにあたっては、自社のみならずサプライチェーン全体から排出される温室効果ガス（以下「GHG」という。）を把握し、削減していくことが求められます。そのためには、GHG排出量の算定、削減目標の設定、具体的な削減策の実施、さらには財務面を踏まえた設備投資の検討や経営方針への反映など、多角的な知識・ノウハウが必要となります。こうした背景を踏まえ、環境省ではガイドラインを策定するとともに、脱炭素に関わる民間資格に合格した者を「環境省認定制度 脱炭素アドバイザー」として認定する制度を設けています。

本セミナーでは、はじめに環境省北海道地方環境事務所の西野雄一次長が、「環境省における脱炭素人材育成の取組」と題して講義を行いました。

この中で、日本においては、世界全体での1.5℃目標*と整合的で、2050年ネットゼロの実現に向けた直線的な経路にある野心的な目標として、2035年度、2040年度において、新たにGHGを2013年度からそれぞれ60%、73%削減することを目指す「日本のNDC（国が決定する貢献）」を2025年2月に国連気候変動枠組条約事務局に提出し、脱炭素と経済成長の同時実現に向け、GX投資の加速、GX人材の育成及び地域脱炭素の取組の支援を推進していることが説明されました。

続いて、一般社団法人炭素会計アドバイザー協会の山田英司副理事長が、「カーボンニュートラルへの課題と現状」と題して講義を行いました。環境省の認定制度「脱炭素アドバイザーベーシック」に認定されている「炭素会計アドバイザー3級」の講習内容を基に、炭素会計の基礎について解説し、炭素会計の仕組みを理解した上で、現状把握、目標設定、移行計画の策定といったサイクルを回すこと、さらにTCFDやCDP等の情報開示を適切に活用しながら、自社のGHGを削減していく重要性が説明されました。

最後に、株式会社北海道銀行の多賀

公昭サステナビリティ推進室長が、「脱炭素経営への取り組みについて」と題して事例紹介を行いました。日本においても、GHG排出量の開示義務化が見込まれる中、脱炭素の取組が競争優位性の向上やコスト削減といった事業運営上のメリットにつながることを説明し、炭素会計を企業経営に取り入れている企業の具体的な事例が紹介されました。

セミナーの締めくくりとして、サステナビリティ推進機構の加藤 悟教授が、同機構では8月に一般市民及び本学学生を対象とした「炭素会計入門」と題する科目を開講予定であることを紹介するとともに、今後も「脱炭素アドバイザー」資格取得者の増加を通じて、脱炭素社会の実現に貢献していくことが述べられ、本セミナーは終了しました。

* バリ協定で示された、世界の平均気温の上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力をするという目標。

（サステナビリティ推進機構）



講演を行う西野次長



講演を行う山田副理事長



講演を行う多賀室長



講演の様子

「北海道大学所在地の先住民族に対する敬意の表明」を公表

アイヌ共生推進本部（アイヌ シサム ウレシバ ウコピリカレ ウシ）では学内外のアイヌ民族とそのほかの学内構成員との共生を実現するための各種施策の企画立案に取り組んでいます。

3月27日（金）、その取組の一つとして、アイヌ民族がこの地で長い歴史と文化的つながりを持ってきたことに深く敬意を表し、歴史的経緯を語り継

ぐため「北海道大学所在地の先住民族に対する敬意の表明（全文版／概要版）」を公表しました。また、公表に伴い札幌キャンパス構内（正門横・北海道大学施設案内）に、この敬意の表明を示す銘板を設置しました。ウェブサイトでの公表に加えて、銘板を設置することで、本学の構成員のみならず、国内外からの多くの来訪者が、本学の

キャンパスがあるこの土地のアイヌ民族の歴史と今日を認識し、理解を深める契機となることが期待されます。

詳細はアイヌ共生推進本部（アイヌ シサム ウレシバ ウコピリカレ ウシ）ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/ainu/>

（アイヌ共生推進本部）



設置場所



銘板

「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 講師が講義、見学を実施

各高等学校へ向けて、出張講義や大学で研究室見学講義を行いました。受講した生徒、及び教員から、講義レポートが届きましたのでご紹介します。

日時：2025年12月11日（木）13:00～14:30

参加校：北海道科学大学高等学校

「がん感染症に対する自然免疫系のはたらきと創薬」 医学研究院 講師 水谷龍明

講義では、免疫学の歴史を踏まえながら、獲得免疫と自然免疫の仕組みがどのように理解されてきたかの説明がありました。特に、病原体の識別するTLRの発見が自然免疫の重要性を大きく高めたこと話し、結核研究を題材に、マクロファージのM1・M2という働きの違いや、好中球がM2誘導を通して免疫を抑制する仕組みが紹介されまし

た。生徒たちが関心を持ったのは、水谷先生の研究が「おもしろいんちゃう？」という素朴な好奇心から始まり、「なぜ?」「本当に?」といった問いを重ねることで、学術的な深みへと到達していく過程が鮮明に示された点でした。一つの疑問から真理へと迫る姿勢は、生徒たちが今後取り組む探究的な学びに繋がるものだと感じました。



研究室見学の前に医学部百年記念館で講義を実施する水谷講師

日時：2025年12月12日（金）9:00～12:00

参加校：札幌第一高等学校

「『流れ』によって化学を変える」 理学研究院 教授 永木愛一郎

フローマイクロリアクターを用いた有機合成について、不安定な中間物質をミリ秒単位で反応させる方法や、反応条件の制御などについて説明がありました。時間・混合・温度の制御や連続反応といった、フラスコを用いた化学の限界を超える技術について、川の流れや瞬間湯沸器にたとえながら分かりやすく解説されました。「目の前の

ことを180%全力でやり抜けばそれ自体が宝物になる」という永木先生の言葉に、生徒は感銘を受けていました。研究室見学では、大学院生の皆さんから説明を受けました。生徒からは、「フラスコではできない反応を可能にする技術が画期的だった」「リアルな研究の様子を見て、自分も研究者への志が高まった」などの感想がありました。



見学前に座学で生徒たちへ講義を行う永木教授

日時：2025年12月12日（金）15:40～17:00

会場：北海道札幌北高等学校

「疫学と医学で読み解くデータサイエンス」 環境健康科学研究教育センター 特任准教授 岩田啓芳

PFAS（有機フッ素化合物）と川崎病の関連を検証した疫学論文を題材に、研究の進め方、とりわけ疫学・統計学の重要性について講義がありました。科学的判断には「薬が病気に有効か」「因子が病気と関連するか」を厳密に検証する必要がある、そのためには膨大なサンプル数が不可欠です。相関と因果を峻別し、データを正しく処

理することが疫学の基盤であると学びました。生徒たちは、計算をしたり作図したりする実習に真剣に取り組んでいました。PFASが川崎病を抑制するように見える解析結果に、質問が出るなど白熱した講義でした。留学についてのアドバイスや、医師・研究者としてのキャリアについてのお話にも生徒たちは真剣に耳を傾けていました。



生徒たちへ疫学について解説する岩田特任准教授

日時：2025年12月12日（金）16:30～18:00

参加校：北海高等学校

「原子力発電所の廃止措置」 工学研究院 教授 渡邊直子

原子力発電の廃棄物や廃止措置について研究を進める渡邊先生から、放射性廃棄物の処理・処分の難しさをゴジラに例えて説明がありました。今後は運転を終えた原子力発電所の廃止措置が本格化し、放射性廃棄物量の増加が見込まれることから、社会全体で課題解決に向けた議論が必要であると解説されました。

受講した生徒からは、「原子力発電所が近くにならないため、身近な問題として捉えていなかったが、処分の問題は誰にとっても無関係ではないと感じた」「原子力の問題は他人事ではなく私たちの未来に深く関わると知って、考え方が変わった」といった声が寄せられました。



参加した生徒へ話しかけながら講義を進める渡邊教授

日時：2026年1月20日（火）13:30～16:30

参加校：札幌第一高等学校

「顕微鏡でみる、ミクロな水中の世界」 低温科学研究所 教授 木村勇気

中谷宇吉郎先生の「雪は天から送られた手紙」に始まり、雪の結晶の昇華から逆に結晶生成のメカニズムをたどる研究や、原始太陽系星雲内での水の生成から分子進化を探る研究など、現在取り組んでいる研究について紹介がありました。見学では、過冷却水からの凝固やダイヤモンドダストを生徒が実際に作る体験なども織り交ぜながら、大学院生ともたくさん交流させて

いただきました。一見社会と関係ない地道な基礎研究も、やがて世の中に役立つことがあるというお話や、「何かに秀でていれば他分野のすごい人とつながることができる」「専門分野のことだけではなく日本に関する広い教養を持つことで、つたない英語でも世界の人が興味を持ってくれる」という言葉に、生徒は感銘を受けていました。



参加した生徒へ楽しむことも大切だと話す木村教授

日時：2026年1月21日（水）15:40～17:00

会場：北海道札幌北高等学校

「ワクチンはなぜ効くのか？ー病原体を記憶する免疫の仕組みー」 ワクチン研究開発拠点 特任准教授 高田健介

免疫反応の仕組みについて説明がありました。「あるワクチンに効果があるかどうかを、実験データを見ながらどのように判定するのか」というお題でした。難しい問題でしたが、免疫の仕組みを理解していれば、実験で起きていることを読み取り、十分に科学的な判断ができるということが分かりました。基本的な知識をしっかりと学び、

自分で考える大切さも学ぶことができました。さらに、「このワクチンが有効であることが分かりました。では、そのことを生物学の知識がない人に説明して納得してもらうにはどうしますか」という問いには、皆が言葉に詰まっていました。知識を伝え、社会を変えていくことの難しさと大切さにも目を向けることができました。



生徒たちへ問いかけながら講義を進める高田特任准教授

日 時：2026年2月3日（火）①13:00～14:00 ②14:15～15:15

会 場：北海道富良野高等学校

「ナノテクノロジーが拓く新しい電池」 理学研究院 准教授 小林弘明

リチウムイオン電池の次世代電池の開発について、最先端の研究の紹介がありました。マグネシウムやナトリウム、鉄を使うことで、リチウムイオン電池並みの高エネルギー密度が得られ、安価、安全といった点でも期待できる材料であり、先行研究もほとんどない点でワクワクしている旨が話されました。目指すは資源の輸入やレアメタルに依存しない「資源制約フリー電

池の創出」で、今後の進捗が楽しみな内容でした。「疑問を持ち、挑戦し続けることが重要であると実感した」「化学や物理で学んだ知識が社会に役立っていることが分かって嬉しかった」といった生徒たちの声が寄せられ、身近であって、なくてはならない電池の存在と未来を考えを巡らす様子が見られました。



生徒たちへ研究の楽しさを話す小林准教授

アカデミックファンタジスタとは？

北海道大学の研究者が知の最前線を出張講義や現場体験を通して高校生などに伝える事業、「アカデミックファンタジスタ (ACADEMIC FANTASISTA)」。内閣府が推進する「国民との科学・技術対話」の一環として、北海道新聞社の協力のもと2012年から継続的に実施しています。2025年度は北海道の高校等を対象に31名の教員が講義を実施しています。

北大の研究を発信するウェブマガジン「リサーチタイムズ」や、Facebookでも講義レポート等を随時更新中です。こちらもぜひご覧ください。

・リサーチタイムズ
<https://www.hokudai.ac.jp/researchtimes/academic-fantasista/>
 ・Facebook @Hokkaido.univ.taiwa

(広報・社会連携本部)



リサーチタイムズ



Facebook

キャリアセンターと先端人材育成センターが合同で北海道大学キャリア支援シンポジウムを開催～全国からキャリア支援関係者が集結

3月10日（火）、高等教育推進機構キャリアセンターと大学院教育推進機構先端人材育成センター合同で、北海道大学キャリア支援シンポジウムを開催しました。

昨年に引き続き2度目の開催となった本シンポジウムでは、本学の特徴である「学部から博士まで一貫したキャリア支援」に関する現状や課題について共有し議論するパネルディスカッション及び本学・他大学・企業によるポスターセッションを実施しました。

冒頭、寶金清博総長から開会の挨拶、文部科学省高等教育局大学振興課の永見浩輔氏から本シンポジウムへの期待や現在のキャリア支援に関する挨拶講演をいただきました。

パネルディスカッションでは、学部・修士・博士卒の社員が記者として活躍しているメディア関連企業でHR室長をされている株式会社日経BPの佐原加奈子氏、企業のR&D部門で高度専門人財の採用や人材開発を行う民間企業の立場から富士通株式会社の奥 秀和氏、本学キャリアセンターの亀野 淳センター長、キャリア教育や企業、人事制度の専門家の立場から法政大学の梅崎 修氏がパネリストとして登壇

し、それぞれの立場からキャリア支援に関する意見交換を行いました。特に、研究大学ならではの理系人材や博士人材の育成や企業等社会での活躍について時間をとって意見交換が行われました。

また、キャリア支援に関する取組を掲出したポスターセッションでは、様々な部署からキャリア支援に関する取組が発表されました。他大学、民間企業等もあわせて32件のポスターが掲出された会場は大賑わいとなり、各ポスターの前では活発に質問や意見の交換が行われました。

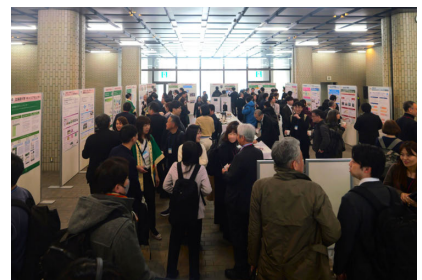
最後に、シンポジウムを総括して山本文彦理事・副学長から、今後のキャリア支援や人材育成に関する期待や課題への総括が述べられ、閉会となりました。

対面開催のみで実施した本シンポジウムでしたが、全国から157名の参加があり、参加者からは「北大の様々な取組がよく理解できた」「定期的に開催してほしい」など多くの声が寄せられました。

（教育イノベーション機構）



パネルディスカッションの様子



様々なキャリア支援の取組が発表されたポスターセッション会場



懇親会でも活発な意見交換及び挨拶をする高橋 彩 理事・副学長



登壇者で集合写真

タイトル：北海道大学キャリア支援シンポジウム2026

日時：令和8年3月10日（火）13:00～17:10（ポスター会場 11:00プレオープン）

会場：シンポジウム 北海道大学学術交流会館 講堂、1Fホール

懇親会 カフェdeごはん

主催：高等教育推進機構キャリアセンター

大学院教育推進機構先端人材育成センター

共催：大学院教育推進機構博士人材育成部/高等教育推進機構高等教育研究部

後援：札幌市

パネリスト（登壇順）：

株式会社日経BP執行役員・HR室長 佐原加奈子氏

富士通株式会社Employee Success本部 R&D人事部シニアマネージャー 奥 秀和氏

北海道大学高等教育推進機構キャリアセンターセンター長・教授 亀野 淳氏

法政大学キャリアデザイン学部/地域創造インスティテュート 教授 梅崎 修氏

URL：<https://career-navi.synfoster.hokudai.ac.jp/career-symposium.html>

当日の様子：https://note.com/report_hokudai/n/n80ff442fd5fa

学生相談総合センター学生相談室主催「ほっとかわりプログラム」を開催

学生相談総合センター学生相談室では、学生を対象に定期的にグループプログラムを開催しています。今回は「ほっとかわりプログラム」として、心も体もほっとできるようなグループワークを全4回実施しました。

このプログラムは、事前に参加申し込みのあった学生7名を固定メンバーとし、11月27日（木）、12月4日（木）、12月11日（木）、12月18日（木）に4週連続で実施しました。それぞれの回に「1.知り合う」「2.楽しむ」「3.深める」「4.味わう」と段階的にテーマを設け、学生が目的意識を持ち安心して参加できるよう計画し、学生相談室のスタッフ2名が担当しました。

「1.知り合う」では、はじめ緊張感はありませんでしたが、安心してグループに参加するための約束の確認やアイスブレイク、境界線の体験、自己紹介をしたのち、参加目的や心境などを話し合う中で、少しずつ雰囲気がほぐれていきました。

「2.楽しむ」では、カードゲームで遊びながら、人には色々な考えがあることに気づいたり、自分の表現で伝え合うおもしろさを感じたり、笑顔あふれる時間となりました。

「3.深める」では、温かい飲み物を飲みながらサイコロトークを行い、少しドキドキしながら自分の話をしたり、他の人の話を聞きながら真剣に聴いたりしている姿が印象的でした。

「4.味わう」では、事前に参加者とスタッフで話し合ったところ「クリスマスっぽいことをしたい」「みんなで一緒に作れたら楽しそう」という希望があったため、芸術療法の手法を用いたコラージュツリーを作成しました。それぞれの好きな物の写真や、グループに対する思いを表現する写真を貼り付け、選んだ理由も話し合いました。最後には作品を眺めながらグループ全体の振り返りを行い、皆で一緒に過ごすことができたことへの感謝、楽しさ、嬉しさ、といった気持ちを参加者

全員が話してくれ、温かく、心に響く時間となりました。

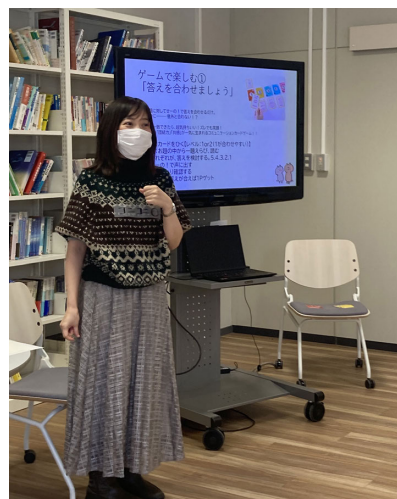
実施後のアンケートからは、「話すのが苦手だけど、落ち着いた雰囲気でした」「話しやすかった」「人と関われる機会がとても貴重だった」「サイコロトークやコラージュツリーが楽しかった」「もっと話したかった」「あつという間だった」といった感想が見られました。集団で過ごす中で今まで気づかなかった自分を知ることができたり、誰かの思いに気づいたり、勇気を出せたり、自信を持てたりと、また一歩成長することにつながっていると思われる。

改組後の学生相談支援センターでも、年間を通じて様々なグループワークやワークショップを実施しますので、ぜひ学生の皆様にご案内ください。

（教育イノベーション機構）



それぞれの思いが詰まったコラージュツリー



ゲームについて説明を行う様子



クリスマスの雰囲気を演出



使用した温かい飲み物やゲーム

ピアサポートルームで年末イベントを実施

学生相談総合センターピアサポートユニットでは、12月1日（月）～12月19日（金）に、年末イベントを実施しました。12月らしくクリスマスの要素を取り入れたほか、1年間の振り返りになるような企画を取り入れました。今回は、イルミネーションでピアサポートルームの入口を華やかに彩りました。

今回は、主に3つの企画からなるオムニバス形式で実施しました。最初は、おみくじを利用者が引く企画、通称「ぴあみくじ」で、ピアサポートルームの前におみくじの入った箱を用意しました。おみくじには「クラーク吉」「ポプラ並吉」「ネコ吉」など、個性豊かなものを用意し、引いて楽しいおみくじを制作しました。おみくじの文面もピアサポーターが自ら考え、ここでしか引けないおみくじに仕上が

りました。

次に「ぴあツリー」で、ピアサポートルーム前の廊下に、クリスマスツリーを模した模造紙を貼り付け、アンケートを実施しました。例えば「クリスマスに欲しいものは？」などの質問を用意し、利用者が選択肢に応じたシールを貼ることでツリーがどんどんカラフルになっていく、という企画です。利用者が協同で一つのものを作り上げるという楽しさを提供するとともに、ほかの学生のクリスマスの過ごし方を知ることができる、面白いイベントになりました。

最後は、「みんなの頑張りギャラリー」です。ピアサポートルームに賞状のような用紙を用意し、利用者に「令和7年に頑張ったこと」を記入してもらい、廊下に掲示しました。ピアサポ

ーターはその賞状に対して付箋でコメントを貼り付けました。1年間の振り返りをテーマとして、利用者とサポーターの交流を促進する取り組みになりました。

冬季は降雪の影響が大きく、大学への学生の足が遠く季節です。気温の低下や日照時間の短さなど、体調を悪化させる要因もあります。このような時期にピアサポートルームの利用を促進する企画を実施したことには、大きな意義があったと思います。

ピアサポートルームは、情報教育館2階にて、学生の長期休業期間を除く平日の午後に開室していますので、学生の皆様には、ぜひ気軽に利用するようにおすすめください。

（教育イノベーション機構）



年末イベント中のピアサポーター



ぴあみくじ



みんなの頑張りギャラリー



ぴあツリー

「全国大学ピアサポーター合同研修会びあのわ2025 in 愛媛」 参加報告会を実施

12月17日（水）、情報教育館2階ピアサポートルームにおいて、学生相談総合センターピアサポートユニット所属の学生4名（学生相談部門2名、アクセシビリティ部門2名）が「全国大学ピアサポーター合同研修会びあのわin愛媛」に参加した際の成果報告会を実施しました。

「びあのわ」とは、全国の大学のピアサポート組織・団体に所属する学生や興味のある学生、及び教職員が集い、交流と研鑽を行う研修会で、平成20年度以来、毎年継続的に実施されています。令和7年度は、11月29日（土）・30日（日）に愛媛県で開催されました。

報告会は、構成員以外にもオープンな形で開催し、ピアサポートユニット

所属のピアサポーター（学生）及び教職員計10名ほどが昼休みの時間帯に会場しました。

報告では、びあのわ当日のスケジュールに沿って説明していく形式を用いた一方、特に印象的であった部分は詳細に語り合う場面も取り入れました。また、実際に使用した発表資料や受賞した記念品なども持参し、びあのわの様子を共有しました。

聴講者からは、他大学のポスター発表に関する内容や研修を通じて得られた知見、今後実施してみたい企画等について質問や意見が寄せられました。また、ピアサポーター同士の交流を通じた情報共有の場づくりに関する意見もあり、今後の各部門のピアサポート

活動の連携の広がりが期待される場となりました。

報告会は学習成果を共有できる場であり、かつ、ピアサポーター自身の学びを再考する貴重な機会でもありました。

「びあのわ」プロジェクトは、参加したピアサポーターにとって、参加手続・ポスター作成・本番当日・報告会まで4か月にわたる取り組みです。これら活動の記録が次年度以降に引継の役割を担うこと、ひいてはユニット全体の今後の活動のヒントとなると期待し、令和7年度の「びあのわ」プロジェクトは幕を下ろしました。

（教育イノベーション機構）



びあのわ当日の説明

企業に内定した博士と語る「内定者座談会」の実施

大学院教育推進機構先端人材育成センター上級人材育成部門（S-cubic）では、2月20日（金）にセンター初の試みとなる「内定者座談会」を実施しました。本プログラムは、民間企業への就職が決まった博士課程学生から就職活動の実体験を共有してもらい、これから就職活動を迎える学生が自身のキャリアを考える契機とすることを目的としたもので博士課程学生13名、修士課程学生3名、学部生1名の計17名が参加しました。

当日は、製薬、化学、素材、分析機器、モビリティ分野等の企業に内定した博士課程学生7名が登壇し、所属学院や研究分野の異なる多様な背景をもとに、就職活動の進め方や意思決定の過程について具体的な経験が共有されました。先輩からのメッセージとして、就職活動開始時の考え方やその後

の変化、試行錯誤の過程、振り返りから得た気づき等、一人ひとり異なる内定に至るまでのストーリーが語られました。

その後の座談会では、複数のグループに分かれて登壇者と直接対話する形式で意見交換を行いました。企業選択の軸の定め方や研究内容と志望職種の関係、選考過程で意識した点などについて具体的な質問が多く寄せられ、ざっくばらんな雰囲気の中で活発な議論が展開されました。参加者が自身の状況と照らし合わせながら熱心に質問する姿が見られ、登壇者との距離の近い交流の場となりました。

参加者からは、「様々な経験談から現実的に自身の将来の就活をシミュレーションすることができた」「採用選考は企業からの評価の場ではなく企業とのマッチングの場という考え方が参

考になった」「キャリア形成は経緯もスケジュールもそれぞれ違うと知ることができた」等の感想が多く寄せられ、登壇者の多様な進路選択や価値観に触れることで、改めて自身のキャリアについて考えるきっかけとなったことがうかがえました。また、登壇者からもこのプログラムの継続を望む声が寄せられました。

S-cubicでは、博士人材が主体的にキャリアを考え、多様な進路を選択できるように、今後も実践的なキャリア支援の機会を提供してまいります。本プログラムを通じて得られた気づきが、参加者の今後の進路選択に活かされることを期待します。

（教育イノベーション機構）



登壇者による講演



グループに分かれての座談会

■ 部局ニュース

経済学院がベスト・チューター賞授与式を開催

経済学院では、令和元年度から、教育・研究の国際化及び留学生支援を促進することを目的として、優れたチューターに対して「ベスト・チューター賞」を授与してきました。

令和7年度は、最優秀賞に博士後期課程2年生の凡 貞さん、優秀賞に学部4年生の藤原可統さんが選出され、3月25日（水）に百年記念会館において久保淳司経済学院長から表彰状が授与

されました。

（経済学院・経済学研究院・経済学部）



受賞者との記念撮影

理学研究院と国土交通省北海道開発局が連携協定を締結

3月9日（月）に、理学研究院と国土交通省北海道開発局は、地震や火山噴火の研究を推進することで災害の軽減に貢献することを目指した連携協定を締結しました。

協定調印式には、本学から永井隆哉理学研究院長、高橋浩見地震火山研究観測センター長、同センター青山 裕

教授、菅原育哉事務部長、北海道開発局からは遠藤達哉局長、岡下 淳事業振興部長、貴家尚哉事業振興部調整官、吉野雅之防災課長が出席し、遠藤局長と永井研究院長から、それぞれ挨拶と抱負が述べられました。

本研究院では、この協定に基づき、北海道開発局が所有する道路管理用の

光ファイバーケーブル等の貸与を受け、有珠山等の北海道内の活動的火山や、地震発生に関する調査研究を進めることで、地域防災力の向上に貢献する取り組みの一層の推進を図ります。

（理学研究院）



協定調印式の様子

医学部が令和7年度最終講義・退職記念式典を挙

医学部では、3月13日（金）、医学部学友会館「フラテ」ホールにて、令和7年度最終講義・退職記念式典を挙

行しました。
3名の教員による最終講義が行われ

た後、引き続き退職記念式典が行われ、田中伸哉医学研究院長、浅香正博同窓会会長及び教授会代表者として豊嶋崇徳教授から挨拶がありました。続いて、長年の功績をたたえ、感謝の意を込めて、医学部医学科学友会の田中会長と医学部同窓会の浅香会長から記

念品が贈られ、学友会及び所属教室からは花束が贈呈されました。

（医学部・医学院・医学研究院）

【最終講義】

免疫・代謝内科学教室 渥美達也 教授
最終講義題目「全身性自己免疫疾患の克服のために」

麻酔・周術期医学教室 森本裕二 教授
最終講義題目「麻酔科医不足と対峙した22年」

小児科学教室 真部 淳 教授
最終講義題目「子どもを扱う医学と医療の素晴らしさ」



最終講義をする渥美教授



最終講義をする森本教授



最終講義をする真部教授



関係者による記念撮影

北大PRISM-HU事業で豪メルボルン大学医学と連携

北大と豪州メルボルン大学は、半世紀以上、微生物学・感染症の分野で継続的な連携を行っており、令和3年度年末からは戦略的国際パートナーとして、保健科学、社会医学の分野での研究教育連携を図ってきました。令和7年4月に田中伸哉医学研究院長が同学を訪問したのをきっかけに、両校の医学研究での連携を進めるべく、日本医療研究開発機構（AMED）採択事業「ひと・AI/DX・しくみの三位一体的整備による次世代AI活用駆動・情報循環型医学研究（PRISM-HU）」では、海外連携先として同学を指定しています。本事業は、地方医療を維持しながら「真の研究時間」創出を目指すため、専門人材と制度開発、業務効率化と研究高度化のためのAI/DX活用を掲げており、AIを医学研究に活用する若手・中堅研究者12名を主任研究者（PI）に据えています。

2月19日（木）・20日（金）には、メルボルン大学医学・歯学・保健科学研究院を同事業PIである先端生命科学研究院の中岡慎治教授（数理生物学）、医学研究院の田中 努助教（がん免疫）、小田義崇助教（腫瘍病理）に加

えて、北大病院の渡邊史郎助教（核医学）、医学院博士課程学生の韓 豊氏、国際連携推進本部の植村妙菜学術主任専門職の計6名が訪問し、同研究院執行部にPRISM-HUを紹介し、今後の分子・基礎医学研究、ビッグデータ・オミックス研究での連携可能性について打ち合わせを行いました。メルボルン大学からは、マギー・ダンシャン准研究院長（国際）、サラース・ランガナサン医学院長、フレデリック・ホランド副医学院長、ブルース・トンプソン保健科学院長、アンナ・ライアン医学教育学科長、クリストベル・サンダース教授がホストとなり、中岡教授からの北大がPRISM-HUで目指す「北大モデル」の説明、また、田中助教、小田助教、渡邊助教からの研究プロジェクトの紹介に耳を傾けました。

ランガナサン医学院長からは「工学・医学団地の連携については、あくまでも医理工学というような限られた分野になっていたのが現状で、研究者個人個人の動き次第であった。AI活用に関心のある研究者を北大と一緒に繋げられれば。インフラ整備として『北大モデル』の実情を学びたい」、ダンシャ

ン准研究院長からは「本年後半に、AI活用希望研究者を含んだ訪問団派遣を調整できれば」との希望が示されました。また、医学研究推進の任にあるサンダース教授からは、乳がん、前立腺がん、メラノーマに代表されるがん研究、感染・免疫、小児医療、心血管系、神経科学・メンタルヘルス分野でのメルボルン大学の強みが紹介されました。

一行は、ホランド研究室、ピーター・マッカラムがんセンター、生物学・数理学・統計学の融合イニシアチブであるメルボルン統合ゲノミクス（MIG）、工学・情報技術研究院、ピーター・ドハティ感染免疫研究所の研究者らとの打ち合わせを行ったほか、ハリー・ブルックス・アレン解剖・病理学博物館、先住民のブッシュ・メディシン（薬草療法）と西洋薬学の展示を行う医学史博物館、医学系スタートアップ企業やヘルスケアシステムの実装実験を行うスペースが集まるメルボルン・コネクトを見学し、2日間の充実した訪問を終えました。

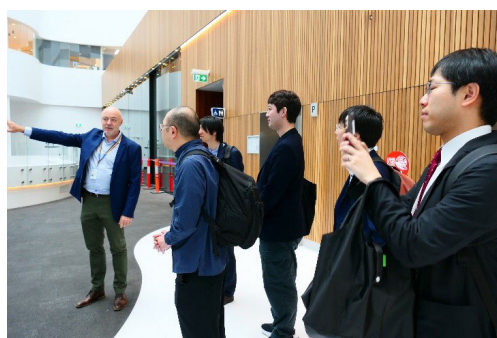
（医学研究院、国際連携推進本部）



メルボルン大学医学・歯学・保健科学研究院執行部と本学一行



解剖・病理博物館前にて



ホランド副医学院長の案内を受ける一行

薬学研究院が「第22回薬学研究院研究発表会」を開催

薬学研究院では、3月6日（金）に「第22回薬学研究院研究発表会」を開催しました。本発表会は、教員のプレゼンテーション能力向上及び、他分野の研究に関する理解を深めることによる共同研究の活性化を目的として、平成24年度に始まり、FD研修会を兼ねて、年2回実施しています。

発表会は、市川 聡薬学研究院長による開会の挨拶の後、有機合成医薬学

部門の山本一貴助教による「天然物創薬を加速する誘導体ライブラリー迅速合成法の開発」と題する発表及び、分子細胞医薬学研究室の大久保直登講師による「抜歯される『廃棄物』を『バイオリソース』へ：歯科知見を活かした社会実装への挑戦」と題する発表の2件の研究発表が行われました。

本発表会には、教員47名が参加し、様々な分野の教員から発表者への質問

があり、活発な討論が交わされました。教員の異分野への知見の拡大やプレゼンテーション能力の向上に、また共同研究の活性化に繋がる非常に良い機会であり、大変有意義な会となりました。次回は本年8月に開催予定です。

（薬学研究院・薬学部）



山本助教の発表及び全体の様子



大久保講師の発表及び質疑応答



令和7年度北海道大学物質科学フロンティアを開拓する Ambitiousリーダー育成プログラム修了式を開催

3月11日（水）、北海道大学物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム（ALP）第8期生1名の修了式が、90年以上の歴史がある理学部本館大会議室にて執り行われました。ALPとは物質科学を中心に分野横断的に学び、社会人として高い能力を養い、学位取得後には学術・研究機関だけではなく民間企業など社会の広い分野で国際的に活躍する人材を育成するための博士課程大学院教育プ

ログラムです。令和2年3月に文部科学省の補助金事業としての補助期間は終了しましたが、北大の事業として継続して活動しています。

修了証書授与のあと、第8期生として修了した1名がこれまでの活動を振り返って挨拶を述べ、会場から大きな拍手が送られました。続いて、石森浩一郎教授（プログラムコーディネーター・副学長）が8期生にはなむけの言葉を贈りました。

詳細はPh.Discover（博士人材の未来を拓く情報発信サイト）をご覧ください。

<https://phdiscover.jp/phd/article/3529>



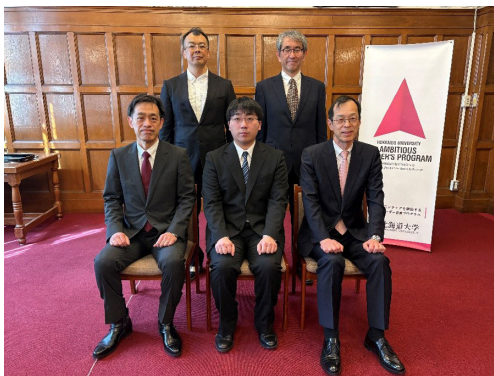
（総合化学院・理学院・工学院・
環境科学院・生命科学院）



修了するALP8期生（1名）



はなむけの言葉を贈る石森コーディネーター



プログラム教員と第8期生の集合写真

令和7年度北海道大学スマート物質科学を拓く アンビシャスプログラム第3期生修了式を開催

3月11日（水）、令和7年度北海道大学スマート物質科学を拓くアンビシャスプログラムの第3期生（博士後期課程3年次3名）の修了式が、理学部大会議室にて執り行われました。このプログラムは、広義の物質科学分野を専門とする大学院生に対して、専門分野の研究にとどまることなく、スマート物質科学力並びに社会実装実現力を養成するものです。

修了証書授与の後、修了した3名がこれまでの活動を振り返って挨拶を述べ、会場から大きな拍手が送られました。続いて、武次徹也プログラムコーディネーター（理学研究院教授）が3期生に、はなむけの言葉を贈りました。

詳細はPh.Discover（博士人材の未来を拓く情報発信サイト）をご覧ください。

<https://phdiscover.jp/phd/article/3531>



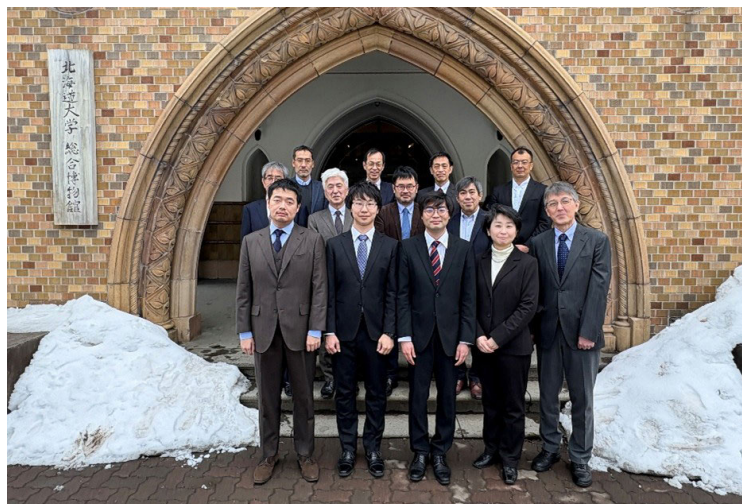
（総合化学院・理学院・工学院・
環境科学院・生命科学院・情報科学院）



修了証書授与



はなむけの言葉を贈る武次コーディネーター



プログラム教員と第3期生の集合写真

国立陽明交通大学においてラーニングサテライトを実施

総合化学院は、1月12日（月・祝）～14日（水）に、台湾・新竹市にある国立陽明交通大学（NYCU）において、ラーニングサテライトを実施しました。本プログラムは、総合化学院の学生に対して、海外大学における講義・研究環境・学生交流を通じた学習機会を提供することを目的として実施された教育プログラムです。

本ラーニングサテライトでは、総合化学院からは村越 敬教授、上野貢生教授、松井雅樹教授の3名及び大学院生5名が参加し、NYCU側からは化学を専攻とする修士課程及び博士課程の学生が多数参加しました。NYCU側では、高分子化学、光化学、物理化学、有機合成化学などの分野を専門とする教員がホストとなり、関連分野を学ぶ大学院生が集まりました。プログラム期間中には、総合化学院の教員による講義が8コマ行われ、光化学、ナノフォトニクス、強光-物質相互作用、無機固体化学、電気化学及びエネルギー

変換など、総合化学院の教育・研究の特色を反映した内容が紹介されました。講義では、理論的背景や研究の考え方を重視した内容に加え、最新の研究動向にも触れ、NYCUの学生からも活発な質問や意見が寄せられました。

また、講義に加えて研究室見学（ラボツアー）やディスカッションの時間が設けられ、参加学生はNYCUにおける研究設備や研究体制を直接見学するとともに、研究テーマや手法について意見交換を行いました。少人数での議論を通じて、研究分野の共通点や相違点を具体的に理解する機会となり、学生同士の交流も自然に深まりました。さらに、プログラム期間中には、講義や研究活動に加えて、学修・研究を通じた国際的な人的交流の機会が設けられ、参加学生にとって国際的な視野を広げる貴重な経験となりました。こうした交流を通じて、参加した学生にとっては、海外大学で学ぶことへの心理的なハードルが下がり、国際的な学習

への意欲が一層高まりました。

最終日には、参加した教員及び学生全員による総合ディスカッションが行われ、本ラーニングサテライト全体を振り返るとともに、今後の研究教育交流の可能性について意見交換が行われました。特に、講義や研究交流を通じて得られた学びや気づきが共有され、本学院の学生にとっては、自身の研究や進路を改めて考える機会となりました。

本ラーニングサテライトは、講義だけでなく、討論や研究交流、文化的交流を組み合わせた教育プログラムとして実施され、参加学生の主体的な学習を促進するとともに、総合化学院の国際的な教育活動の充実に大きく貢献しました。今後も、国際的な研究教育交流を通じて、学生の学習機会の拡充と人材育成を推進していくことが期待されます。

（総合化学院・理学研究院）



講義開始前の参加者全員での記念撮影



ラボツアーの様子



学生同士の交流

国際シンポジウム「第13回人獣共通感染症克服のための コンソーシアム会議」を合同開催

3月5日（木）に国際シンポジウム「第13回人獣共通感染症克服のためのコンソーシアム会議」を、人獣共通感染症国際共同研究所（以下、IIZC）と総合イノベーション創発機構ワクチン研究開発拠点（以下、IVReD）の共催により、オンライン形式で開催しました。

はじめに、IIZC国際協働ユニット（GI-CoRE協力拠点）及びIVReDの拠点長である澤 洋文教授による開会の挨拶が行われました。続いて、世界の第一線で活躍する4名の研究者が、ワクチン創薬開発及び宿主応答に関する最先端研究の進捗状況と研究成果について講演しました。

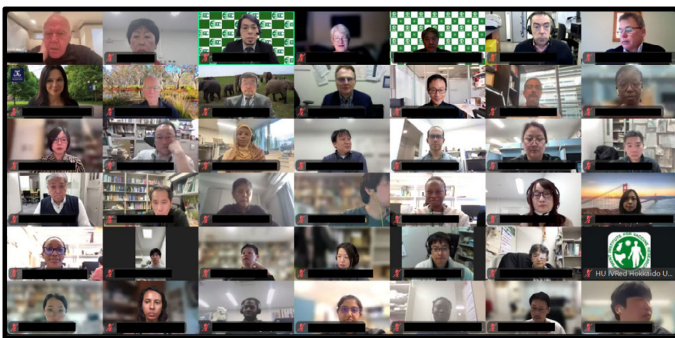
メルボルン大学のキャサリン・ケジェルスカ教授は、小児、成人、高齢者、そして長寿者における免疫機能を解析し、長寿者の健康的老化に関連する因子の同定について報告しました。この成果は、疾患の重症化を軽減するための潜在的な治療標的の発見につながる

可能性があります。IIZCの大野円実助教は、インフルエンザ及びCOVID-19の制圧に向けて、混合不活化全粒子ワクチンの重要性と量産体制の確立が急務であることを発表しました。また、アブドラ国王科学技術大学のアーナブ・ペイン教授は、近年、サウジアラビアやオマーンで発生率が増加しているデング熱に関する研究成果を報告し、陽性患者血清サンプルの解析や系統ゲノム解析、変異解析を通じて、地域内での伝播及び国境を越えた感染流入の可能性を示しました。この結果は、リアルタイムのゲノムサーベイランスが重要であることを指摘するものです。最後にアイルランド国立大学ダブリン校のステイブン・ゴードン教授は、結核に使用されるBCGワクチンの弱毒化に関与する主要な遺伝子要因であるRD1領域について、全ての宿主において病原性や伝播に必須とは限らない可能性を示唆しました。さらに

RD1領域を欠く*Mycobacterium bovis*変異株を同定したことから、ウシへのBCGワクチンの使用について再考する必要性を報告しました。

本シンポジウムには、海外大学から多数のGI-CoRE・IVReD連携教員が参加し、IIZC、獣医学研究院、IVReD、One Healthリサーチセンター等の研究者と国際感染症学院の学生をあわせ、延べ77名（うち外国人38名）が参加しました。いずれの発表でも活発な質疑応答と議論が交わされ、盛会のうちに終了しました。本シンポジウムを通じて、海外大学と北海道大学との連携が一層強化され、病原体の伝播経路の解明や病原性発現機序の理解の深化、感染症の予防・診断・治療法の開発に向けた国際共同研究のさらなる推進が期待されます。

（人獣共通感染症国際共同研究所、総合イノベーション創発機構ワクチン研究開発拠点）



オンライン会議の様子



参加者との活発な意見交換の様子

米国マサチューセッツ大学アマーフト校とワークショップ 「帝国の世界秩序とその後」を開催

3月16日(月)・17日(火)の2日間、スラブ・ユーラシア研究センターで国際ワークショップ「帝国の世界秩序とその後：20世紀の中東におけるアメリカとソ連の勢力圏の興亡」を開催しました。本学の戦略的国際パートナー校である米国マサチューセッツ大学アマーフト校(UMass Amherst, UMA)との共催で行われたこのワークショップは、1年前の3月に共催したオンライン・シンポジウムで得た興奮と着想を発展させたものです。UMA側の組織者は、ユダヤ・近東学部長のデイヴィッド・メドニコフ准教授です。本センターは令和4年度より、文部科学省の「教育研究組織改革分」の概算要求として得て、「領域を超えた地域研究振興のための拠点形成」とその関連プロジェクト「国際的な生存戦略研究プラットフォームの構築」を遂行しています。

このプロジェクトは、欧米中心の世界秩序が終焉を迎えつつあり今後の世界の戦争と平和がロシアと中東に係っているという見立てを持ってきました。UMAの中東研究者との協力は、本センターが担う地域研究の機能を強化し拡大する上で極めて重要な意味を持っています。

欧米主導のグローバル化の始まった1870年代からそれが終焉を迎えようとしている今日までを「長い20世紀」と捉え、英国/米国とロシア/ソ連が中東の諸国と諸民族と紡いできた複雑な関係について、2日間で6つのセッションを設けて議論をしました。中東における帝国主義と戦争の歴史は、重層的な現地アクターの旋律を捉える対位的なアプローチが有効であり、これは他の地域でも有効であること、国家と社会との垂直方向の相互関係と合わせ

て、抵抗する人びとの抵抗の水平方向の連帯も統合的に考察することが肝要であること、グローバルな資本主義は地域の資源を確保するために、その調整役として権威主義体制を必要としていること、グローバルな流通の変化が小さな民族の手工芸も変容させること、帝国の存在と交渉することがナショナリズムや国家の輪郭を規定している一方で、大きな変化の契機を作り出しているのは大国ではなくむしろ中東の人々自身であること等が論点となりました。折しも、米国とイスラエルがイランと戦争を始め、ウクライナ戦争とも連動するようになってきているので、ワークショップは大きな関心を集め、2日間の参加者は海外からも含め会場とオンラインで延べ231名でした。

(スラブ・ユーラシア研究センター)



2日目午後のセッションの様子



集合写真

冬の植物園ウォッチング・ツアーを開催

2月21日（土）・22日（日）に、北方生物圏フィールド科学センター植物園で公開講座「冬の植物園ウォッチング・ツアー」を開催しました。本講座は、小学生とその保護者を対象に、冬を生き抜く生き物の姿を観察し、生物多様性について学ぶ自然観察プログラムです。冬季閉園中の園内を歩ける貴重な機会として毎年実施しており、今年も小学生9名と保護者8名の計17名が参加しました。

参加者は、はじめに園内での注意事項を聞いた後、名前を伏せた5種類のマツボックリの中から1つを選び、首から下げて散策を始めました。園内に生える数種のマツを観察し、それぞれの幹や葉、マツボックリの形の特徴について職員の解説を受けながら、自分の選んだマツボックリがどの木から落ち

たものかを確認しました。違いに気付いたり、特徴を照らし合わせたりしながら、答えを探す様子が見られました。

園内の博物館では、野鳥やエゾリスの剥製を手がかりに、マツの種子と動物の暮らしとの関わりについて理解を深めました。また、野鳥が枯れ木に作った巣穴を観察し、自然における枯れ木の役割についても考えてもらいました。

その後、イタヤカエデの樹液を味わい、「甘い」「少し苦い」といった感想が聞かれました。散策の後半にはスノーシューを着用して雪上を歩き、最初は歩きづらそうだった子どもたちも、次第に雪を踏み感触を楽しむ様子が見られました。今年は積雪が多く、スノーシューの効果をより実感できたようです。

散策後は、園内で採れたマツボックリや木の実、枝を材料にして工作を行いました。素材の組み合わせを試しながら、全員が思い思いの作品を完成させました。参加者からは「マツボックリのことが良く分かった」「とても楽しかった」「工作をまたやりたい」との声が寄せられ、保護者からは「樹液を飲めてよかった」「夏の季節にも来てみたい」といった感想も聞かれました。

4月29日（水・祝）からの夏季開園に向けて、多くの方に植物園の魅力に触れていただける機会となるよう、今後もこのような活動の継続を考えています。

（北方生物圏フィールド科学センター）



園内のいろいろなマツを観察



イタヤカエデの樹液が出ている様子を観察



スノーシューをはいてマツを観察



マツボックリや木の実を材料にした工作

産官学を繋ぐ環境政策セミナーを東京で開催

11月27日（木）と3月6日（金）に、東京千代田区のMIDORI so Nagatachoで、北方生物圏フィールド科学センター、リニューアブルエナジーリサーチ&エデュケーションセンター（REREC）、サステナビリティ推進機構主催による環境政策セミナー（全2回）を開催しました。

第1回では「GXの『教訓』とネイチャー・ポジティブの『未来図』－北海道大学が切り拓く、次世代の市場価値－」と題して、仲岡雅裕厚岸臨海実験所長による基調講演「科学が解き明かす『連環』：森・川・海が繋ぐ生態系サービスの真価」と、パネルディスカッション「自然資本の『価値』をどう測るか－国際ルール・科学・ビジネス実践の最前線－」が行われました。パネラーには仲岡教授の他、経済産業

省イノベーション環境局GXグループ地球環境対策室長の町井弘明氏と住友林業株式会社資源環境事業本部森林技術部リーダーの曾根佑太氏が登壇され、産官学での活発な論議が繰り広げられました。

第2回では「GXとネイチャー・ポジティブの結節点－北海道大学と挑む、トレードオフ解決の突破口－」と題し、吉田俊也森林圏ステーション北管理部長による基調講演「GXとネイチャー・ポジティブのトレードオフ－森林科学から見る構造と解決への視座－」、引き続きパネルディスカッション「科学・実践・制度の対話－複雑な環境価値をどう『評価』し『実装』するか－」が行われました。パネラーは吉田教授に加えて宮下和士北方生物圏フィールド科学センター長と北海道顧

問/元環境事務次官の和田篤也氏でした。第2回は参加者もパネラーと位置づけ、質疑応答の形式を取りながらのパネルディスカッションとなり、議論が深まりました。

また、第1回、第2回を通じて宮下センター長による北海道大学の3部署の取組紹介や、気候変動（クライメイト・ポジティブ）・生物多様性保全（ネイチャー・ポジティブ）・地域社会貢献（ソーシャル・ポジティブ）の3つ（3ポジ）の改善が重要である旨の解説が行われました。この政策セミナーを通して、共創パートナーシップ制度の制度設計を準備しており、新たな本学との産学金の連携を模索する機会となりました。

（北方生物圏フィールド科学センター）



第1回の会場の様子



第2回の会場の様子



第2回のパネラー

環境健康科学研究教育センターが令和7年度後期「社会と健康」 修了生にディプロマを授与

環境健康科学研究教育センターは、2月26日（木）に令和7年度後期「社会と健康」ディプロマ授与式を開催しました。今回は1名（環境科学院：ザリーナ・ビクムリナ氏）のプログラム修了生に、山内太郎環境健康科学研究教育センター長よりディプロマが授与されました。

本プログラムは、本学のすべての大学院生に開かれたプログラムです。大学院共通授業科目「社会と健康」から5領域20単位以上（うち、必修科目11単位以上）を体系的に学ぶカリキュラムが特徴です。これに加えて、各学院・研究科が提供する科目、あるいは「社会と健康」として提供されている科目以外の91科目が、ディプロマプログラ

ムの振替科目として認められています（令和8年3月31日現在、過年度の科目を含む）。

「社会と健康」領域では、環境要因と健康・予防に関する知識、研究技法を学ぶ意欲がある大学院生に対して、豊かな人間性、高い倫理観及び国際的視野を備え、研究課題に必要なPublic Healthに関する知識を修得するための科目選択の指針を示しています。本プログラムの指針に沿って科目選択し、単位が認められた学生に対して、「社会と健康」に関する知識と実践教育を受けたことを証明するディプロマを授与しています。

平成27年3月に第1回目の授与を行って以来、累計22名の方がプログラムを

修了しており、今回は第14回目の授与となりました。これまでに、医学院、教育学院、保健科学院、文学研究科（当時）、農学院、獣医学院、工学院、環境科学院所属の学生が参加しており、研究分野の垣根を越えた文理融合型の人材育成が進められています。留学生の参加も増え、今後ますます多様な人材の輩出が期待されます。

令和8年度前期「社会と健康」ディプロマプログラムの登録申請は、6月末まで受け付けており、次回授与式の開催は9月を予定しています。

（環境健康科学研究教育センター）



山内センター長よりディプロマを授与されるビクムリナ氏



授与式後の記念撮影

環境健康科学研究教育センターがクイーンズランド大学 QAEHSから大学院生を受け入れ

環境健康科学研究教育センターでは、1月5日（月）～2月20日（金）、The University of Queensland・Queensland Alliance for Environmental Health Sciences（QAEHS、オーストラリア・ブリスベン）より、大学院博士課程の鈴木満里菜氏を研究交流の一環として受け入れました。QAEHSは、新興化学物質のヒトや環境中のモニタリング事業をオーストラリアで先駆的に進めています。

当センターは、令和5年2月にクイーンズランド大学を訪問し、Child Health Research Centre（CHRC）と Letter of

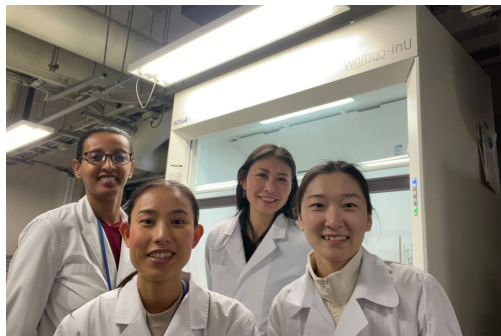
Intent（LOI）を締結し、国際的な研究連携の強化を進めています。その際にQAEHSにも訪問し、研究所の見学を行うと共に、将来の共同研究の可能性や最新の知見の情報交換を行ってきました。今回の受け入れは、その協力関係を推進する取り組みの一つとして実施されたものです。

滞在中、鈴木氏は当センターにおいて、北海道スタディなど大規模疫学研究の推進、対面調査の見学、調査で収集した生体試料中の化学分析をプロジェクトチームと行うとともに、定例の研究進捗会議やプロジェクト班会議に

参加し成果を発表するなど、多岐にわたる活動に積極的に参加しました。鈴木氏の博士研究が今後さらに発展されることを心よりお祈りするとともに、センターとQAEHSの共同研究が一層進展することを期待しております。

今後も当センターは、国際的な研究交流・教育連携を積極的に推進し、環境健康科学分野の発展に寄与してまいります。

（環境健康科学研究教育センター）



PFAS分析チームとの記念撮影



研究進捗会議の様子



日本新三大夜景2022の藻岩山で



プロジェクトメンバーとの記念撮影

脳科学研究教育センター脳科学（発達脳科学）専攻 第22期修了生に修了証書授与

3月25日（水）、修士・専門職学位・博士学位授与式後に、医学部百年記念館において、脳科学研究教育センターが実施している脳科学（発達脳科学）専攻教育プログラム修了生に対し、南 雅文センター長から修了証書を授与しました。

今年度は第22期生として、修士課程7名（白鳥茉衣：文学院、林 峰竹：教育学院、山下美記、鈴木 光：生命科学院、金沢 滔：医学院、小川直輝、小林矢的：保健科学院）、博士（後期）課程3名（周 焯亮、楊 剛生：生命科学院、角野風子：医学院）が所属学院の学位取得に加えて脳科学（発達脳科学）専攻の定める修了要件を満たし、

修了が認定されました。（周氏及び角野氏については9月修了のため修了証書授与は8名）。

本センターでは、脳科学に関する大学院共通授業科目の開設に加え、研究分野の垣根を越えた融合的研究指導の一環として、札幌近郊での合宿研修、脳科学シンポジウムの開催、複数部局のセンター教員による修了論文の審査などを行っています。中でも、合宿研修や修了論文の公開発表会では、できるだけ専門用語を使わず、他専攻の大学院生・教員に自分の研究を分かりやすく紹介し、議論することを重視しています。

脳科学（発達脳科学）専攻は、文理

融合型の脳科学研究のバーチャル専攻として、平成15年度に発足しました。令和5年度からは従来のグループ制を廃止するとともに「発達脳科学専攻」から「脳科学専攻」と専攻名称を変更し、より柔軟な研究交流を加速させ、学内10学院にわたる大学院生を対象として複雑な機能をもつ脳に関する分野融合的な教育プログラムを提供し、広い視野をもった次世代を担う人材の育成を進めています。これまでに修士課程150名及び博士（後期）課程31名、計182名の修了生を送り出しています。

（脳科学研究教育センター）



南センター長から修了証書の授与



今年度の修了生とセンター教員

総合博物館で第18回「卒論ポスター発表会」を開催

総合博物館では独自の教育プログラム「ミュージアムマイスター認定コース」の一環として、平成20年度より「卒論ポスター発表会」を開催しています。学部4年生が卒業研究を1枚のポスターにまとめて、さまざまな年代の市民や観光客の方々、他分野の学生や教職員にわかりやすく発表し、質問に受け答えします。北大生の研究を広く社会に伝えるだけでなく、学生のコミュニケーション能力の向上や他分野の研究への関心の喚起を図ることを目的としています。18回目を迎えた今年度は、2月28日（土）・3月1日（日）に博物館1階「知の交流」ホールにて新型コロナウイルス感染防止対策を行ったうえで開催しました。

ポスターとWebサイトで発表者を募集した結果、ポスター発表には農学部・理学部・文学部から7名の4年生が参加しました。発表者は、卒業研究を市民に発表するために発表内容やポス

ターを見直し、他学部の発表者や博物館担当教員と議論する中間発表会3回とリハーサルを通して、専門分野外の方々にも伝わるように発表方法を学んでいきました。当日は、年代も関心もさまざまな来場者の方々に分かりやすく説明しようと努力し、質問に丁寧に答え、来場者との対話を楽しむことができました。来場者の方々は、学生たちの発表に引き込まれた様子で、質問や感想を多数お寄せくださいました。

また、発表会の運営スタッフとして文学部・保健科学院・水産学部・総合教育部理系から4名の大学院生・学部生が参加しました。運営スタッフとして発表会の広報、運営方法の検討を進め、会場の設営ではポスターの配置からライティング、また室内の換気に至るまで柔軟に対応し、当日の発表がスムーズに進むように工夫を重ねました。運営担当学生は、当日の受付や授賞式の司会を担当したほか、リーフレ

ットや広報ポスターを制作し、その充実した内容と洗練されたデザインは多くの方からご好評をいただきました。

最終日には、2日間の来場者の投票による「来館者賞」、市民4名と本学教職員6名及びミュージアムマイスター6名の審査員による「最優秀賞」・「SDGs賞」・「ミュージアムマイスター賞」が選定されました。授賞式では受賞者に賞状、発表者全員に記念品が授与され、16名の審査員一人一人から、ご講評と今後の研究に向けての励ましの言葉をいただきました。

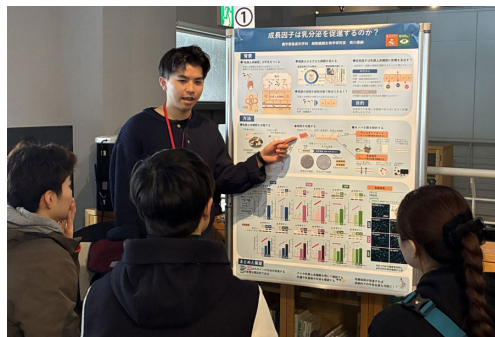
発表会当日の様子や参加した学生の事後考察レポートは、当館ホームページで公開しています。

<https://www.museum.hokudai.ac.jp/education/museummeister/list/21954/>
<https://www.museum.hokudai.ac.jp/education/museummeister/list/22030/>

（総合博物館）



発表会当日の会場風景



来場者に向けて説明する発表者



終了後の記念撮影

附属図書館所蔵「和文パンフレット」デジタル化資料のインターネット公開

附属図書館では、絶版等の理由で入手が極めて困難な資料を未来へ残し広く活用してもらうために、所蔵資料のデジタル化を行っています。北方関係資料等の従来の資料群に加え、令和7年からは新たに「和文パンフレット」と呼ばれるコレクションのデジタル化を開始しました。

「和文パンフレット」コレクションとは、戦前期に発行された、国や自治体、あるいは企業による統計、報告書、調査資料を含む実務的な資料群であり、当時の社会、経済、文化を今に伝える貴重な資料です。本学が唯一の所蔵館であるものも多く、学内外の方にしばしば利用されています。しかし、古い紙の資料は閲覧や複写を繰り返すことで劣化が進んでしまいます。

そこで、原本を大切に保存しつつ資料としての永続的な活用を実現していくためデジタル化に着手しました。

デジタル化したもののうち、国立国会図書館に所蔵のない資料については、国立国会図書館の資料収集事業に基づき同館へ資料データを提供しています。これにより、当館からの提供データは、ユーザ数が多く知名度の高い国立国会図書館のプラットフォーム「国立国会図書館デジタルコレクション」を通じて公開され、世界中から閲覧可能となっています。令和7年5月に初めて4件が公開され、本年3月には公開件数が123件になりました。

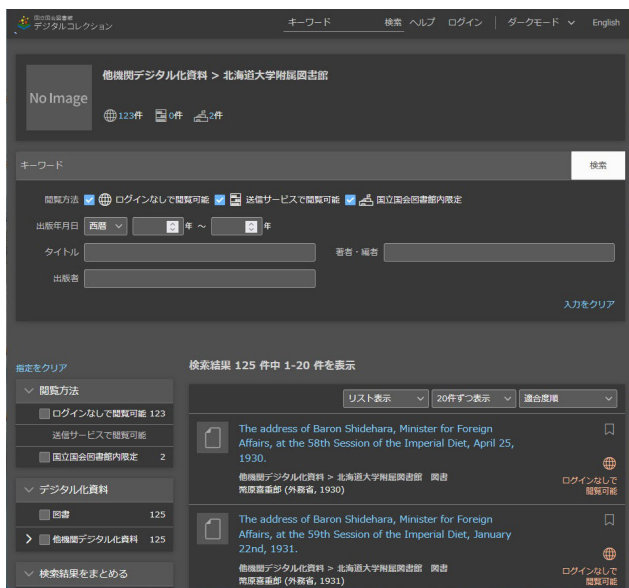
インターネットで公開された資料は

世界中どこからでも閲覧・印刷が可能です。これまでは図書館に足を運ぶか取り寄せなければ見られなかった資料が、手元の画面で自由に閲覧できるようになり、歴史的な調査はもちろん、資料に基づく統計・分析など、幅広い研究に役立つことが期待されます。

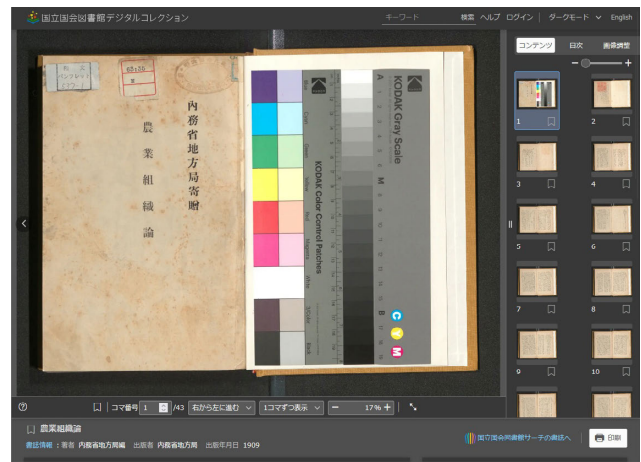
附属図書館では、引き続き入手困難な資料のデジタル化を推進し、有意義な学術情報の保存・提供に努めます。

■国立国会図書館デジタルコレクション（北海道大学附属図書館提供資料）
<https://dl.ndl.go.jp/collections/A00208>

(附属図書館)



検索結果画面
 (出典：国立国会図書館デジタルコレクション
 (北海道大学附属図書館提供資料)
<https://dl.ndl.go.jp/collections/A00208>)



提供資料の一例
 (出典：国立国会図書館デジタルコレクション
<https://dl.ndl.go.jp/pid/14441651>)

博士学位記授与

3月25日（水）に本学大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士は306人、及び本学に学位論文を提出してその審査、試験等に合格した論文博士は8人でした。なお、被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

(学務部学務企画課)

課程博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（法学）	いけぞき こういち 池 壽 航一		レイモン・アロンの国際関係思想－『諸国間の平和と戦争』（1962年）における方法と歴史認識－ 主査：教授 辻 康夫
	げん ふーちゅう 姜 富超		少数支配構造のガバナンス問題と規制措置に関する研究－複数議決権構造を中心として 主査：教授 野田 耕志
博士（水産科学）	いけがみ あつし 池 上 温史		ステレオカメラを用いた養殖魚の成長と行動のモニタリング手法に関する研究 主査：教授 安間 洋樹
	いしかわ ともや 石 川 智也		特殊な産卵特性に関連するキアンコウ初期生活史の生残戦略 主査：教授 高津 哲也
	おう し 王 梓		Study on the broadband target strength characteristics of Pacific herring (<i>Clupea pallasii</i>) (太平洋ニシンの広帯域ターゲットストレングス特性に関する研究) 主査：教授 藤森 康澄
	きよ かい 許 回		A Study on the Standardization of Catch per Unit Effort (CPUE) in Longline Fisheries (延縄漁業の単位努力量当たり漁獲量 (CPUE) の標準化に関する研究) 主査：教授 向井 徹
	なめちか まつの 為 近 (松野) まさみ 昌 美		Patterns and processes of shaping sex allocation in simultaneously hermaphroditic barnacles (雌雄同体のフジツボ類における性配分決定要因) 主査：教授 今村 央
	ふかさわ あいこ 深 澤 藍子		The relationship between size of secondary sexual characters and reproduction in both sexes of the kelp crab <i>Pugettia ferox</i> (オオヨツハマゴニの雌雄における二次性徴形質サイズと繁殖の関係) 主査：教授 今村 央
	ブ ロ シ ュー BROCHUT フルール エメリン Fleur Emelyn クリステル Christel		Perceptions, attitudes and knowledge regarding the Steller sea lion-fisheries conflict in Hokkaido coastal waters (北海道沿岸におけるトドと漁業の対立に関する認識、態度と知識) 主査：教授 高津 哲也
	あらい ともみつ 荒 井 那 允		ナイルティラピアの性分化開始機構に関する研究 主査：教授 東藤 孝
	いづつ あやか 井 筒 彩 歌		The insulin-like growth factor (IGF)-IGF-binding protein system in rainbow trout, a model species in aquaculture (養殖魚モデルとしてのニジマスのインスリン様成長因子(IGF)-IGF結合タンパク質系) 主査：教授 岸村 栄毅
	ガ ニ アブドゥル GHANI Abdul		Comparison of the potential for biomaterial applications of type I collagens extracted from different fish by-products (異なる魚類副産物から抽出したI型コラーゲンのバイオマテリアルへの応用可能性の比較) 主査：教授 東藤 孝
こがめ ゆうや 小 亀 友 也		ふ化放流事業における初期生育環境がサケ稚魚の分子応答と生理特性に与える影響 主査：教授 水田 浩之	
たけうち もえ 竹 内 萌		メダカ単数体由来の生殖細胞の配偶子形成に関する研究 主査：教授 水田 浩之	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（水産科学）	つちや 土屋 地郎	じろう	Molecular mechanism underlying the N ₂ O-reducing ability of <i>Campylobacteria</i> isolated from a deep-sea hydrothermal vent (深海底熱水孔環境から分離された <i>Campylobacteria</i> 綱細菌のN ₂ O還元能を規定する分子機構) 主査：教授 笠井 久会
	カーン KARN ティッパヤクraisri Tippayakraisri		Studies on the Control of Water Mold Infection in Fish Eggs Using Glutaraldehyde (グルタルアルデヒドを用いた魚卵におけるミズカビ病防除に関する研究) 主査：教授 井上 晶
	ナシル NASIR ソビア Sobia		Discovery and Characterization of a Novel Bioactive Lectin from Marine Sponge <i>Aulospongos</i> sp. (<i>Aulospongos</i> 属海綿に由来する新規生物活性レクチンの発見とその構造・機能の包括的解析) 主査：教授 細川 雅史
	ムテア MUTEA フリダガチェリ Fridah Gacheri		Studies on the production of sex-reversed genetic females (pseudomales) and all-female monosex populations in black rockfish (<i>Sebastes schlegelii</i>) (クロソイ (<i>Sebastes schlegelii</i>) における性転換遺伝雌 (偽雄) 及び全雌単一性集団の作出に関する研究) 主査：教授 東藤 孝
	やました 山下 量平	りょうへい	サケ科魚類およびブリ属魚類における産業応用に向けた精子凍結保存に関する研究 主査：教授 水田 浩之
博士（環境科学）	カ夏 夏 晨陽	しんよう	A case study of social ties among Chinese overseas through social media in the digital age (デジタル時代におけるソーシャルメディアを介した中国在外居住者の社会的結びつきに関する事例研究) 主査：教授 山中 康裕
	フ符 符 瑞	ずい	A study on food sustainability through online meal delivery and Japanese home cooking (オンラインミールデリバリーと日本の家庭料理を通じた食の持続可能性に関する研究) 主査：教授 山中 康裕
	グプタ GUPTA アンキタ Ankita		Assessing land use/land cover dynamics and community perceptions in Sagarmatha and Khaptad national parks: designing an integrated framework for national parks of Nepal (サガルマータ国立公園とカプタード国立公園における土地被覆と土地利用の動態および地域社会認識の評価：ネパールにおける国立公園管理にむけた統合的フレームワークの設計) 主査：准教授 石川 守
	ロ盧 盧 立榮	りつエイ	Morphological responses in drainage basins affected by coseismic landslides triggered by the 2018 Eastern Iwate Earthquake, Hokkaido, Japan (2018年北海道胆振東部地震による地震性斜面崩壊に影響された流域における地形的応答) 主査：准教授 早川 裕一
	いまい 今井 望百花	ももか	Iron supply and transport processes in the southern Sea of Okhotsk and the Coastal Oyashio region and their contribution to spring bloom development (南部オホーツク海および沿岸親潮域における鉄供給・輸送過程と春季ブルーム発達への寄与) 主査：教授 西岡 純
	たかき 高木 悠司	ゆうじ	Studies on the microbial degradation of dissolved organic matter in river systems (河川における微生物による溶存有機物分解に関する研究) 主査：准教授 山下 洋平
	ほんだ 本田 茉莉子	まりこ	Seasonal and interannual variabilities in temperature, salinity, sea ice-melt amount, and primary production in the southern Sea of Okhotsk (オホーツク海南部における水温・塩分・海水融解量・生物基礎生産の季節・経年変動) 主査：特任教授 大島 慶一郎
	テイ 丁 曼丹	マンネ	A simple approach for estimating freshwater discharge from a tidal wetland stream to a brackish lake (湿原を流域に有する感潮河川から汽水湖への簡便な流出量推定) 主査：准教授 白岩 孝行
きたやま 北山 遼	はるか	Gut microbiota assembly and social complexity in wild primates (野生霊長類における腸内微生物群集の集合過程と社会の複雑性に関する研究) 主査：教授 内海 俊介	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（環境科学）	こんどう こたろう 近藤 虎太郎		The evolution of bitter taste receptors in the eucalypt-specialist koala (ユーカリスペシャリストであるコアラの苦味受容体の進化) 主査：教授 越川 滋行
	ふるさわ じゅんぺい 古澤 惇平		Body size shrinkage of a ground-dwelling beetle under global warming (温暖化進行下の徘徊性甲虫の体サイズ縮小に関する研究) 主査：教授 内海 俊介
	おおつか れお 大塚 玲桜		α -トコフェロール動態を中心とした冬眠生理適応メカニズムの定量的解析 主査：教授 山口 良文
	たなか ゆうと 田中 優斗		マナマコの行動ダイナミクス：状態推定に基づく行動解析と環境要因の評価 主査：教授 高木 力
	せき ぎょうすけ 関 恭佑		バイオリギング手法を用いた太平洋ニシンの集団産卵に関する研究 主査：教授 宮下 和士
	な はた きみほる 名畑 公晴		漁業の担い手確保に資する価値観分析の試み— 価値観の多様性・共感・経済的効用の統合的検討— 主査：教授 宮下 和士
	なかや あきら 仲谷 朗		Potential of silvicultural practices focusing on wood properties of hardwood species in Hokkaido (北海道における広葉樹の材質特性に着目した育林の可能性) 主査：教授 吉田 俊也
	りゅう いたん 呂 依丹		Studies on ploidy-dependent temperature responses of male gametophytes in <i>Lilium leichtlinii</i> (<i>Lilium leichtlinii</i> の雄性配偶体における倍数性依存的な温度応答に関する研究) 主査：教授 星野 洋一郎
	サリイラ SARI Ira ノビタ Novita		Development of Nef reaction for aldehyde synthesis and its application toward total synthesis of Alyterinate A (アルデヒドを合成するためのNef反応の開発とアリテリネートAの全合成に向けた応用) 主査：准教授 梅澤 大樹
	チョウ アン 張 晏		Development of N-terminal specific dual modification strategies of proteins using triazolecarbaldehyde derivatives (トリアゾールカルボアルデヒド誘導体を用いたタンパク質N末端特異的二重修飾法の開発) 主査：教授 小野田 晃
	タスニム TASNIM ウンメファリハ Umme Fariha		Development of coordination polymers for perchlorate anion removal from water (水中からの過塩素酸アニオン除去のための配位高分子の開発) 主査：教授 野呂 真一郎
	ゴシユ GHOSH ダスティダー DASTIDAR ラウル Rahul		Investigation of optical modulation of organic-inorganic hybrid copper halide microcrystals (有機-無機ハイブリッド銅ハライド微結晶における光学的制御の研究) 主査：教授 ビジュ バスデバン ビライ
博士（理学）	あさの たくみ 浅野 拓己		On progress of Miyanishi conjecture (宮西予想の進展について) 主査：教授 安田 正大
	うえの りゅう 上野 龍		Geometric Analysis of Mappings between Statistical Manifolds (統計多様体間の写像に関する幾何解析) 主査：教授 古畑 仁
	さかもと りょうすけ 坂本 龍亮		A multi-microlocal study of strongly regular subanalytic sheaves (強正則なsubanalytic層の多重超局所的研究) 主査：教授 本多 尚文
	ひろせ かずや 廣瀬 和也		Lower gradient estimates for viscosity solutions to first-order Hamilton-Jacobi equations (1階ハミルトン・ヤコビ方程式の粘性解に対する下からの勾配評価) 主査：准教授 浜向 直
	まきだ しんぺい 牧田 慎平		Stability of Metric Viscosity Solutions (距離粘性解の安定性に関して) 主査：准教授 浜向 直

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博士論文名
	氏名	
博士（理学）	かとう もゆき 加藤 萌結	Development of Novel Quantum Kagome Antiferromagnets and Studies of Field-induced Quantum Many-body States (量子カゴメ反強磁性体の新物質開発と磁場中量子多体状態に関する研究) 主査：教授 吉田 紘行
	ダス アドリジャ DAS Adrija	Transparent conductive oxides and carbon dots hybrid films for blocking solar heat and ultraviolet light (導電性透明酸化物とカーボンドットの複合化による太陽熱および紫外防御膜の研究) 主査：客員教授 長尾 忠昭
	おおの たつはる 大野 辰遼	Study on the planetary lightning detection based on the development of dual-band photometer installed at ground telescope and its data analysis (地上望遠鏡搭載二波長同時測光観測装置の開発とデータ解析に基づく惑星雷検出に関する研究) 主査：教授 高橋 幸弘
	たかだ しゅうへい 高田 翔平	Flavor structures in nonfactorizable torus and orbifolds with background magnetic fluxes (背景磁場入りの分解不可能なトーラスおよびオービフォルドコンパクト化におけるフレーバー構造) 主査：教授 小林 達夫
	ヤ ミン YA MIN デ ッ HTET	Gas-like Bosonic states formed around ¹⁶ O core nucleus close to the 2α decay threshold energy (2α崩壊しきい値近傍の ¹⁶ Oコア核のまわりに形成されるガスのボソン状態の研究) 主査：准教授 野村 昂亮
	うちやま りょうへい 内山 遼平	Reconstruction of the past 100 years of ocean environmental change at Hawai'i using modern coral skeletons (現生サンゴ骨格を用いたハワイの過去100年間の海洋環境復元) 主査：准教授 渡邊 剛
	うつつき ようへい 宇津城 遼平	EVOLUTION OF ARCHOSAURIAN NECK FUNCTION AND EVOLUTIONARY MECHANISM OF AVIAN S-SHAPED NECK (主竜類における頸部機能の進化と鳥類のS字型頸部の進化メカニズム) 主査：教授 小林 快次
	おおつき ゆうた 大槻 悠太	Solar Wind Noble Gas Fractionation in Lunar Ilmenites: A Study Based on Depth Profiling Analyses and Numerical Simulations (希ガス局所分析および数値シミュレーションに基づく月イルメナイトの太陽風起源希ガスの分別に関する研究) 主査：准教授 川崎 教行
	きた ゆうき 北 悠樹	Taxonomy and Phylogeny of Acanthocephala from Japanese Fishes (日本産魚類に寄生する鉤頭虫類の系統分類学的研究) 主査：教授 柁原 宏
	しみず しゅうへい 清水 洲平	MACROEVOLUTION AND MACROECOLOGY OF THE MESOZOIC DINOSAUR BODY SIZE: INVESTIGATING THE INFLUENCE OF PALEOENVIRONMENTAL CHANGE (中生代恐竜類における体サイズのマクロ進化とマクロ生態：古環境変動による影響の解明) 主査：教授 小林 快次
	しらき しゅうき 白木 祥貴	Taxonomy and phylogeny of Anthuroidea (Crustacea: Isopoda) and its parasites (ウミナナフシ類(甲殻亜門等脚目)およびその寄生虫の系統分類学的研究) 主査：教授 柁原 宏
	たじ しゅうた 田次 将太	Eruptive History and Magmatic Evolution of a Subduction Zone Volcano: Geology, Petrology and Geochemistry of Akita-Komagatake Volcano, Northeast Japan Arc (沈み込み帯火山の噴火史とマグマ進化：東北日本弧、秋田駒ヶ岳火山の地質学・岩石学・地球化学) 主査：教授 栗谷 豪
	やまぐち りゅうじ 山口 竜史	Study on the post-2015 absence of Chandler wobble: Calculation of the excitation function based on JRA-55 and OFES2 (2015年のチャンドラー極運動の消失：JRA-55及びOFES2に基づいた励起関数の計算) 主査：教授 古屋 正人

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（農学）	あさ ひろき 麻 裕毅		Targeted Mutagenesis of Soybean β -amyrin Synthase Genes via the iPB-RNP Method and Characterization of the Soyasaponin-Deficient Mutants (iPB-RNP法を介したダイズ β -アミリン合成酵素遺伝子の標的変異誘発及びソヤサポニン欠損変異体の特徴付け) 主査：准教授 山田 哲也
	きた ゆうたろう 来田 祐太郎		寒冷地における醸造用ブドウの耐凍性と組織内成分との関連性および耐凍性推定モデルの構築に関する研究 主査：特任教授 鈴木 卓
	ジン チョンイー 金 純伊		レブンアツモリソウ菌根共生に関わる分子メカニズムに関する研究 主査：教授 志村 華子
	ス ル タ ナ SULTANA エムエステイ サミア Mst. Samia		Development of biopesticide from bottle gourd (<i>Lagenaria siceraria</i>) leaves and black plum (<i>Syzygium cumini</i>) leaves for eco-friendly pest control in cabbage and potato fields (キャベツ畑やジャガイモ畑における環境に優しい害虫防除のためのユウガオ (<i>Lagenaria siceraria</i>) 葉とクロウメ (<i>Syzygium cumini</i>) 葉由来の生物農薬の開発) 主査：准教授 清水 直人
	なかがわ たくや 中川 卓也		Comprehensive Study on the Development of Decay-Controllable Paper-Based Seedling Pots and Their Seedling Growth Characteristics (分解制御可能な紙製育苗ポットの開発および育苗特性に関する包括的研究) 主査：准教授 渡部 敏裕
	ばん ひでみ 伴 秀実		六次産業化農業者による体験型事業の成功要因に関する研究 主査：教授 東山 寛
	ひきち きわむ 曳地 究		Study on multi-layer morphodynamics in plant organ formation using computational modelling (数理モデリングを用いた植物器官形成における多階層の形態学的動態に関する研究) 主査：准教授 小出 陽平
	ひざたて ともあき 膝館 智明		醸造用ブドウ栽培におけるせん定ロボットシステムに関する研究 主査：教授 野口 伸
	ふじき たくみ 藤木 卓巳		イチゴ果実の品質評価に資するMALDI-TOF MSI技術の改良および応用に関する研究 主査：特任教授 鈴木 卓
	まつい たかひろ 松井 貴大		Development of inspection and monitoring methodologies for postharvest fruit quality of avocados using non-invasive imaging technology (非侵襲的イメージング技術を用いたアボカド果実の収穫後品質の検査およびモニタリング手法の開発) 主査：准教授 小山 健斗
	まつやま もとき 松山 元樹		北海道のワイン産地形成におけるテロワールの形成のメカニズム—地域資源の「翻訳」と「構造」の適合モデル— 主査：教授 板橋 衛
	むらしま かづき 村島 和基		Integrated Multidimensional Omics Analysis of Soil-Plant-Microbe Interactions in Soybean Agroecosystems (多次元オミクス統合解析によるダイズ農業生態系における土壌-植物-微生物相互作用の解明) 主査：教授 信濃 卓郎
	よしだ りゅうと 吉田 竜斗		ジャガイモ塊茎の貯蔵腐敗に関わる細菌に関する研究 主査：准教授 秋野 聖之
	リ ゴウ 李 敖		砂糖輸入国におけるてん菜糖の供給不安定化メカニズム—2000年以降における日中の比較分析— 主査：教授 坂爪 浩史
いのうえ しろう 井上 史朗		Bioorganic Studies on <i>cis</i> -Jasmone and Pyrethrins Biosynthesized via the OPDA Isomerizing Pathway (OPDA異性化経路により生合成される <i>cis</i> -ジャスモン及びピレスリンに関する生物有機化学的研究) 主査：教授 松浦 英幸	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（農学）	カン 韓 ヘイ 靚		乳腺上皮細胞における神経伝達物質受容体の生理的役割と作用機序の解明 主査：准教授 小林 謙
	シン 秦 テンイ 天翼		Molecular basis for reactions of GH15 α -glucan 4(6)- α -glucosyltransferase (GH15 α -グルカン4(6)- α -グルコシル転移酵素が触媒する反応の分子基盤) 主査：教授 森 春英
	ニ ワ ヤ ン エ カ NI Wayan Eka プ ト リ ガ ヤ ト リ Putri Gayatri カ ス タ ワ Kastawa		Identification and characterization of <i>Dorea ammoniilytica</i> as a novel deoxycholic acid-producing bacterial species in the human gut microbiota (ヒト腸内細菌叢における新規デオキシコール酸生産細菌種 <i>Dorea ammoniilytica</i> の同定と特性の評価) 主査：教授 吹谷 智
	リ レ ッ テ LIRETTE ア ン ト ワ ン オ リ ビ エ Antoine Olivier		Elucidation of a unique vertical symbiont transmission system and mechanisms of host behavior modulation in stinkbug- <i>Caballeronia</i> symbiosis (カメムシ- <i>Caballeronia</i> 腸内共生系における垂直伝播と宿主の行動変容の解明) 主査：客員准教授 菊池 義智
	シュ 朱 ガン 顔		Effects of basalt application on soil physical properties and CO ₂ dynamics in agricultural soils (玄武岩施用が農地土壌の土壌物理性およびCO ₂ 動態に及ぼす影響) 主査：教授 濱本 昌一郎
	たけうち 竹内 けいいちろう 啓一郎		リグニン分析法の再検証-蛍光測定法とderivatization followed by reductive cleavage (DFRC) 法- 主査：教授 浦木 康光
	ユ サ ラ YUSARA ア ス ト リ ッ ド Astrid		Future prediction of global soybean yield under climate change using the eco-physiological crop growth model (MATCRO-Soy) (生理生態学的作物モデル (MATCRO-Soy) による気候変動下におけるグローバルなダイズ収量の将来予測) 主査：教授 平野 高司
わ だ 和田 ひさゆき 尚之		樹皮下キクイムシ被害を誘発するカラマツの生理的衰弱と危害因子に関する研究 主査：教授 宮本 敏澄	
博士（生命科学）	いしほら 石原 けん 憲		Nonequilibrium Dynamics in Sparse Neural Activity: Insights from State-Space Kinetic Ising Model (スパースな神経活動における非平衡ダイナミクス：状態空間キネティック・イジングモデルに基づく知見) 主査：教授 中岡 慎治
	すながわ 砂川 じゅんや 純也		Environmental Variability and Adaptive Evolution: Insights from Neural-Network-based Artificial Agents and Virus Dynamics (環境変動と適応進化：ニューラルネットワークを用いた人工エージェントとウイルス動態に基づく知見) 主査：教授 中岡 慎治
	みなみ 南 みく 未来		Structural insights into rabies virus-mediated host immune evasion via STAT1 inhibition by the P protein (狂犬病ウイルスがPタンパク質をもちいSTAT1阻害を介したヒト免疫逃避をする機構の分子基盤) 主査：教授 尾瀬 農之
	ち 田 十田 ひかる 輝		Electrophysiological study on brain neural circuits involved in sensory-motor association for cricket wind-elicited escape behavior (コオロギの気流誘導性逃避行動における感覚運動連関に関する脳内神経回路の電気生理学的研究) 主査：教授 小川 宏人
	ほどた 程田 だい 大智		Studies on the functional differentiation of <i>UBAP2</i> genes linked to the sex chromosomes in Japanese quail (<i>Coturnix japonica</i>) (ニホンウズラにおける性染色体連鎖遺伝子 <i>UBAP2</i> の機能分化に関する研究) 主査：教授 黒岩 麻里

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	
	氏名	博士論文名
博士（生命科学）	ラーマン RAHMAN サドニマン Sadniman	Relative value learning in <i>Drosophila melanogaster</i> larvae (キイロショウジョウバエ幼虫における相対的価値学習) 主査：准教授 田中 暢明
博士（薬科学）	おがわら こうき 小河原 浩輝	X線によるアゾ結合の還元的開裂を鍵反応とするケージド化合物の開発に向けた検討 主査：教授 小川 美香子
	ひらた ゆうき 平田 裕己	Selectivity Control of C-H Functionalization under Group 9 Metal Catalysis (第9族遷移金属触媒を用いたC-H官能基化における選択性制御) 主査：教授 長友 優典
	ふじた けい 藤田 慧	アルギニン選択的ビスプレニル化酵素の機能解析とペプチド修飾反応への適用 主査：教授 脇本 敏幸
	ほし かずき 星 和輝	迅速な創薬プラットフォームの構築による新規ガレクチン-3阻害剤の創製研究 主査：教授 市川 聡
	まのめ てるひさ 馬目 照久	ゲノムマイニングと休眠遺伝子活性化手法を活用した生物活性天然物探索基盤の構築 主査：教授 脇本 敏幸
	やまぐち ゆうと 山口 優冬	コバルト触媒/光触媒の協働による多置換炭素中心合成及び光駆動型クロス-ラジカルカップリングの開発 主査：教授 長友 優典
	やまどき ゆうき 山崎 祐季	シクロプロパン型アミノ酸を用いた配座制御による膜透過性環状ペプチドの創製と三次元構造-膜透過性相関の解明 主査：准教授 渡邊 瑞貴
博士（生命科学）	ヨウ コウセイ 楊 剛生	Development of a Closed-loop Transcranial Ultrasound Neuromodulation Technology for a Deep Brain Region with Genetic Enhancement of Ultrasound Sensitivity of Neurons (深部脳領域における神経細胞の超音波感受性を遺伝子工学的に増強したクローズドループ経頭蓋超音波神経調節技術の開発) 主査：教授 南 雅文
博士（ソフトマター科学）	カ シイタ 何 芷毓	Shape-dependent Surface-Enhanced Raman Scattering under Modal Ultrastrong Coupling between Self-Assembled Gold Nanoparticles and Fabry-Pérot Cavities (自己組織化金ナノ粒子とファブリ・ペロー共振器間のモード超強結合による形状依存表面増強ラマン散乱) 主査：教授 居城 邦治
	かみやま まい 上山 まい	Functional Soft Materials Based on Solvation Control of Ionic Liquid and Polymer (イオン液体と高分子の溶媒制御に基づく機能性ソフトマテリアル) 主査：客員准教授 上木 岳士
	ガオ テンキョク 高 天旭	Gel Filter Trapping Approach for Ultra-sensitive Detection of Biopolymers by Surface-enhanced Raman Scattering (表面増強ラマン散乱による高感度検出のためのゲル網目構造を利用した生体高分子捕捉法) 主査：教授 居城 邦治
	メルダ タスピカ Melda Taspika	Controlled Assembly of Gold Nanodiscs via Click Chemistry and DNA Hybridization for Tunable Plasmonic Coupling (クリックケミストリーおよびDNAハイブリダイゼーションを用いた金ナノディスクの集合制御によるプラズモンカップリング調節) 主査：教授 居城 邦治
博士（臨床薬学）	すずき ゆういち 鈴木 裕一	脾臓辺縁帯B細胞を標的とする脂質ナノ粒子を用いた安全で効果的なmRNAワクチン製剤の開発 主査：教授 山田 勇磨
	せい の ゆうすけ 清野 佑介	コバルト触媒と光酸化還元触媒の協働による金属ヒドリド水素原子移動を用いたアルケンの分子変換 主査：教授 長友 優典
	つづみ たけぞう 堤 竹蔵	リネゾリド投与による嘔気嘔吐発現のリスク因子探索および機序の解明に関する研究 主査：教授 菅原 満
博士（教育学）	あべ あきゆき 阿部 暁之	近代沖縄の空手教育に関する歴史的研究 主査：教授 近藤 健一郎

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（教育学）	さとう なつき 佐藤 奈月	インターネット上で見知らぬ他者と交流する子どもの経験とジェンダーの権力構造による周縁化 主査：教授 加藤 弘通
	すずき いくみ 鈴木 育美	女子少年院における女子少年の更生-当事者と支援者の共変関係- 主査：教授 加藤 弘通
	すずき しゅうと 鈴木 修斗	中学生の仲間集団における排他性とその深刻化要因に関する検討 主査：教授 加藤 弘通
	とのづか しゅうへい 戸野塚 周平	ライフスタイル・スポーツから考えるポピュラーカルチャー空間の再構築に関する研究 主査：教授 池田 恵子
	なかの よしえ 仲野 芳恵	中学校のいじめ場面における傍観者の加害者意識と援助行動の検討 主査：准教授 渡邊 誠
	やしま えみ 八島 絵美	食にかかわる成人学習の困難とその要因-食生活改善実践における学習支援者のジレンマに着目して- 主査：教授 辻 智子
	やまむら ようこ 山村 洋子	オホーツクの人々の身体文化に関する研究-自然との共生関係の歴史- 主査：教授 池田 恵子
	わたなべ じん 渡邊 仁	高校生の学校適応感に対して教師との関係が有効に働く条件と教師の役割——個別の生徒と教師及び教師との関わりの広さに注目して—— 主査：教授 加藤 弘通
博士（学術）	コウ キン 高 キン	A Machine Learning - Driven Study of the Impact of Pedestrian-View Street Spatial Form on Aesthetic Judgements: Commonalities and Differences in Judgements between Local and Non-Local Visitors and Their Implications for Urban Design-A Case Study of a Tourist Pedestrian District in Luoyang, China (歩行者視点の街路空間形態が美的判断に与える影響に関する機械学習を用いた研究：地元訪問者と非地元訪問者の判断の共通点と相違点、および都市設計への示唆-中国・洛陽の観光歩行者地区を事例として) 主査：教授 西山 徳明
	チヨウ ギケン 張 宜欽	A Phenomenological Study of Transformation through Forest Bathing (森林浴による自己変容経験に関する現象学的研究) 主査：准教授 渠 蒙
博士（観光学）	みうら ゆか 三浦 夕佳	小規模ワイナリーの観光戦略-北海道・仁木町および余市町のワインツーリズムの事例- 主査：准教授 小泉 大輔
博士（学術）	ヨウ ショウ 楊 ショウ	Mobile Payments in Smart Tourism: Analyzing Influences, Constraints, and Behavioral Evolution (スマート・ツーリズムにおけるモバイル決済：影響要因、制約要因、行動変化に関する分析) 主査：教授 辻本 篤
博士（保健科学）	いのうえ なお 井上 夏緒	Investigation of mechanisms underlying alteration in lysophosphatidylethanolamine and its protective effects on lifestyle-related diseases (生活習慣病におけるリゾホスファチジルエタノールアミン変動メカニズムとその保護効果に関する研究) 主査：教授 千見寺 貴子
	おおにし はやて 大西 颯	視覚的ワーキングメモリの記憶方略による神経基盤の差異：脳磁場律動に基づく検討 主査：教授 澤村 大輔
	おがわ ほだか 小川 帆貴	全身性エリテマトーデスへのメチルプレドニゾンパルスが好中球細胞外トラップ形成および大腿骨頭壊死に及ぼす影響 主査：教授 恵 淑萍
	おのだ あいり 小野田 愛梨	超音波パルスドブラ法を用いた健常者における拍動性門脈血流の成立機序の解明 主査：教授 石津 明洋
	さかき ゆうすけ 榎 悠介	認知負荷がある状況下での歩行能力に対して有効かつ安全な練習方法の考案 主査：教授 寒川 美奈

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（保健科学）	サンボジョイ SAMBO JOY		Exploring Challenges of Policy Implementaion and Menstrual Health and Hygiene Among Adolescent Schoolgirls in Peri-Urban Lusaka, Zambia (ザンビア・ルサカの都市周縁部に住む思春期女子学生における月経保健衛生と政策上の課題) 主査：教授 蝦名 康彦
	ザマンエムディ ZAMAN MD ナヒドウス NAHID UZ		Socio-cultural and Water, Sanitation, and Hygiene Factors Affecting Menstrual Health and Hygiene Among Nursing Students in Bangladesh (社会文化、水・サニテーション・衛生がバングラデシュにおける看護学生の月経保健衛生に及ぼす影響) 主査：教授 澤村 大輔
	ズガンボ ZGAMBO ジェシールース JESSY RUTH		Water, Sanitation, and Hygiene Access, Practices, and Health Outcomes in Peri-Urban Households of Lusaka, Zambia (ザンビア・ルサカ都市周縁地域における世帯の水・サニテーション・衛生（WASH）アクセス、行動、および健康影響) 主査：教授 池田 敦子
	せんとく 千徳 風真		スタティックストレッチングが筋出力調整能力に及ぼす影響 主査：教授 遠山 晴一
	まえやま 前山 昂弥		案内標識および路面標示視認時における視線移動の特徴 主査：教授 横澤 宏一
	まつぎ 松崎 由莉		高齢者の社会参加と孤独感の関係に関する多面的検討：性別と志向性を考慮した統合研究 主査：教授 澤村 大輔
	みなみ 南 雄介		Application of Liquid Chromatography/Mass Spectrometry: Food Lipid Profiling and Monitoring Lipid Dysregulation (液体クロマトグラフィー質量分析法の応用：食品の脂質プロファイリングおよび脂質代謝異常のモニタリング) 主査：教授 石津 明洋
やまもと 山本 瀬菜		全身性エリテマトーデスの皮膚病変と細胞老化の関連性 主査：教授 石津 明洋	
博士（看護学）	すぎむら 杉村 直孝		看護業務における薬剤インシデント予防に関する看護情報学的研究－ペイジアンネットワークモデルおよびISM法による患者安全の対策と教育を中心として－ 主査：教授 蝦名 康彦
	なかむら 中村 真弥		母乳育児における乳頭損傷の対処と客観的評価に関する統合的研究 主査：教授 矢野 理香
博士（工学）	まつお 松尾 堇		トレハロースを用いたAQP4過剰発現CHO細胞の凍結保存における脱水作用と凍結保護効果の解明 主査：准教授 内田 努
	やすい 安井 翔一郎		通信波長帯量子中継器の実現に向けた光子メモリおよびもつれ光子対源の研究 主査：教授 足立 智
	しみず 清水 友斗		Study on the Functional Performance Enhancement of Aluminum-Based Phase Change Materials and Their Supercooling Phenomena (Al基相変化材料の高機能化およびその過冷却現象に関する研究) 主査：教授 能村 貴宏
	シム ウエイ ジェン Sim Wei Jian		Transition Metal-based Electrocatalysts for High Current Density Zinc-Air Battery (遷移金属を用いた高電流密度亜鉛空気電池用電極触媒) 主査：教授 米澤 徹
	たきざわ 滝沢 昂嗣		Study on passive thermal regulation in chemical loop reverse water gas shift reaction using alloy based microencapsulated phase change materials (化学ループ逆水性ガスシフト反応のための合金系相変化材料マイクロカプセルを用いたパッシブ熱制御技術に関する研究) 主査：教授 能村 貴宏

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（工学）	コリラ Cholila タムズイ Tamzysi	Study on Fixed-Bed Chemical Co-Production using Latent Heat Storage Catalysts (潜熱蓄熱触媒を用いた固定床コプロダクションプロセスの研究) 主査：教授 能村 貴宏
	なごう 名合 とらのすけ 虎之介	種々の電気化学的プロセスを用いた水素同位体分離・濃縮の研究 主査：准教授 松島 永佳
	はしもと 橋本 ひろたけ 明賢	軽量ハイエントロピー合金の創製及び水素吸蔵合金への応用 主査：准教授 磯部 繁人
	トウトウ Tongtong Cui	A Localized Thickened Flame Model for Stretched Premixed Flame of Hydrogen and Hydrocarbon Fuels (水素および炭化水素燃焼における火炎伸張効果を考慮した局所火炎帯増大モデルに関する研究) 主査：准教授 寺島 洋史
	ふなき 船木 ゆうた 優大	振動圧縮負荷によるチタンの常温窒化メカニズムと表面改質技術への応用 主査：准教授 高橋 航圭
	みやけ 三宅 とうま 冬馬	衝撃波はく離流れにおける航空機主翼フラッター現象の高忠実解析および安定化/不安定化メカニズムの解明 主査：准教授 寺島 洋史
	みやした 宮下 たかし 岳士	Mitigation of Reentry Communication Blackout and Aerodynamic Heating through Gas Injection (再突入時における通信ブラックアウトと空力加熱のガス噴射による同時低減) 主査：准教授 高橋 裕介
	いちかわ 市川 りょうすけ 亮輔	無水高温型PEFCの出力向上のための流路構造とHDV走行シミュレーションに関する研究 主査：教授 田部 豊
	たかの 高野 あきひで 哲秀	On the Macrodynamic Identification of Flow Modulations in non-Newtonian Shear Flows (非ニュートン流体せん断流における巨視的動力学に基づく流れの変調の同定) 主査：教授 田坂 裕司
	おだ 織田 けんご 堅吾	福島第一原子力発電所廃炉用高 γ 線線量率対応ダイヤモンド中性子計測システムの実用性向上に関する研究 主査：准教授 金子 純一
	みやざき 宮崎 としあき 俊明	大気圧直流グロー放電における発光の自己組織化メカニズムに関する研究 主査：准教授 白井 直機
	やまぐち 山口 たかひろ 卓宏	水素終端ダイヤモンドMOSFETの過酷環境耐性と実用的回路への応用に関する研究 主査：准教授 金子 純一
	こうち 河内 たいし 太志	Description of long-term settlement of peat under unsteady thermo-mechanical field conditions (非定常熱・力学条件下における泥炭地盤の長期沈下の記述) 主査：教授 西村 聡
	たなべ 田鍋 そういち 颯一	急流礫床河川における非平衡土砂輸送場での河床・流路変動に関する研究 主査：准教授 岩崎 理樹
	にい 新名 だいすけ 大輔	プレロード改良地盤の長期圧密挙動におけるアイソタック則の適用性に関する研究 主査：教授 渡部 要一
	いしづき 石附 まさむ 将武	冬期路面モニタリングのための車載センサを用いた機械学習に関する研究 主査：准教授 高橋 翔
	オウ Wang Yifan	Uncertainty-Aware Path Optimization and Multi-Scale Traffic Flow Modeling in Dynamic Transportation Networks (動的交通ネットワークにおける不確実性考慮型経路最適化とマルチスケール交通流モデリング) 主査：教授 内田 賢悦
	ささき 佐々木 ひろかず 博一	先進ボーリングデータ活用による蛇紋岩トンネルの施工管理手法の研究 主査：教授 宮森 保紀
	あおき 青木 まさし 雅嗣	地震観測記録に基づく地表/地中スペクトル比の方位依存性と変動特性に関する研究 主査：教授 高井 伸雄
かわむら 河村 だいすけ 大助	大型商業施設において創発的な回遊行動を生み出す要因と方策 主査：教授 瀬戸口 剛	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（工学）	ヨン セカイダ Yon Secaida ルイス パブロ Luis Pablo	Culturally Driven Revitalization of Maya Heritage Areas in Guatemala: Contextual Optimization of the UN-Habitat CURE Framework (グアテマラにおけるマヤ文化遺産地域の文化主導型再生に関する研究:UN-Habitat CUREフレームワークの文脈適応的最適化)	主査：教授 森 傑
	カティテブ Katitep スガメット Ngamket	Study of Heat Balance and Aeration Strategies in the Solar Greenhouse Biodrying System (温室内バイオドライビングシステムにおける熱収支とエアレーション方法に関する研究)	主査：教授 石井 一英
	メイ イ コウ Mingwei Gang	Effect of increased near-fault fracture stiffness on seismic source parameters of induced seismicity (断層近傍のき裂剛性増加が誘発地震の震源パラメータに与える影響)	主査：特任教授 児玉 淳一
博士（総合化学）	すずき はじめ 鈴木 創	Automated Discovery and Design Principles of Two-Dimensional Materials Using a High-Throughput First-Principles Framework (ハイスループット第一原理計算ワークフローによる二次元材料探索と設計指針の解明)	主査：教授 前田 理
博士（理学）	あしざわ だいき 芦澤 大輝	Studies on Electrochemical Hydrogen / Oxygen Evolution Mechanisms through In-situ Spectroscopic Analysis of Bubble Dynamics (高精度気泡発生分光計測による電気化学水素及び酸素発生機構の研究)	主査：教授 上野 貢生
	ウェン シンシン 温 心馨	Study on Inter-Protein Electron Transfer as Rate-Limiting Steps in Microbial Electron Conduction (バイオフィルムの電子伝導における律速段階としてのタンパク質間電子移動に関する研究)	主査：教授 村越 敬
	きうち わたる 城内 航	Total Synthesis of Cristaxenicin A (クリスタキセニンAの全合成)	主査：教授 澤村 正也
	キョク リツゴウ 曲 立豪	Analysis of Chemical Reaction Mechanisms based on Mathematical Scientific Approaches: Applications to Organic and Bio-synthetic Reactions (数理科学的アプローチを基盤とした化学反応機構の解析：有機化学・生合成反応への応用)	主査：教授 前田 理
	さかい さとし 酒井 聡史	Silver-Catalyzed Asymmetric Aldol and Michael Reactions of Isocyanacetetic Acid Derivatives under Precision Control by Designed Ligand-Substrate Multiple Interactions (配位子-基質間多重相互作用により精密制御されたイソシアノ酢酸誘導体の銀触媒不斉アルドールおよびマイケル反応)	主査：教授 谷野 圭持
	たけうち たかし 竹内 貴志	Synthesis of Seven-membered Nitriles by Formal Anionic Divinylcyclopropane Rearrangement (形式的アニオン性ジビニルシクロプロパン転位反応による7員環ニトリル合成法)	主査：教授 鈴木 孝紀
	たけうち ひろき 武内 浩輝	Extending Plasmon Dephasing Time toward Nonlinear Photochemical Reaction Fields (非線形光化学反応場の実現に向けたプラズモン位相緩和時間の延長)	主査：教授 村越 敬
	たなか りょういち 田中 綾一	Development of a Phase-Space-Geometric Framework for Nonstatistical Chemical Reaction Dynamics in Realistic Systems (相空間幾何学に基づく実在反応系の非統計的化学反応ダイナミクス解析手法の開発)	主査：教授 武次 徹也
	ホー チアレン 何 佳倫	Study on Microbial Extracellular Electron Transfer Mechanism Under Maintenance State (メンテナンス代謝状態における細胞外電子移動に関する研究)	主査：教授 村越 敬
	みねざし ゆうすけ 峯岸 佑典	Explicit-Solvent Excited-State Ab Initio Molecular Dynamics: Methodological Development and Applications to Cyanine and Stilbene Photodynamics (溶媒を陽に取り入れた励起状態第一原理分子動力学法の開発とシアニンおよびスチルベンの光反応ダイナミクスへの展開)	主査：教授 長谷川 淳也

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	
	氏名	博士論文名
博士（理学）	むらやま ぶらい 村山 武来	Topological Descriptors and Comparative Frameworks of Reaction Route Maps (反応経路地図のトポロジカル記述子と比較の枠組み) 主査：教授 小松崎 民樹
	ドン ウン ユ Dong-eun Yoo	Living Anionic Monoaddition of Organometals Using Flow Microreactors (フローマイクロリアクターによる有機金属のリビングアニオンモノ付加) 主査：教授 鈴木 孝紀
博士（工学）	えびい やまと 海老井 大和	Systematic Synthesis of Multicyclic Polystyrenes toward Understanding Topology-property Relationship (高分子トポロジーと物性の相関解明を目指した多環状ポリスチレンの系統的合成) 主査：教授 松本 謙一郎
	ジヤオ シラン 趙 世潤	Development of High-Performance Catalysts for Low Temperature CO ₂ Hydrogenation to Methanol (低温におけるCO ₂ 水素化によるメタノール合成に有効な固体触媒の開発) 主査：教授 菊地 隆司
	ソン ウカ 孫 宇華	Synthesis and Strain Analysis of Contracted Porphyrin-related Macrocycles (環縮小ポルフィリン類縁体の合成と歪み解析) 主査：教授 伊藤 肇
	たなか せいや 田中 聖也	Development of a Novel Method for Controlling the Molecular Weight of Microbial Polyesters (微生物産生ポリエステルの新規分子量制御法の構築) 主査：教授 佐藤 敏文
	チヤン ユチェン 钱 宇澄	<i>In Situ/Operando</i> Spectroscopic Studies on Selective Catalytic Reduction Mechanisms of NO and N ₂ O (<i>In Situ/Operando</i> 分光法によるNOとN ₂ Oの選択還元反応機構研究) 主査：教授 菊地 隆司
	へ チェンシ 何 晨曦	Development of Catalysts and Capture-Reduction Processes for N ₂ O Abatement (N ₂ O除去に向けた分解触媒と捕集・還元プロセスの開発) 主査：教授 菊地 隆司
	やながわ けんご 柳川 謙吾	Mechanistic Analysis of Monomer Sequence Determination in Polyhydroxyalkanoate (ポリヒドロキシアルカン酸のモノマー配列決定機構の解析) 主査：教授 佐藤 敏文
博士（経済学）	チョウ エシテイ 張 媛婷	Tomoko Matsudaira and Home Economics: The Transformation of Consumption and Women in Japan (松平友子と家事経済学——日本における消費と女性の変容) 主査：准教授 斉藤 尚
博士（医学）	いしだ ゆりこ 石田 有莉子	間質性肺炎を合併する肺癌の全身療法における肺臓炎の予測やリスク因子の解析 主査：教授 加藤 達哉
	いちかわ たかや 市川 貴也	免疫不全者における新型コロナウイルス感染症の持続感染および薬剤耐性化に関するリバーストランスレーショナル研究 主査：教授 小林 弘一
	いちのかわ もなみ 市之川 萌奈美	多系統萎縮症の臨床経過とリスク因子 主査：教授 加藤 隆弘
	いなお たすく 稲尾 翼	構造が複雑なデータに対する統計モデルの性能比較: 検査の診断性能とリスク比推定の評価への応用 主査：教授 上田 佳代
	うえだ ゆうしょう 上田 雄翔	ANCA関連血管炎におけるNrf2を介した抗酸化ストレス応答の役割 主査：教授 村上 正晃
	うのき ようこ 卯野木 陽子	大規模診療データベースを用いたクリティカルケア分野の臨床疫学研究 主査：教授 玉腰 暁子
	えんだ けん 遠田 建	機械学習モデルを用いた脳腫瘍病理画像解析に関する研究 主査：教授 青山 英史

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（医学）	えんどう 遠藤 ひとみ 大輝		2.5次元超解像量み込みニューラルネットワークを用いた ¹⁸ F-FDG PET画像画質改善手法の開発 主査：教授 園下 将大
	おおぶち 大淵 けいすけ 佳祐		作業分解手法を用いた腹腔鏡下S状結腸切除術における自動手術技術評価に関する研究 主査：准教授 七戸 俊明
	おがわ 小川 ゆうき 裕生		軟骨下骨の骨代謝異常に着目した変形性関節症の治療戦略の確立 主査：教授 大場 雄介
	おしの 押野 ともひろ 智博		造影超音波検査による早期乳癌の腋窩リンパ節転移診断に関する研究：人工知能併用および非併用での検証 主査：教授 渡利 英道
	おだ 小田 そういちろう 総一郎		胆道癌に対するPARP阻害薬の効果増強因子に関する研究 主査：教授 武富 紹信
	おの 小野寺 けいしゅう 慧洲		周術期における高気圧酸素治療の有効性に関する検討 主査：教授 坂本 直哉
	かとう 加藤 だいすけ 大祐		Neurofluid動態におけるアクアポリン4の機能解明に関するトレーサーMRI研究 主査：教授 田中 真樹
	かねこ 金子 しほ 志帆		切除不能消化器悪性腫瘍患者のサルコペニア評価における尿中および血清タイチンの有用性に関する後方視的検討 主査：教授 本間 明宏
	カン 韓 フォン 豊		構造化・非構造化臨床データを活用した診断支援AI手法の開発と評価 主査：教授 古元 重和
	きむら 木村 りな 理奈		AIセグメンテーションによる肝臓の形態解析と体積の経時的変化に関する研究 主査：教授 小野 尚子
	くろす 黒須 ひろゆき 博之		L1CAM発現が子宮体癌の悪性形質に及ぼす影響に関する検討 主査：教授 近藤 亨
	さとう 佐藤 しゅうき 翔紀		多発性硬化症患者に対するフマル酸ジメチル治療に関する研究 主査：教授 和田 剛志
	しもの 下野 ゆい 裕依		慢性心不全患者におけるCardiac Power Outputが運動耐容能および予後に与える影響に関する研究 主査：教授 若狭 哲
	しらい 白井 ゆうすけ 裕介		ハイドロゲルを用いた星状膠細胞と膠芽腫幹細胞の相互作用の検討 主査：教授 木下 一郎
	ソウ 徐 トンギョク 東經		マウス後肢リンパ浮腫モデルにおける新たな評価法としての3Dスキャナーの有用性に関する研究 主査：教授 安斉 俊久
	たかはし 高橋 けいた 圭太		臨床試験の解析において重み付き推定を用いて複数の外部情報源を統合するための情報借用法に関する研究 主査：教授 玉腰 暁子
	たかはし 高橋 まさき 正樹		がん原遺伝子産物PPM1Dのプロテアソーム依存的分解機構に関する研究 主査：教授 高橋 将人
	たけだ 武田 けんた 賢大		日本におけるABCA3異常症の遺伝的特徴に関する研究 主査：教授 今野 哲
	たなか 田中 だいき 大貴		神経変性疾患におけるBassoon遺伝子変異に関する研究 主査：教授 田中 真樹
	ちば 千葉 こうき 幸輝		睪β細胞におけるPFKFB3依存的代謝適応機構 主査：教授 坂本 直哉
とくひろ 徳廣 たいき 泰貴		CCN3は関節内の細胞老化および破骨細胞形成を介して関節リウマチの病態に関与する 主査：教授 渥美 達也	
はまや 濱谷 たけし 孟志		狭小弁輪患者の経カテーテル的大動脈弁置換術における自己拡張型弁およびバルーン拡張型弁の血流動態の比較検討 主査：教授 森本 裕二	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	
	氏名	博士論文名
博士 (医学)	ふかだ しょうたろう 深田 翔太郎	脂質代謝異常と脊柱後韌帯骨化症発症との関連に関する調査研究 主査：教授 伊藤 陽一
	ふくしま あきら 福島 瑛	脊椎外科領域における患者適合型技術の臨床応用 主査：教授 矢部 一郎
	まつだ のりふみ 松田 識郁	マウス熱傷モデルにおける羊膜由来間葉系幹細胞由来物質のBurn wound conversion抑制効果に関する研究 主査：教授 清野 研一郎
	まるお ゆうじ 丸尾 優爾	ミトコンドリア標的型ドラッグデリバリーシステムを用いた間葉系幹細胞のミトコンドリア機能改変 主査：教授 大場 雄介
	みずしま けいいち 水島 慶一	北海道における常染色体顕性遺伝性脊髄小脳変性症の疾患構成に関する研究 主査：教授 向野 雅彦
	みやもと こうだい 宮本 航大	患者由来異種移植モデルマウスを用いたメルケル細胞癌の病態解明と新規治療に関する研究 主査：教授 高橋 将人
	もり ゆうき 森 勇喜	降雪が急性冠症候群疾患の救急搬送時間や死亡率に与える影響の検討 主査：教授 上田 佳代
	やまもと ひろたか 山本 紘高	全てのウイルスに対応できる汎用的な組換えウイルス作製技術の開発とその応用 主査：教授 氏家 英之
	ヨウ ヨウ 楊 洋	Characterization of nigrostriatal dopaminergic appositions across striatal cell types and regions using AAV1-mediated trans-neuronal labeling (AAV1を用いた順行性神経間標識による黒質線条体ドーパミン作動性軸索の接触様式における細胞型および領域特異性の解析) 主査：教授 吉川 雄朗
	わかさ はな 若狭 はな	日本人成人における肥満と造血管悪性腫瘍の死亡・罹患に関する研究 主査：准教授 横田 勲
	わかぞの のぶやす 若園 順康	CT画像研究の発展がもたらす慢性閉塞性肺疾患の血管病変の理解 主査：准教授 永井 利幸
	わかばやし なおと 若林 直人	日本の核医学治療最適化に向けた単回投与に対する追加投与による安全性と有効性評価および体外線量率予測モデル構築の後向き観察研究 主査：教授 西尾 妙織
	きし ともこ 岸 知子	地域在住高齢者における食料品店へのアクセス、栄養摂取、およびフレイルに関する研究～JAGES ATTACH研究の結果～ 主査：教授 的場 光太郎
博士 (歯学)	コウ カクライ 黄 鶴来	Measurement and analysis of blood glucose levels in rats at 5, 10, and 15 minutes after administration of general anesthetics. (全身麻酔薬投与後5, 10, 15分におけるラットの血糖値の測定と解析) 主査：教授 船橋 誠
	たむら ちかげ 田村 千景	成長期の液状食継続摂取により発育阻害されたラット下顎頭に対する固形食への変更が与える影響 主査：教授 八若 保孝
	ハン シナ 范 斯佳	Establishment of fundamental techniques for fabrication of monolithic zirconia crown based on LCD technology-Debinding effects of green bodies on the sintering behavior of zirconia- (Additive Manufacturing技術の応用によるモノリシックジルコニアクラウン製作に向けた基盤技術の構築—TOSOH-ZIRCONIA TZ-3YS-Eを用いたグリーン体の脱脂工程に関する基礎的研究—) 主査：教授 黒嶋 伸一郎
	ふじい まこと 藤井 誠	大学病院小児・障がい者歯科における上顎正中埋伏過剰歯の臨床統計的検討 主査：教授 八若 保孝
	うえの ふみ 上野 楓実	Live cell imaging analyses of parathyroid hormone-mediated signaling in human neuronal cells (ヒト神経細胞における副甲状腺ホルモンを介したシグナル伝達の生細胞イメージング解析) 主査：教授 飯村 忠浩

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	
	氏名	博士論文名
博士（歯学）	きもと たいし 木本 大視	線条体マトリックス区画における舌運動方向の神経表現 主査：教授 船橋 誠
	たなか ゆりな 田中 裕梨奈	微細ジルコニア粉末とレジン混合材料を用いてAM技術で成形したグリーン体の脱脂工程に関する基礎的研究 主査：教授 黒嶋 伸一郎
	にしもと しんのすけ 西本 慎之介	Teriparatide, an anti-osteoporosis drug, reduces neuroinflammatory phenotypes in spinal cord of ovariectomized rats revealed by artificial intelligence-driven morphometry (AI駆動型形態解析で明らかになった、骨粗鬆症治療薬テリパラチドによる卵巣摘出ラット脊髄の神経炎症性変化の抑制効果) 主査：教授 飯村 忠浩
	いわなが りさ 岩永 理沙	Study on the application of phosphorylated pullulan for alveolar cleft bone grafting (リン酸化プルランの顎裂骨移植への応用に関する研究) 主査：准教授 赤坂 司
	キブミ 其布爾	Ultrastructural Evaluation of Dentine Regeneration after Direct Pulp Capping with Mineral Trioxide Aggregate and Calcium Hydroxide Using Focused Ion Beam Scanning Electron Microscopy and Stimulated Emission Depletion (MTA セメントおよび水酸化カルシウムを用いた直接覆髄後に再生される象牙質の超微細構造評価—集束イオンビーム走査型電子顕微鏡および刺激誘起放出抑制顕微鏡による観察—) 主査：教授 友清 淳
	コウ カネイ 黄 柯寧	Exploring the antibacterial mechanism of colloidal platinum nanoparticles on <i>Streptococcus mutans</i> (プラチナナノコロイドの <i>Streptococcus mutans</i> に対する抗菌作用機構の探索) 主査：教授 友清 淳
	はせがわ ともあき 長谷川 友晃	マイクロナノパターン構造はヒト乳歯歯髄幹細胞の基礎的細胞挙動および石灰化基質形成に影響を与える 主査：准教授 赤坂 司
	まつお ゆうだい 松尾 友太	漂白後の象牙質への接着強度に対する抗酸化処理の有効性 主査：教授 友清 淳
	みらくいん たくま 弥勒院 拓良	デジタル画像解析による漂白後色差評価と診療ユニット光環境の測色再現性への影響 主査：教授 友清 淳
	やぶ りょうたろう 矢後 亮太郎	Color Science-Driven Approaches to Diagnosis and Prevention in Restorative Dentistry: Visibility of Recurrent Caries and Post-Bleaching Discoloration Control (保存修復における色科学に基づく診断・予防アプローチ：ユニバーサルシェードによる二次う蝕の視認性と漂白後着色の制御) 主査：教授 友清 淳
	ちゅうぼろ なつこ 中録 奈都子	高周波電流による垂直歯根破折の破折間隙焼灼効果 主査：教授 高橋 直紀
	つじむら たいが 辻村 大河	リン酸化プルラン／塩化カルシウム／ β -TCP-BMP-2 複合体移植の槽槽増大への有効性 主査：教授 高橋 直紀
	どう ひろたか 堂 寛隆	リン酸化プルラン含有MTAの逆根管充填における封鎖性と歯根端切除術後の治療に対する有効性 主査：教授 高橋 直紀
	ほらだ あまの 原田 天乃	リン酸化プルラン／塩化カルシウム／ β -TCP/BMP-2 複合体移植によるBMP 濃度の低減と垂直的骨造成の検討 主査：教授 高橋 直紀
	かしわばら みゆき 柏原 みゆき	<i>Prevotella intermedia</i> 由来タンパク質による口腔扁平上皮癌細胞株HSC-3 の増殖抑制 主査：教授 長谷部 晃
	コウ ユエイ 洪 諭瑩	Functional analysis of miR-199a-3p in tumor endothelial cells (腫瘍内皮細胞におけるmiR-199a-3p の機能解析) 主査：教授 樋田 京子
ひかさ ひろし 日笠 紘志	北海道大学病院口腔内科における放射線性顎骨壊死の臨床的検討 主査：教授 宮本 郁也	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（歯学）	ひねかた たけし 宗片 勇史		β 遮断薬の血管内皮への作用を介したがん転移に与える影響の検討 主査：教授 樋田 京子
博士（獣医学）	イ LEE スヨン Seungyeon		Deep-learning-based Canine Liver Segmentation on CT: Baseline Model, Workflow Efficiency, and Quality-Controlled Clinical Application (犬のCT画像における深層学習に基づく肝臓セグメンテーション：モデル開発、ワークフロー検証、臨床応用) 主査：教授 木村 享史
	コウバ KOVBA アナスタシア Anastasiia		A study on emerging viral infections and associated risks in wildlife of Hokkaido, Japan (北海道の野生動物における新興ウイルスの感染状況および感染リスクの評価) 主査：教授 石塚 真由美
	しおほら のすみ 塩原 希		Study on the assessment of hepatic congestion and fibrosis in dogs with cardiac disease using Shear Wave Elastography (犬の心疾患における剪断波エラストグラフィを用いた肝うっ血および肝線維化の評価に関する研究) 主査：教授 木村 享史
	すずき たまみ 鈴木 玲海		Study on the Pathogenesis of Canine Hemangiosarcoma Focusing on Epigenetics and Tumor Metabolism (エピジェネティクスおよび腫瘍代謝に着目したイヌ血管肉腫の病態解明に向けた研究) 主査：教授 滝口 満喜
	ダラウイロジ DARAWIROJ カニタ Kanitha		Modulatory Potential of Fuzapladib and Pentosan Polysulfate Sodium on Adhesion Molecules and Chemokine Receptors in canine endothelial cells (犬血管内皮細胞におけるケモカイン受容体機能と接着因子発現に対するフザブラジブおよびポリ硫酸ペントサンの干渉能) 主査：教授 木村 享史
	つかだ あんじゅ 塚田 杏樹		Study on the role of gut microbiota and intestinal environment in adipose tissue development in preweaning mice (乳子期マウスの脂肪組織発達における腸内細菌および腸内環境の役割に関する研究) 主査：教授 森松 正美
	バラルリシ BARAL Rishi		Genetics, habitat, diet, and predator prey relationships of brown bears and other carnivores in the Himalayas, Nepal (ネパール・ヒマラヤにおけるヒグマおよびその他の肉食動物の遺伝子、生息地、食性ならびに捕食被食の関係) 主査：教授 石塚 真由美
	バンダネリ BANDA Nelly		Environmental Distribution and Biological Impact of Lead and Metalloids in Protected Areas: Intergenerational Exposure and Nutritional Mitigation Strategies (生態系保護地域における鉛および金属類の環境汚染と生物影響：世代間曝露と栄養学的緩和戦略) 主査：教授 乙黒 兼一
	ひらいし まさや 平石 真也		Cross-species morphological study on the mucosal immune system in the head of animals (頭部粘膜免疫機構に関する動物種を横断した形態学的研究) 主査：教授 木村 享史
	ベロタイウオ BELLO Taiwo カマルディーン Kamar-deen		Effects of osteopontin therapy at the first insemination after calving to improve fertility in dairy cows and the underlying changes in epidermal growth factor and leptin receptors in the endometrium (分娩後初回授精時の乳牛に対するオステオポンチン投与による受胎性改善効果とその背景となる子宮内膜での上皮成長因子およびレプチン受容体の変化) 主査：教授 坪田 敏男
モハメド モミニル MD Mominul イスラム Islam		Evaluation of the Functional Expression of Otopetrin 1 (OTOP1), a Proton Channel, in Brown Adipocytes (プロトンチャネルであるOtopetrin 1 (OTOP1) の褐色脂肪細胞での機能的な発現の評価) 主査：教授 乙黒 兼一	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（獣医学）	わたなべ 渡邊	かなみ 可菜実	Functional characterization of Xenobiotic metabolizing enzymes and elucidation of environmental chemical sensitivity in Elephants (ゾウ科動物の環境化学物質感受性の解明に向けた異物代謝酵素の機能解析) 主査：教授 乙黒 兼一
	かわぐち 川口	にじほ 虹穂	Molecular Basis of Pathogenicity of a Rabies Virus Street Strain (狂犬病ウイルス街上毒の病原性の分子基盤に関する研究) 主査：教授 迫田 義博
	こばやし 小林	だいき 大樹	Studies on functions of envelope glycoproteins in replication and pathogenicity of influenza A viruses (インフルエンザAウイルスの複製および病原性発揮における表面糖タンパク質の機能に関する研究) 主査：特任教授 莉和 宏明
博士（感染症学）	ジャヤウィーラ JAYAWEERA ムハンディラムゲ MUHANDIRAMGE サシニ ジャヤウィーラ Sasini Jayaweera		Evaluation of the efficacy of novel quinolones against quinolone-resistant <i>Mycobacterium avium</i> (キノロン耐性 <i>Mycobacterium avium</i> に対する新規キノロン剤の有効性の評価) 主査：教授 東 秀明
	ティヤマニー TIYAMANEE ウイサ Wisa		Research on disease progression and immunoinhibitory pathway using sheep model of persistent bovine leukemia virus infection (牛伝染性リンパ腫ウイルス持続感染羊モデルにおける病態進行および免疫抑制因子に関する研究) 主査：教授 中島 千絵
	ネステイ デラ NESTI Dela リア Ria		Development of a Comprehensive Detection Method for Paramyxoviruses Using Indonesian Bats (インドネシア由来コウモリを用いたパラミクソウイルス網羅的検出法の開発) 主査：教授 大場 靖子
	ヒュー イク リム HEW Yik Lim		Studies on epidemiology and control of H5 high pathogenicity avian influenza virus in Japan (日本におけるH5高病原性鳥インフルエンザウイルスの疫学および制御に関する研究) 主査：教授 高田 礼人
	メアーズ MEARS シャドウィック Chadwic ディシーン De'sean		Studies on Isolation and Characterization of Alphaviruses Sindbis Virus and Eilat Virus identified from mosquitoes in Zambia (ザンビアの蚊から単離されたアルファウイルス属シンドビスウイルスおよびエイラットウイルスの性状解析) 主査：特任教授 莉和 宏明
博士（文学）	イヤス シリヤ マリア Ijas Silja Maria		Language Attitudes of Ainu People toward their Language, its Speakers, and Linguistic Institutions: Implications for Revitalization and Modern Use (アイヌ語、その話者、および言語に関する制度に対するアイヌ民族の言語態度をめぐって：言語復興と現代的使用への示唆) 主査：特任教授 佐藤 知己
博士（学術）	うえむら 上村	まさゆき 正之	1798-1847年におけるロシア文学とウクライナ文学の交錯—ウクライナ・コサック表象に注目して 主査：准教授 安達 大輔
	ウ ラ ノ フ ULANOV アレキサンダー Aleksandr		Cultural Transmission and convergence processes in Paleolithic of Northern Asia and Beringia: On the basis of microblade industries (北東アジアとベーリンジアの旧石器時代の文化伝播と文化収斂過程：細石刃石器群に基づいて) 主査：教授 加藤 博文
博士（文学）	きむら 木村	ただし 禎	臨床倫理に携わる看護職に求められるコンピテンシーに関する研究 主査：准教授 奥野 満里子
	サリントキヤ 薩仁図雅		音の民族誌—モンゴル遊牧社会における人・動物・風景・霊的存在をつなぐ実践— 主査：教授 山口 未花子
	しみず 清水	はやて 颯	カント徳理論の再構成と応用可能性—有徳な人の感情と人間以外の存在に対する道徳的配慮の観点から— 主査：教授 田口 茂

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	
	氏名	博士論文名
博士（文学）	ス ス ロ フ SUSLOV アルテム Artem	Decording Women's Voices: Independence and Dependence in WWII Literature through Digital Humanities (女性たちの声を聴く：人文情報学が奏でる第二次世界大戦文学の自律と他律の音楽) 主査：教授 瀬名波 栄潤
	チ ョ ウ 張 琴琴	日本語数量詞の多層的構造と機能に関する総合的研究 主査：教授 加藤 重広
	チ ョ ウ 趙 珊	楚卜筮祭禱簡における宗教儀礼と鬼神信仰に関する研究 主査：教授 近藤 浩之
	バ ク 莫 寒	中國思想史に関する研究—思想史へのアプローチ— 主査：教授 近藤 浩之
	ひらおか 平岡 和	日本列島におけるニワトコの歴史生態学的研究 主査：教授 高瀬 克範
	マ 馬 世ブン	竹越与三郎に関する思想史研究—「自由帝国主義」者の国家構想— 主査：教授 権 錫永
	み う ら 三浦 光彦	ロベール・ブレッソン考—魂を創発する装置としてのシネマトグラフ 主査：教授 応 雄
	み す 三栖 大明	エトノス・イデオロギー：ソヴィエト民族学における「エトノス理論」の諸相 主査：教授 青島 陽子
	もとひろ 元廣 修爾	環境保全の公民協働に関するエスノグラフィック・アクションリサーチ～自治体行政およびNPOの環境教育事業をつなぐ試み～ 主査：教授 小田 博志
	リョウ 凌 玲	古代中國における「意象」に関する研究 主査：教授 近藤 浩之
レ ッ ト ソ ン LETSON ジェームズ デウィー James Dewi	A Life Lived Punk: Live Music and Intergenerational Relationships in Aging Japan (パンクとして生きていた人生：高齢化日本におけるライブ音楽と世代間交流) 主査：准教授 コーカー ケイトリン クリステイーン	
博士（人間科学）	いとう 伊藤 泰幹	都市における野生動物問題の環境社会学的解決に向けて一札幌市郊外のヒグマ出没問題における住民参加を事例に— 主査：教授 宮内 泰介
	タン 譚 天儀	女性ウェイト・ピッカーの労働・ケア・実践 山東省東営市東営区を事例に 主査：教授 宮内 泰介
	チ ョ ウ 張 旭穎	聴取者にとっての演奏表現の芸術性：テンポのゆらぎに焦点を当てて 主査：特任教授 安達 真由美
博士（学術）	はやし 林 健太	ピョートル一世の活字帝国 主査：教授 長縄 宣博
博士（情報科学）	すなほら 砂原 悟	A Study on DNS Architecture Realizing Institutional Privacy Preservation (機関プライバシーを実現するDNSアーキテクチャに関する研究) 主査：教授 飯田 勝吉
	チ ョ ウ 張 慧丹	Visual Factors Shaping Text Legibility and Preference in Virtual Reality: A Comparative Study of Native and Non-Native Speakers (バーチャルリアリティー環境におけるテキスト判別性と嗜好性に影響する視覚要因の調査:母語話者と非母語話者の比較研究) 主査：教授 坂本 大介
	にしうら 西浦 翼	路線バスにおけるカメラ画像を用いたバス乗客OD推定システムに関する研究 主査：教授 川村 秀憲
	よしの 吉野 夏樹	構造化低ランク近似アルゴリズムとその初期化戦略に関する研究 主査：教授 田中 章
博士（工学）	おかざき 岡崎 凌大	対向発散磁界下低気圧誘導結合プラズマ中の電子加熱機構に関する研究 主査：特任教授 村山 明宏
博士（情報科学）	しみず 清水 新平	光パラメトリック信号処理による広帯域・低雑音光伝送システムに関する研究 主査：教授 末岡 和久

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士 (情報科学)	ソウ イ CONG Yi	Disease Similarity Analysis Based on Disease-Specific Transcriptomic Alterations: Development of an Automated Framework and Application to Drug Repositioning (疾患特異的転写発現変動に基づく疾患類似性解析:自動化フレームワークの構築とドラッグリポジショニングへの応用)	主査:教授 遠藤 俊徳
	リュウ ゲンオン 劉 言恩	Investigation of quantum coherence within modal strong coupling systems between localized surface plasmon resonance and Fabry-Pérot nanocavity modes (局在表面プラズモン共鳴とファブリ・ペローナノ共振器とのモード型強結合系における量子コヒーレンスの研究)	主査:教授 橋本 守
博士 (工学)	オカンボ OCAMPO サビジョン SABILLON グスタボ GUSTAVO アルフレド ALFREDO	A Study on Random Polarization-Mode Coupling Effects and Stress Distribution Characteristics in Heterogeneous Multi-Core Fibers (異種マルチコアファイバにおけるランダム偏波モード結合効果と応力分布特性に関する研究)	主査:教授 齊藤 晋聖
博士 (情報科学)	かみかわ きょうへい 上川 恭平	ユーザの多様な特性に適応する機械学習モデルのパーソナライズ化に関する研究	主査:教授 小川 貴弘
	カン ヨウソウ 甘 耀宗	A Study on Visual Recognition with Large Multimodal Models and Its Applications (大規模マルチモーダルモデルを用いた視覚認識およびその応用に関する研究)	主査:教授 小川 貴弘
	キム ドクヒョン KIM Dukhyun	ホログラムの無損失圧縮に関する研究	主査:教授 土橋 宜典
博士 (工学)	たなか やすなり 田中 康就	IM-DD伝送方式のAPN適用に向けた伝送距離拡大の研究	主査:客員教授 島田 達也
	むらつばき たいち 村椿 太一	マルチモードオンチップ光ネットワークのための2 μm帯シリコンデバイスの研究	主査:教授 齊藤 晋聖
博士 (情報科学)	ラン シブン 蘭 子文	A study on latent representation learning for understanding, generation, and copyright protection of artificially created works (人工創作物の理解・生成および著作権保護のための潜在表現学習に関する研究)	主査:教授 小川 貴弘
博士 (食資源学)	チャンゴマ Changoma フランシス マルコ Fransis Marko	Consistent ELEFAN estimation of fish stock parameters using median bootstrap estimators: application to <i>Encrasicholina heteroloba</i> in Tanzanian coastal waters (中央値ブートストラップ推定値を用いた一貫したELEFANによる魚類資源パラメータの推定:タンザニア沿岸海域のシロガネアイノコイワシ <i>Encrasicholina heteroloba</i> への適用)	主査:教授 松石 隆
	フ ジュンジュ 符 俊杰	The Efficiency-level Inconsistency of the SIF-GPP Relationship in a Subtropical Evergreen Forest in Japan (日本の亜熱帯常緑樹林における SIF-GPP 関係の効率レベルにみられる不一致性)	主査:教授 加藤 知道
	ラチャナ Rachana マディハリ Madihalli ガンガダラ Gangadhara	Development of a quantitative analytical method for unsaturated short-chain fatty acid esters of hydroxy fatty acids and their biological applications (ヒドロキシ脂肪酸の不飽和短鎖脂肪酸エステルの定量分析法の開発とその生物学的応用)	主査:准教授 ボメゴウダ シッダバサーブゴウダ
	マドゥヴァナハリ Madhuvanahalli スンドラスワミ Sundaraswamy プニート Punith	Development of analytical method for monitoring sphingomyelin synthase and discovery of its natural inhibitor from <i>Hizikia fusiformis</i> (スフィンゴミエリン合成酵素のモニタリング分析法の開発とヒジキからの天然阻害剤の発見)	主査:准教授 ボメゴウダ シッダバサーブゴウダ
	モハムド アブドゥル MD ABDUL マレク MALEK	Application of untargeted lipidomics for the identification and characterization of novel lipids in plant and yeast samples (植物および酵母サンプルにおける新規脂質の同定と特性評価のための非標的脂質オミクスの応用)	主査:准教授 ボメゴウダ シッダバサーブゴウダ

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（食資源学）	ジラトーン Jeeratorn ユタラ Yuttharax		Ecological implications of trash fish harvests in tropical trawl fisheries: A case study in the Gulf of Thailand (熱帯トロール漁業におけるトラッシュフィッシュ漁獲の生態学的影響:タイランド湾を事例として) 主査:教授 松石 隆
	リ シュ 李 澍		The Social Roles and Sustainability of Rural Grocery Stores: Exploring Their Future as the Heart of Rural Communities (農村地域における食料品小売店が持つ社会的役割とその発揮の持続性について) 主査:准教授 小林 国之

論文博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（農学）	やまだ ひろみ 山田 洋文		大規模水田作経営における米生産費構造と所得形成に関する研究 主査:教授 東山 寛
	なかじま そうた 中島 颯大		河川生物の保全に向けた遺伝子流動評価に関する研究 主査:准教授 石山 信雄
博士（生命科学）	エンヘマー ENKHBAT エンヘバト Enkhmaa		Study on Factors Related to the Effects of Edible Mushroom-Derived Sphingomyelin Synthase Inhibitors on Obesity (食用キノコ由来スフィンゴミエリン合成酵素阻害剤の肥満等に及ぼす影響要因に関する研究) 主査:教授 門出 健次
博士（教育学）	あおき かほり 青木 香保里		家庭科教科書の教育内容構成に関する研究－戦後初期家庭科構想と城戸幡太郎編『わたしたちの生活設計（家庭生活中心）』の教科書分析－ 主査:教授 大竹 政美
	さかおか おおじ 坂岡 大路		〈原理主義的キリスト教コミュニティで育った子〉はいかにして自由な主体となりうるか 主査:特任教授 松田 康子
博士（工学）	とぬま じゅん 戸沼 淳		災害時の緊急仮設に適した木製トラス橋に関する研究 主査:教授 松本 高志
博士（感染症学）	とば しんすけ 鳥羽 晋輔		Basic research contributing to the development of treatments for viral infections and antimicrobial resistant bacterial infections (ウイルス感染症および薬剤耐性細菌感染症の治療法の確立に資する基盤研究) 主査:教授 澤 洋文
博士（食資源学）	カノクラット KANOKRAT ビュワール BUAREAL		Linking Solar-Induced Chlorophyll Fluorescence to Gross Primary Productivity Across Terrestrial Ecosystems (陸域生態系における太陽光誘起クロロフィル蛍光と総一次生産量の関係の解明) 主査:教授 加藤 知道

■表敬訪問

海外

年月日	来 訪 者	来 訪 目 的
8.3.2	駐日スウェーデン王国大使館 Viktoria Li 特命全権大使	今後の交流に関する懇談



Viktoria Li 駐日スウェーデン王国大使
(前列左から1人目)

(国際部国際連携課)

■人事

令和8年3月30日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【役員】 (転出) 文部科学省大臣官房付	行 松 泰 弘	理事

令和8年3月31日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 (定年)	上 田 信太郎	大学院法学研究科教授
	酒 井 隆 一	大学院水産科学研究院教授
	亀 井 佳 彦	水産学部附属練習船おしよろ丸教授
	野 田 隆 史	大学院地球環境科学研究院教授
	森 川 正 章	大学院地球環境科学研究院教授
	小 亀 一 弘	大学院理学研究院教授
	佐 田 和 己	大学院理学研究院教授
	鈴 木 久 男	大学院理学研究院教授
	谷 野 圭 持	大学院理学研究院教授
	見 延 庄士郎	大学院理学研究院教授
	貴 島 祐 治	大学院農学研究院教授
	近 藤 巧	大学院農学研究院教授
	信 濃 卓 郎	大学院農学研究院教授
	園 山 慶	大学院農学研究院教授
	山 本 康 貴	大学院農学研究院教授
	安 達 潤	大学院教育学研究院教授
	大 竹 政 美	大学院教育学研究院教授
	長 島 美 織	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
	西 村 龍 一	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
	遠 山 晴 一	大学院保健科学研究院教授
	山 口 博 之	大学院保健科学研究院教授
	太 田 泰 彦	大学院工学研究院教授
	大 利 徹	大学院工学研究院教授
	高 野 伸 栄	大学院工学研究院教授
	富 岡 智	大学院工学研究院教授
	渡 部 正 夫	大学院工学研究院教授
	岩 田 智	大学院経済学研究院教授
	久保田 肇	大学院経済学研究院教授
	渥 美 達 也	大学院医学研究院教授
	藤 山 文 乃	大学院医学研究院教授
	高 橋 茂	大学院歯学研究院教授
	八 若 保 孝	大学院歯学研究院教授
	坪 田 敏 男	大学院獣医学研究院教授
	野 中 成 晃	大学院獣医学研究院教授
	瀬名波 栄 潤	大学院文学研究院教授
	平 澤 和 司	大学院文学研究院教授
	今 井 英 幸	大学院情報科学研究院教授
	渡 辺 力	低温科学研究所教授
	岩 下 明 裕	スラブ・ユーラシア研究センター教授
	西 山 徳 明	観光学高等研究センター教授

(任期満了)	深 町 康 塚 本 尚 義 原 島 秀 吉 村 上 勇 介 南 里 智 之 湯 浅 万 紀 子 GODNA ELENA ZINOVYEVNA JORDAN PETER DAVID KUZNETSOV SERGEY ILYICH LAVENTO MIKA TAPIO NICHOLAS GEORGE PETER POPOV ALEKSANDR NIKOLAEVICH PRICE NEIL WATKINS JOE EDWARD	北極域研究センター教授 大学院理学研究院教授 大学院薬学研究院教授 スラブ・ユーラシア研究センター教授 広域複合災害研究センター教授 総合博物館教授 国際連携研究教育局教授 国際連携研究教育局教授 国際連携研究教育局教授 国際連携研究教育局教授 国際連携研究教育局教授 国際連携研究教育局教授 国際連携研究教育局教授 国際連携研究教育局教授 国際連携研究教育局教授
(辞職)	川 村 力 青 木 芳 尚	大学院法学研究科教授 大学院工学研究院教授
【准教授】 (定年)	渡 邊 誠 加 藤 博 之 坂 入 正 敏 土 家 琢 磨 高 山 芳 幸 河 口 万 由 香 田 中 文 基 根 岸 淳 落 合 正 則 笠 原 康 裕 車 柱 榮	大学院教育学研究院准教授 大学院工学研究院准教授 大学院工学研究院准教授 大学院工学研究院准教授 大学院歯学研究院准教授 大学院情報科学研究院准教授 大学院情報科学研究院准教授 北海道大学病院准教授 低温科学研究所准教授 低温科学研究所准教授 北方生物圏フィールド科学センター准教授
【講師】 (定年)	倉 持 寛 太 畑 谷 達 児 水 野 誠 司 金 子 知 生	大学院農学研究院講師 大学院農学研究院講師 大学院工学研究院講師 北海道大学病院講師
【助教】 (定年)	鷲 尾 健 司 古 内 仁 宮 下 弥 生 西 村 生 哉 松 下 昭 彦 豊 田 威 信	大学院地球環境科学研究院助教 大学院工学研究院助教 大学院文学研究院助教 大学院情報科学研究院助教 大学院情報科学研究院助教 低温科学研究所助教
【助手】 (定年)	佐々木 紫 代 吉 田 磨 仁	大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター助手 大学院地球環境科学研究院助手
【部長・次長等】 (役職定年)	乾 優 紀 子 松 橋 和 哉	総務企画部次長(兼)総務企画部総務課長 社会共創部次長(兼)社会共創部産学連携課長
(辞職)	羽 澤 明 文	企画調整役(兼)監査室長(兼)監事支援室長
【課長・事務長・室長】 (役職定年)	岡 野 賢 菅 原 暢 廣 船 曳 康 徳 八 戸 勇 人	法学研究科・法学部事務長 薬学事務部事務長 北海道大学病院総務課人事労務管理室長 学務部学生支援課長
(辞職)		

	押田 聡 原田 由美	施設部施設整備課長 環境科学事務部事務長
【技術職員等】 (役職定年)	渡邊 千秋 齊藤 聖子	北海道大学病院医療技術部長 子どもの園保育園園長

令和8年4月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
<p>【役員】</p> <p>総長 (期間：令和12年3月31日まで)</p> <p>理事 (副学長) (期間：令和10年3月31日まで)</p> <p>理事 (副学長) (期間：令和10年3月31日まで)</p> <p>理事 (副学長) (期間：令和10年3月31日まで)</p> <p>理事 (副学長) (期間：令和10年3月31日まで)</p> <p>理事 (副学長・事務局長) (期間：令和10年3月31日まで)</p> <p>理事 (期間：令和10年3月31日まで)</p>	<p>寶金 清博</p> <p>野口 伸</p> <p>網塚 浩</p> <p>瀬戸口 剛</p> <p>石塚 真由美</p> <p>甲田 彰</p> <p>横井 理夫</p> <p>CHRISTINA AHMADJIAN</p>	<p>総長</p> <p>大学院農学研究院教授</p> <p>大学院理学研究院教授</p> <p>理事 (副学長)</p> <p>大学院獣医学研究院教授</p> <p>理事</p> <p>文化庁政策課長</p> <p>理事</p>
<p>【副学長】</p> <p>副学長 (期間：令和9年3月31日まで)</p> <p>副学長 (期間：令和9年3月31日まで)</p> <p>副学長 (期間：令和10年3月31日まで)</p> <p>副学長 (期間：令和10年3月31日まで)</p> <p>副学長 (期間：令和9年3月31日まで)</p> <p>副学長 (期間：令和9年3月31日まで)</p> <p>副学長 (期間：令和10年3月31日まで)</p> <p>副学長 (期間：令和10年3月31日まで)</p> <p>副学長 (期間：令和9年3月31日まで)</p>	<p>横田 篤</p> <p>山本文彦</p> <p>南須原 康行</p> <p>LA FAY MICHELLE KAY</p> <p>石森 浩一郎</p> <p>西 邑 隆 徳</p> <p>佐々木 雅 寿</p> <p>幅 崎 浩 樹</p> <p>長谷川 康 弘</p>	<p>理事 (副学長)</p> <p>理事 (副学長)</p> <p>副学長</p> <p>副学長</p> <p>副学長</p> <p>副学長</p> <p>大学院法学研究科教授</p> <p>大学院工学研究院教授</p> <p>副理事</p>
<p>【副理事】</p> <p>副理事 (期間：令和10年3月31日まで)</p> <p>副理事 (期間：令和9年3月31日まで)</p> <p>副理事 (期間：令和9年3月31日まで)</p>	<p>矢野 理香</p> <p>村山 明宏</p> <p>寺内 伊久郎</p>	<p>大学院保健科学研究院教授</p> <p>大学院情報科学研究院特任教授</p> <p>産学・地域協働推進機構特任教授</p>

【部局長・施設長等】

大学院法学研究科長
 法学部長
 (期間：令和10年3月31日まで)
 大学院水産科学研究院長
 大学院水産科学院長
 水産学部長
 (期間：令和10年3月31日まで)
 大学院農学研究院長
 大学院農学院長
 農学部長
 (期間：令和10年3月31日まで)
 大学院教育学研究院長
 大学院教育学院長
 教育学部長
 (期間：令和10年3月31日まで)
 大学院総合化学院長
 (期間：令和10年3月31日まで)
 大学院経済学研究院長
 大学院経済学院長
 経済学部長
 (期間：令和10年3月31日まで)
 大学院歯学研究院長
 大学院歯学院長
 歯学部長
 (期間：令和10年3月31日まで)
 大学院文学研究院長
 大学院文学院長
 文学部長
 (期間：令和10年3月31日まで)
 大学院情報科学研究院長
 大学院情報科学院長
 (期間：令和10年3月31日まで)
 低温科学研究所長
 (期間：令和10年3月31日まで)
 遺伝子病制御研究所長
 (期間：令和10年3月31日まで)
 触媒科学研究所長
 (期間：令和10年3月31日まで)
 スラブ・ユーラシア研究センター長
 (期間：令和10年3月31日まで)
 量子集積エレクトロニクス研究センター長
 (期間：令和10年3月31日まで)
 北方生物圏フィールド科学センター長
 (期間：令和10年3月31日まで)
 アイヌ・先住民研究センター長
 (期間：令和10年3月31日まで)
 社会科学実験研究センター長
 (期間：令和10年3月31日まで)
 環境健康科学研究教育センター長
 (期間：令和10年3月31日まで)
 広域複合災害研究センター長
 (期間：令和10年3月31日まで)

曾野裕夫	大学院法学研究科教授
藤森康澄	大学院水産科学研究院教授
久保友彦	大学院農学研究院教授
辻智子	大学院教育学研究院教授
上野貢生	大学院理学研究院教授
久保淳司	大学院経済学研究院教授
飯村忠浩	大学院歯学研究院教授
谷本晃久	大学院文学研究院教授
近野敦	大学院情報科学研究院教授
山口良文	低温科学研究所教授
茂木文夫	遺伝子病制御研究所教授
浦口大輔	触媒科学研究所教授
青島陽子	スラブ・ユーラシア研究センター教授
本久順一	大学院情報科学研究院教授
星野洋一郎	北方生物圏フィールド科学センター教授
山崎幸治	アイヌ・先住民研究センター教授
高橋伸幸	大学院文学研究院教授
山内太郎	大学院保健科学研究院教授
佐々木貴信	大学院農学研究院教授

脳科学研究教育センター長 (期間：令和10年3月31日まで)	小川 宏 人	大学院理学研究院教授
総合博物館長 (期間：令和10年3月31日まで)	山内 太 郎	大学院保健科学研究院教授
大学文書館長 (期間：令和9年3月31日まで)	山本 文 彦	副学長
経営企画本部長 (期間：令和10年3月31日まで)	野口 伸	理事 (副学長)
技術連携統括本部長 (期間：令和10年3月31日まで)	網塚 浩	理事 (副学長)
情報環境推進本部長 (期間：令和10年3月31日まで)	甲田 彰	理事 (副学長)
アドミッション本部長 (期間：令和10年3月31日まで)	網塚 浩	理事 (副学長)
総合イノベーション創発機構長 (期間：令和10年3月31日まで)	瀬戸口 剛	理事 (副学長)
安全衛生本部長 (期間：令和10年3月31日まで)	甲田 彰	理事 (副学長)
産学・地域協働推進機構長 (期間：令和10年3月31日まで)	瀬戸口 剛	理事 (副学長)
総合IR本部長 (期間：令和10年3月31日まで)	野口 伸	理事 (副学長)
国際連携推進本部長 (期間：令和10年3月31日まで)	石塚 真由美	理事 (副学長)
サステナビリティ推進機構長 (期間：令和10年3月31日まで)	石塚 真由美	理事 (副学長)
アイヌ共生推進本部長 (期間：令和9年3月31日まで)	山本 文 彦	副学長
ダイバーシティ・インクルージョン推進本部長 (期間：令和10年3月31日まで)	石塚 真由美	理事 (副学長)
広報・社会連携本部長 (期間：令和10年3月31日まで)	横井 理 夫	理事 (副学長・事務局長)
質保証推進本部長 (期間：令和9年3月31日まで)	長谷川 康 弘	副学長
半導体フロンティア教育研究機構長 (期間：令和9年3月31日まで)	石 森 浩一郎	副学長
統合URA本部長 (期間：令和10年3月31日まで)	瀬戸口 剛	理事 (副学長)
教育イノベーション機構長 (期間：令和10年3月31日まで)	網塚 浩	理事 (副学長)
総合イノベーション創発機構化学反応創成研究拠点長 (期間：令和10年3月31日まで)	前田 理	総合イノベーション創発機構化学反応創成研究拠点・大学院理学研究院教授
総合イノベーション創発機構データ駆動型融合研究創発拠点長 (期間：令和10年3月31日まで)	長谷山 美 紀	大学院情報科学研究院教授
総合イノベーション創発機構ワクチン研究開発拠点長 (期間：令和10年3月31日まで)	澤 洋 文	総合イノベーション創発機構ワクチン研究開発拠点教授
大学院法学研究科高等法政教育研究センター長 (期間：令和10年3月31日まで)	眞 壁 仁	大学院法学研究科高等法政教育研究センター教授
大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター長 (期間：令和9年3月31日まで)	大 園 真 子	大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター教授
大学院先端生命科学研究院次世代物質生命科学研究センター長 (期間：令和9年3月31日まで)	中 村 公 則	大学院先端生命科学研究院教授
大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター長 (期間：令和10年3月31日まで)	川 田 学	大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター教授

大学院医学研究院動物実験施設長 (期間：令和9年3月31日まで)	吉川 雄 朗	大学院医学研究院教授
大学院公共政策学連携研究部公共政策学研究センター長 (期間：令和10年3月31日まで)	今井 太 志	大学院公共政策学連携研究部公共政策学研究センター教授
薬学部附属薬用植物園長 (期間：令和9年3月31日まで)	脇本 敏 幸	大学院薬学研究院教授
水産学部附属練習船おしよろ丸船長 (期間：令和10年3月31日まで)	坂岡 桂一郎	水産学部附属練習船おしよろ丸准教授
水産学部附属練習船うしお丸船長 (期間：令和10年3月31日まで)	小林 直 人	水産学部附属練習船うしお丸准教授
低温科学研究所附属環オホーツク観測研究センター長 (期間：令和10年3月31日まで)	西岡 純	低温科学研究所附属環オホーツク観測研究センター教授
遺伝子病制御研究所附属動物実験施設長 (期間：令和10年3月31日まで)	清野 研一郎	遺伝子病制御研究所教授
遺伝子病制御研究所附属感染癌研究センター長 (期間：令和10年3月31日まで)	園下 将 大	遺伝子病制御研究所教授
触媒科学研究所附属触媒連携研究センター長 (期間：令和10年3月31日まで)	高草木 達	触媒科学研究所教授
附属図書館長 (期間：令和9年3月31日まで)	山本文彦	副学長
附属図書館北図書館長 (期間：令和9年3月31日まで)	佐藤 美 洋	大学院薬学研究院教授
【副研究科長・副研究院長等】		
大学院法学研究科副研究科長 (期間：令和10年3月31日まで)	桑原 朝 子	大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授
大学院法学研究科副研究科長 (期間：令和10年3月31日まで)	林 誠 司	大学院法学研究科教授
大学院水産科学研究院副研究院長 (期間：令和10年3月31日まで)	細川 雅 史	大学院水産科学研究院教授
大学院水産科学研究院副研究院長 (期間：令和10年3月31日まで)	向井 徹	大学院水産科学研究院教授
大学院農学研究院副研究院長 (期間：令和10年3月31日まで)	小関 成 樹	大学院農学研究院教授
大学院農学研究院副研究院長 (期間：令和10年3月31日まで)	森 春 英	大学院農学研究院教授
大学院教育学研究院副研究院長 (期間：令和10年3月31日まで)	近藤 健一郎	大学院教育学研究院教授
大学院経済学研究院副研究院長 (期間：令和10年3月31日まで)	高木 真 吾	大学院経済学研究院教授
大学院歯学研究院副研究院長 (期間：令和10年3月31日まで)	長谷部 晃	大学院歯学研究院教授
大学院文学研究院副研究院長 (期間：令和10年3月31日まで)	浅沼 敬 子	大学院文学研究院教授
大学院文学研究院副研究院長 (期間：令和10年3月31日まで)	竹澤 正 哲	大学院文学研究院教授
大学院情報科学研究院副研究院長 (期間：令和10年3月31日まで)	浅井 哲 也	大学院情報科学研究院教授
大学院情報科学研究院副研究院長 (期間：令和10年3月31日まで)	田中 章	大学院情報科学研究院教授
北海道大学病院副病院長 (期間：令和10年3月31日まで)	長川 武 司	北海道大学病院事務部長
低温科学研究所副所長 (期間：令和10年3月31日まで)	青木 茂	低温科学研究所教授

<p>大学院公共政策学連携研究部教授 人獣共通感染症国際共同研究所教授 スラブ・ユーラシア研究センター教授</p>	<p>齋藤久光 松野啓太 帯谷知可</p>	<p>大学院経済学研究院教授 人獣共通感染症国際共同研究所准教授 京都大学教授 (京都大学を本籍機関としてクロスアポイントメント適用)</p>
<p>北方生物圏フィールド科学センター教授 観光学高等研究センター教授 大学文書館教授 教育イノベーション機構教授 教育イノベーション機構教授 教育イノベーション機構教授 教育イノベーション機構教授 教育イノベーション機構教授 教育イノベーション機構教授 教育イノベーション機構教授 教育イノベーション機構教授 教育イノベーション機構教授 教育イノベーション機構教授 教育イノベーション機構教授 教育イノベーション機構教授 教育イノベーション機構教授 総合IR本部教授</p>	<p>吉澤和徳 張慶在 井上高聡 青木麻衣子 飯田直弘 伊藤孝行 江本理恵 亀野淳 COOK EMMA ELIZABETH KLIEN SUSANNE 佐々田博教 高橋彩 鄭惠先 平田未季 宮本淳 吉原拓也 水谷祐輔</p>	<p>大学院農学研究院教授 広島大学准教授 大学文書館准教授 高等教育推進機構教授 高等教育推進機構准教授 高等教育推進機構准教授 高等教育推進機構教授 高等教育推進機構教授 高等教育推進機構教授 高等教育推進機構教授 高等教育推進機構教授 高等教育推進機構教授 高等教育推進機構教授 高等教育推進機構教授 理事(副学長) 高等教育推進機構教授 高等教育推進機構准教授 大学院教育推進機構教授 大学院教育推進機構教授 総合IR本部准教授</p>
<p>【部長・次長等】 企画調整役 企画調整役(兼)監査室長(兼)監事支援室長 経営企画本部担当部長 総務企画部長 学務部長 学務部次長(兼)学務部教育推進課長 研究推進部長 国際部長 (転出) 旭川医科大学事務局次長(総務・教務担当) 情報・システム研究機構国立極地研究所管理部長 国立高等専門学校機構本部事務局部長(国際担当)</p>	<p>平松亨 對馬秀俊 浅野智裕 小澤嘉磨 木谷慎一 山本透 馬場勝浩 堀尾多香 高橋慶匡 辻山隆 秦絵里</p>	<p>総務企画部長 学術情報部情報企画課長 社会共創部社会連携課長 企画調整役(兼)経営企画本部企画課長 文部科学省高等教育局高等教育企画課課長補佐 学務部学務企画課長 財務部経理課長 文部科学省大臣官房国際課専門官(国連大学サステイナビリティ高等研究所派遣) 学務部長 研究推進部長 国際部長</p>
<p>【課長・事務長・室長等】 経営企画本部企画課長 半導体フロンティア教育研究機構事業支援室長 総務企画部総務課長 総務企画部人事課厚生労務室長 財務部経理課長 学務部学務企画課長 学務部学生支援課長 学務部キャリア支援課長 学務部国際交流課長 施設部施設企画課長 施設部環境配慮促進課長 施設部施設整備課長 国際部国際連携課長 社会共創部社会連携課長 社会共創部産学連携課長 社会共創部広報課長 学術情報部図書館利用支援課長</p>	<p>小守林訓 山内貴敏 野口明広 池端尚宏 小笠原美勝 山口茉優 横澤史彦 鈴木百江 竹下欣吾 松村泰成 菅野直樹 森本智博 土本光一 舘山雅樹 橋場学博 三分一利恵 中山昌也</p>	<p>北海道大学病院経営企画課長 経営企画本部半導体事業推進担当課長 社会共創部広報課長 総務企画部総務課課長補佐 函館キャンパス事務部事務長 文部科学省総合教育政策局参事官(調査企画担当)付参事官補佐(命)教育DX推進室室長補佐 学務部キャリア支援課長 工学系事務部教務課長 学務部学生支援課課長補佐 文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部計画課調査係長(併)安全推進係長 室蘭工業大学施設課長 施設部施設企画課課長補佐 学務部教育推進課長 北方生物圏フィールド科学センター事務長 社会共創部産学連携課課長補佐 社会共創部広報課課長補佐 東京外国語大学総務企画部学術情報課長</p>

<p> 学術情報部情報企画課長 法学研究科・法学部事務長 函館キャンパス事務部事務長 環境科学事務部事務長 医学系事務部総務課長 薬学事務部事務長 工学系事務部総務課長 工学系事務部経理課長 工学系事務部教務課長 獣医学系事務部事務長 北海道大学病院総務課人事労務管理室長 北海道大学病院経営企画課長 北方生物圏フィールド科学センター事務長 (出向) 函館工業高等専門学校総務課長 (転出) 公立学校共済組合本部施設企画課長 室蘭工業大学施設課長 神戸大学図書館情報管理課長 鳥取大学研究推進部図書館情報課長 </p>	<p> 木村美佳 岡村康司 藤瀬智雄 横岡政紀 馬渕奈美 寺下雅子 柴田珠江 藤澤真浩 川崎直 島田大樹 前島朋基 長谷川和彦 長南敏幸 駒井孝博 青山寛之 空橋博幸 横井有紀 千葉浩之 </p>	<p> 医学系事務部総務課長 工学系事務部総務課長 総務企画部人事課厚生労務室長 獣医学系事務部事務長 国際部国際連携課長 工学系事務部総務課課長補佐 監査室室長補佐(兼)監事支援室室長補佐 研究推進部研究振興企画課課長補佐 学務部国際交流課長 財務部主計課課長補佐 総務企画部人事課課長補佐 北海道大学病院新病院デザイン課課長補佐 工学系事務部経理課長 北海道大学病院経営企画課課長補佐 施設部施設企画課長 施設部環境配慮促進課長 学術情報部図書館利用支援課長 室蘭工業大学総務広報課図書館学術情報室長出向中 </p>
<p> 【技術職員等】 子どもの園保育園園長 </p>	<p> 三浦貴子 </p>	<p> 子どもの園保育園主任保育士 </p>

新任部局長等紹介

令和8年4月1日付

法学研究科長・法学部長に

その ひろお
曾野 裕夫 教授



令和8年3月31日限りで佐々木雅寿法学研究科長・法学部長が任期満了となり、その後任として曾野裕夫教授が発令されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和39年11月7日
 昭和62年 3月 北海道大学法学部卒業
 平成 1年 3月 北海道大学大学院法学研究科修士課程修了
 平成 2年12月 Master of Laws, LL.M (ミシガン大学)
 平成 6年 3月 北海道大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学
 平成 5年 4月 日本学術振興会特別研究員
 平成 6年12月 金沢大学法学部助教授
 平成10年 4月 九州大学法学部助教授
 平成16年 4月 北海道大学大学院法学研究科教授
 平成18年10月 法務事務官 (法務省民事局)
 平成18年10月 } 北海道大学客員教授
 平成20年 8月 }
 平成20年 9月 北海道大学大学院法学研究科教授
 令和 4年 4月 } 北海道大学大学院法学研究科副研究科長
 令和 6年 3月 }
 令和 4年 4月 } 北海道大学法科大学院長
 令和 6年 3月 }
 令和 6年12月 } 北海道大学大学院法学研究科副研究科長
 令和 8年 3月 }
 令和 6年12月 } 北海道大学教育研究評議会評議員
 令和 8年 3月 }

水産科学研究院長・水産科学院長・水産学部長に

ふじもり やすずみ
藤森 康澄 教授



令和8年3月31日限りで都木靖彰水産科学研究院長・水産科学院長・水産学部長が任期満了となり、その後任として藤森康澄教授が発令されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和39年10月31日
 昭和62年 3月 東京水産大学水産学部卒業
 昭和63年 3月 東京水産大学水産専攻科修了
 平成 2年 3月 東京水産大学大学院水産学研究科修士課程修了
 平成 6年 3月 東京水産大学大学院水産学研究科博士課程修了
 平成 6年 3月 博士 (水産学) (東京水産大学)
 平成 5年 4月 } 日本学術振興会特別研究員
 平成 6年 6月 }
 平成 6年 7月 北海道大学水産学部助手
 平成12年 4月 北海道大学大学院水産科学研究科助手
 平成17年 4月 北海道大学大学院水産科学研究院助教授
 平成19年 4月 北海道大学大学院水産科学研究院准教授
 平成22年 5月 北海道大学大学院水産科学研究院教授
 平成30年 4月 } 北海道大学大学院水産科学研究院副研究科長
 令和 4年 3月 }
 令和 4年 4月 } 北海道大学教育研究評議会評議員
 令和 8年 3月 }

農学研究科長・農学院長・農学部長に

くぼ ともひこ
久保 友彦 教授



令和8年3月31日限りで野口 伸農学研究科長・農学院長・農学部長が辞任したため、その後任として久保友彦教授が発令されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和41年4月21日
 平成元年 3月 北海道大学農学部卒業
 平成 3年 3月 北海道大学大学院農学研究科修士課程修了
 平成 6年 3月 北海道大学大学院農学研究科博士後期課程修了
 平成 6年 3月 博士 (農学) (北海道大学)
 平成 6年 4月 北海道大学農学部助手
 平成11年 4月 北海道大学大学院農学研究科助手
 平成14年 4月 北海道大学大学院農学研究科講師
 平成18年 4月 北海道大学大学院農学研究科准教授
 平成19年 4月 北海道大学大学院農学研究科教授
 平成27年12月 北海道大学大学院農学研究科教授
 令和 3年 4月 } 北海道大学大学院農学研究科副研究科長
 令和 8年 3月 } 大学院農学院副院長・農学部副学部長
 令和 5年 4月 } 北海道大学教育研究評議会評議員
 令和 8年 3月 }

総合化学院長に

うえの こうせい
上野 貢生 教授



令和8年3月31日限りで忠永清治総合化学院長が任期満了となり、その後任として上野貢生教授が発令されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和49年8月21日
 平成11年 3月 北海道大学理学部卒業
 平成13年 3月 北海道大学大学院理学研究科博士前期課程修了
 平成16年 3月 北海道大学大学院理学研究科博士後期課程修了
 平成16年 3月 博士 (理学) (北海道大学)
 平成16年 4月 } 日本学術振興会特別研究員PD
 平成18年 3月 }
 平成18年 4月 } 北海道大学電子科学研究所助手
 平成19年 3月 }
 平成19年 4月 } 北海道大学電子科学研究所助教
 平成20年 3月 }
 平成20年 4月 } 北海道大学電子科学研究所特任准教授
 平成21年 3月 }
 平成21年 4月 } 電子科学研究所附属ナノテクノロジー研究センター准教授
 平成24年 3月 }
 平成24年 4月 } 電子科学研究所附属グリーンナノテクノロジー研究センター准教授
 平成31年 3月 }
 平成31年 4月 北海道大学大学院理学研究院教授

歯学研究院長・歯学院長・歯学部長に



いむら ただひろ
飯村 忠浩 教授

令和8年3月31日限りで網塚憲生歯学
研究院長・歯学院長・歯学部長が任期
満了となり、その後任として飯村忠浩
教授が発令されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日	昭和39年12月25日
平成 3年 3月	北海道大学歯学部卒業
平成 7年 3月	東京医科歯科大学大学院歯学研究科博士課程修了
平成 7年 3月	博士（歯学）（東京医科歯科大学）
平成 8年 6月	東京医科歯科大学助手
平成14年 8月	ストワーズ医学研究所リサーチアソシエイト
平成16年10月	東京医科歯科大学非常勤講師
平成16年12月	ストワーズ医学研究所シニアリサーチアソシエイト
平成20年 4月	科学技術振興機構ERATO官脳生命時空間情報プロジェクト研究員
平成21年 1月	東京医科歯科大学 GCOE特任准教授
平成25年 4月	愛媛大学プロテオサイエンスセンター准教授
平成27年 1月	愛媛大学プロテオサイエンスセンター教授
平成27年 4月	愛媛大学学術支援センター教授
平成28年 4月	愛媛大学大学院医学系研究科教授
平成31年 3月	北海道大学大学院歯学研究科教授

文学研究院長・文学院長・文学部長に



たにもと あきひさ
谷本 晃久 教授

令和8年3月31日限りで川端康弘文学
研究院長・文学院長・文学部長が任期
満了となり、その後任として谷本晃久
教授が発令されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日	昭和45年1月15日
平成 5年 3月	学習院大学文学部卒業
平成 8年 3月	学習院大学大学院人文科学研究科博士前期課程修了
平成10年 3月	学習院大学大学院人文科学研究科博士後期課程中途退学
平成10年 4月	学習院大学文学部助手
平成12年 4月	北海道教育大学教育学部岩見沢校助教
平成19年 4月	北海道教育大学教育学部札幌校准教授
平成20年 4月	北海道大学大学院文学研究科准教授
平成30年 4月	北海道大学大学院文学研究科教授
平成31年 4月	北海道大学大学院文学研究院教授
令和 3年11月	博士（史学）（学習院大学）
令和 5年 4月	北海道大学総長補佐
令和 8年 3月	
令和 6年 4月	北海道大学大学院文学研究院副研究院長
令和 8年 3月	

低温科学研究所長に



やまぐち よしふみ
山口 良文 教授

令和8年3月31日限りで渡部直樹低温
科学研究所長が任期満了となり、その
後任として山口良文教授が発令されま
した。

任期は、令和10年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日	昭和50年10月9日
平成11年 3月	京都大学理学部卒業
平成13年 3月	京都大学大学院生命科学系研究科修士課程修了
平成17年 3月	京都大学大学院生命科学系研究科博士課程修了
平成17年 3月	博士（生命科学）（京都大学）
平成17年 4月	自然科学研究機構岡崎統合バイオサイエンスセンター研究員
平成18年 9月	東京大学大学院薬学系研究科助手
平成19年 4月	東京大学大学院薬学系研究科助教
平成24年10月	科学技術振興機構さきがけ研究員
平成28年 5月	東京大学大学院薬学系研究科准教授
平成30年 1月	北海道大学低温科学研究所教授
令和 4年 4月	北海道大学低温科学研究所副所長
令和 8年 3月	

遺伝子病制御研究所長に



もてぎ ふみお
茂木 文夫 教授

令和8年3月31日限りで村上正晃遺伝
子病制御研究所長が任期満了となり、
その後任として茂木文夫教授が発令さ
れました。

任期は、令和10年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日	昭和49年9月17日
平成 9年 3月	東京理科大学理学部化学科卒業
平成14年 3月	東京大学総合文化研究科生命環境科学専攻博士後期課程修了
平成14年 3月	博士（学術）（東京大学）
平成14年 4月	理化学研究所基礎科学特別研究員
平成16年 4月	理化学研究所発生再生科学総合研究センター博士研究員
平成18年 8月	カリフォルニア大学サンディエゴ校博士研究員
平成19年 8月	ジョンズホプキンス大学医学部博士研究員
平成24年 8月	シンガポールテマセク生命科学研究所主幹主任研究員
平成24年 8月	国立シンガポール大学メカノバイオロジー研究所主任研究員
平成24年 8月	国立シンガポール大学理学部生物学科准教授
平成27年 8月	国立シンガポール大学統合科学研究院准教授
令和 4年 1月	北海道大学遺伝子病制御研究所教授

触媒科学研究所長に



うらぐち だいすけ
浦口 大輔 教授

令和8年3月31日限りで清水研一触媒科学研究所長が任期満了となり、その後任として浦口大輔教授が発令されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日	昭和49年11月22日
平成 9年 3月	北海道大学理学部卒業
平成11年 3月	北海道大学大学院理学研究科博士前期課程修了
平成14年 3月	北海道大学大学院理学研究科博士後期課程修了
平成14年 3月	博士（理学）（北海道大学）
平成14年 4月	日本学術振興会特別研究員
平成16年10月	財団法人相模中央化学研究所研究員
平成18年 5月	名古屋大学大学院工学研究科助手
平成19年 4月	名古屋大学大学院工学研究科助教
平成20年 1月	名古屋大学大学院工学研究科講師
平成23年10月	名古屋大学大学院工学研究科准教授
令和 2年11月	北海道大学触媒科学研究所教授
令和 4年 4月	北海道大学触媒科学研究所副所長
令和 8年 3月	

スラブ・ユーラシア研究センター長に



あおしま ようこ
青島 陽子 教授

令和8年3月31日限りで長縄宣博スラブ・ユーラシア研究センター長が任期満了となり、その後任として青島陽子教授が発令されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日	昭和48年9月8日
平成 9年 3月	東京大学文学部卒業
平成19年 3月	東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位修得退学
平成22年 5月	博士（文学）（東京大学）
平成23年 4月	愛知大学文学部助教
平成25年 4月	神戸大学大学院国際文化学術研究科講師
平成28年 9月	神戸大学大学院国際文化学術研究科准教授
令和 2年10月	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター准教授
令和 6年 4月	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授

北方生物圏フィールド科学センター長に



ほしの よういちろう
星野 洋一郎 教授

令和8年3月31日限りで宮下和士北方生物圏フィールド科学センター長が任期満了となり、その後任として星野洋一郎教授が発令されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

略 歴

平成 5年 3月	千葉大学園芸学部卒業
平成 7年 3月	千葉大学大学院園芸学研究科修士課程修了
平成10年 3月	千葉大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了
平成10年 3月	博士（学術）（千葉大学）
平成10年 4月	北海道大学農学部附属農場助手
平成13年 4月	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター助手
平成19年 4月	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター助教
平成24年 4月	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター准教授
令和 2年 4月	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授

社会科学実験研究センター長に



たかはし のぶゆき
高橋 伸幸 教授

令和8年3月31日限りで大沼 進社会科学実験研究センター長が任期満了となり、その後任として高橋伸幸教授が発令されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日	昭和45年1月7日
平成 4年 3月	北海道大学文学部卒業
平成 6年 3月	北海道大学大学院文学研究科修士課程修了
平成12年12月	アリゾナ大学大学院社会学部終了
平成13年 8月	Ph.D（アリゾナ大学）
平成13年 1月	北海道大学大学院文学研究科助教
平成19年 4月	北海道大学大学院文学研究科准教授
平成31年 4月	北海道大学大学院文学研究院教授

脳科学研究教育センター長に



おがわ ひろと
小川 宏人 教授

令和8年3月31日限りで南 雅文脳科学研究教育センター長が任期満了となり、その後任として小川宏人教授が発令されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和40年3月3日
 昭和62年 3月 岡山大学理学部卒業
 平成 4年 3月 岡山大学大学院自然科学研究科博士課程修了
 平成 4年 3月 博士（理学）（岡山大学）
 平成 4年 4月 } 民間（株式会社富士通研究所）
 平成 7年 1月 }
 平成 7年 2月 } 科学技術振興事業団プロジェクト研究員
 平成 9年 9月 }
 平成 9年10月 } 埼玉医科大学医学部講師
 平成20年 9月 }
 平成14年 4月 } 米国モンタナ州立大学Visiting Research Assistant Professor
 平成15年 3月 }
 平成20年10月 北海道大学大学院理学研究院准教授
 平成21年 4月 } JSTさきがけ「脳情報の解読と制御」研究者（兼任）
 平成25年 3月 }
 平成28年 4月 北海道大学大学院理学研究院教授
 令和 2年10月 北海道大学大学院理学研究院附属ゲノムダイナミクス研究センター長

総合博物館長に



やまうち たろう
山内 太郎 教授

令和8年3月31日限りで坪田敏男総合博物館長が任期満了となり、その後任として山内太郎教授が発令されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和43年5月14日
 平成 5年 3月 東京大学医学部卒業
 平成 7年 3月 東京大学大学院医学系研究科修士課程修了
 平成10年 3月 東京大学大学院医学系研究科博士課程修了
 平成10年 3月 博士（保健学）（東京大学）
 平成11年 4月 オーストラリア国立大学訪問研究員
 平成12年 4月 東京大学大学院医学系研究科リサーチフェロー
 平成14年 4月 東京大学大学院医学系研究科助手
 平成19年 4月 北海道大学医学部准教授
 平成20年 4月 北海道大学大学院保健科学研究院准教授
 平成25年 4月 北海道大学大学院保健科学研究院教授
 令和 4年 4月 環境健康科学研究教育センター長
 令和 6年 4月 } 北海道大学総長補佐
 令和 8年 3月 }

部局長等（再任）紹介

令和8年4月1日付

教育学研究院長・教育学院長・教育学部長に

辻 智子 教授

辻 智子教授は、令和6年4月1日から教育学研究院長・教育学院長・教育学部長を務め、令和8年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

情報科学研究院長・情報科学院長に

近野 敦 教授

近野 敦教授は、令和6年4月1日から情報科学研究院長・情報科学院長を務め、令和8年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

アイヌ・先住民研究センター長に

山崎 幸治 教授

山崎幸治教授は、令和6年4月1日からアイヌ・先住民研究センター長を務め、令和8年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

広域複合災害研究センター長に

佐々木 貴信 教授

佐々木貴信教授は、令和6年4月1日から広域複合災害研究センター長を務め、令和8年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

経済学研究院長・経済学院長・経済学部長に

久保 淳司 教授

久保淳司教授は、令和6年4月1日から経済学研究院長・経済学院長・経済学部長を務め、令和8年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

量子集積エレクトロニクス研究センター長に

本久 順一 教授

本久順一教授は、令和2年4月1日から量子集積エレクトロニクス研究センター長を務め、令和8年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

環境健康科学研究教育センター長に

山内 太郎 教授

山内太郎教授は、令和4年4月1日から環境健康科学研究教育センター長を務め、令和8年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

新任部課長等紹介

令和8年4月1日付



企画調整役（兼）監査室長（兼）
監事支援室長に

つしま ひでとし
對馬 秀俊 氏

昭和43年 5月生
昭和62年 4月 北海道大学
平成17年 4月 小樽商科大学財務課係長
平成19年 4月 北海道大学財務部調達課係長
平成22年 4月 北海道大学病院経営企画課係長
平成24年 7月 北海道大学財務部経理課係長
平成25年 7月 北海道大学財務部調達課係長
平成27年 7月 北海道教育大学財務課副課長
平成29年 7月 北海道大学財務部資産運用管理課課長補佐
令和 2年 4月 北海道大学経済学事務部事務長
令和 4年 4月 北海道大学総務企画部情報企画課長
令和 7年 4月 北海道大学学術情報部情報企画課長



経営企画本部担当部長に

あさの ともひろ
浅野 智裕 氏

昭和42年 4月 6日生
昭和61年 4月 国立大雪青年の家
平成 7年 4月 北海道大学
平成18年 1月 北海道大学財務部経理課財務管理室財務管理係長
平成18年 4月 北海道大学財務部主計課財務管理室財務管理係長
平成19年 4月 北海道大学財務部主計課係長（財務法規担当）
平成20年 4月 北海道大学財務部主計課係長（財務企画担当）
平成22年 4月 北海道大学理学・生命科学事務部事務課係長（会計担当）
平成23年 7月 北海道大学財務部主計課係長（総務担当）
平成24年 4月 北海道大学財務部主計課専門員
平成25年 7月 北海道教育大学財務部経理課副課長
平成26年 4月 北海道教育大学財務部財務課副課長
平成27年 7月 北海道大学財務部調達課課長補佐
平成29年 4月 北海道大学財務部主計課課長補佐
平成30年 4月 北海道大学財務部資産運用管理課長
令和 4年 4月 北海道大学社会共創部産学連携課長
令和 6年 4月 北海道大学社会共創部社会連携課長



総務企画部長に

おがわ よしまろ
小澤 嘉磨 氏

平成 4年 4月 北海道大学
平成16年 4月 北海道大学総務部人事課専門職員
平成16年 7月 北海道大学総務部総務課専門職員
平成17年 4月 北海道大学総務部総務課法規係長
平成19年 4月 北海道大学総務部総務課係長
平成23年 4月 北海道大学総務企画部総務課係長
平成24年 4月 北海道大学総務企画部総務課専門員
平成25年 4月 北海道教育大学総務部総務課副課長
平成25年10月 北海道大学研究推進部外部資金戦略課課長補佐
平成27年 4月 北海道大学研究推進部研究振興企画課課長補佐
平成28年 4月 北海道大学総務企画部人事課課長補佐
平成30年 4月 北海道大学総務企画部人事課厚生労務室長
令和 3年 4月 北海道大学医学系事務部総務課長
令和 5年 5月 北海道大学総務企画部企画課長
令和 6年10月 北海道大学経営企画本部企画課長
令和 7年 4月 北海道大学企画調整役（兼）経営企画本部企画課長



学務部長に

きや しんいち
木谷 慎一 氏

昭和52年 7月生
平成13年10月 東京大学
平成18年 4月 文部科学省高等局国立大学法人支援課
平成20年 4月 大学評価・学位授与機構企画監査課企画係長
平成21年 4月 大学評価・学位授与機構管理部会計課総務係長
平成23年 4月 文部科学省高等局大学振興課教員養成企画室教育大学係長
平成25年 4月 文部科学省高等局学生・留学生課留学生交流室国費留学生係長
平成27年 4月 文部科学省高等局学生・留学生課外国留学係長（併）私費留学生係長
平成29年 4月 独立行政法人日本学生支援機構グローバル人材育成本部
グローバル人材育成部民間資金課長
平成30年 4月 東京海洋大学国際・教学支援課長
令和 2年 4月 文部科学省高等局高等局専門教育課補佐
令和 5年 4月 文部科学省高等局高等局学生支援課補佐（併）育英奨学専門官
令和 7年 4月 文部科学省高等局高等局高等教育企画課補佐



学務部次長（兼）学務部教育推進課長に

やまもと とおる
山本 透 氏

- 昭和43年 4月生
- 平成 5年10月 北海道大学医学部附属病院
- 平成 9年 4月 北海道大学法学部
- 平成12年 4月 北海道大学法学研究科・法学部
- 平成13年 4月 北海道大学医療技術短期大学部
- 平成14年 4月 北海道大学医療技術短期大学部学務掛主任
- 平成15年 4月 北海道大学医学研究科・医学部教務掛主任
- 平成18年 4月 北海道大学医学事務部事務課教務第一係主任
- 平成19年 4月 北海道大学医学事務部総務課主任
- 平成20年 4月 北海道大学医学事務部総務課係長
- 平成22年 4月 北海道大学学務部教務課係長
- 平成24年 4月 北海道大学学務部教務課全学教育・総合教育推進係長
- 平成25年 4月 北海道大学学務部教務課専門員
- 平成26年 4月 北海道大学医学系事務部総務課課長補佐
- 平成29年 4月 北海道大学学務部学務企画課課長補佐
- 令和 2年 4月 北海道大学教育学事務部事務長
- 令和 4年 4月 北海道大学学務部入試課長
- 令和 7年 4月 北海道大学学務部学務企画課長



研究推進部長に

ばば まさひろ
馬場 勝浩 氏

- 昭和43年11月生
- 昭和62年 4月 北海道大学
- 平成17年 4月 旭川工業高等専門学校会計課出納係長
- 平成19年 4月 旭川工業高等専門学校総務課財務係長
- 平成20年 4月 北海道大学財務部主計課係長
- 平成23年 7月 北海道大学理学・生命科学事務部事務課係長
- 平成25年 7月 北海道大学財務部主計課専門員
- 平成26年 7月 北海道大学財務部資産運用管理課課長補佐
- 平成29年 7月 北海道大学財務部調達課課長補佐
- 令和 2年 4月 北海道大学政策調整室室長代理
- 令和 2年10月 北海道大学メディア・観光学事務部事務長
- 令和 5年 4月 北海道大学財務部調達課長
- 令和 7年 4月 北海道大学財務部経理課長



国際部長に

ほりお たか
堀尾 多香 氏

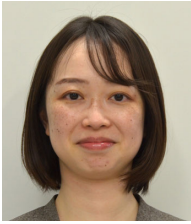
- 平成 6年 3月 神戸市立外国語大学卒業
- 平成 6年 4月 名古屋大学総務部人事課
- 平成 7年 4月 名古屋大学総務部人事課（文部省学術国際局国際企画課国際機関係併任）
- 平成 8年 4月 （併任 米国長期出張メリーランド大学にて国際実務研修プログラム）
- 平成 9年 4月 名古屋大学総務部国際交流課
- 平成12年 4月 文部省学術国際局国際企画課教育文化交流室
- 平成13年 1月 文部科学省大臣官房国際課国際交流政策室
- 平成16年 4月 文部科学省大臣官房国際課国際機関第一係長
- 平成17年 4月 国連教育科学文化機関（UNESCO）本部外部資金協力局信託基金課
- 平成20年 7月 文部科学省国際統括官付ユネスコ第一係長
- 平成21年 4月 文部科学省国際統括官付専門官（併）ユネスコ第一係長
- 平成22年 4月 名古屋大学国際部国際企画課長
- 平成24年 4月 文部科学省国際統括官付ユネスコ協力官
- 平成26年 4月 文化庁長官官房国際課海賊版対策専門官
- 平成28年 9月 文部科学省高等教育局高等教育企画課国際企画室長補佐（併）国際企画専門官
- 平成30年 4月 文部科学省大臣官房国際課課長補佐
- 令和 2年 4月 文部科学省国際統括官付国際統括官補佐
- 令和 5年 6月 国連大学サステイナビリティ高等研究所大学院プログラム事務局長



総務企画部人事課厚生労務室長に

いけはた なおひろ
池端 尚宏 氏

- 昭和51年10月生
- 平成11年 4月 北海道大学
- 平成11年 4月 国立日高少年自然の家
- 平成14年 4月 北海道大学
- 平成25年 4月 小樽商科大学総務課人事係長
- 平成27年 4月 北海道大学獣医学研究科・獣医学部係長（庶務担当）
- 平成30年 4月 北海道大学総務企画部人事課係長（給与総括担当）
- 令和 3年 4月 北海道大学総務企画部総務課係長（総務担当）
- 令和 4年 4月 北海道大学総務企画部総務課専門員
- 令和 5年 4月 北海道大学総務企画部人事課課長補佐
- 令和 7年 4月 北海道大学総務企画部総務課課長補佐



学務部学務企画課長に

やまぐち まゆ
山口 茉優 氏

- 平成 4年 6月生
- 平成27年 3月 東京大学卒業
- 平成27年 4月 文部科学省初等中等教育局児童生徒課
- 平成27年 8月 文部科学省生涯学習政策局政策課
- 平成29年 4月 文部科学省研究開発局地震・防災研究課企画調整係長
- 平成31年 4月 文部科学省初等中等教育局教科書課企画係長
(併) デジタル教科書企画係長
- 令和 3年 4月 文部科学省初等中等教育局教科書課企画係長
- 令和 3年 7月 文化庁著作権課国際著作権室専門職
- 令和 3年10月 文化庁著作権課企画審議係長
- 令和 5年 4月 文化庁著作権課専門官(併)企画審議係長
- 令和 5年10月 文部科学省初等中等教育局修学支援・教材課補佐
- 令和 6年 4月 文部科学省初等中等教育局参事官付参事官補佐
(命) 高校修学支援室補佐
- 令和 7年 4月 文部科学省総合教育政策局参事官 (調査企画担当) 付
参事官補佐 (命) 教育DX推進室補佐
- 令和 7年10月 文部科学省初等中等教育局学校情報基盤・教材課
課長補佐 (命) 教育DX推進室補佐



国際交流課長に

たけした きんご
竹下 欣吾 氏

- 昭和46年生
- 平成13年 4月 北海道大学
- 平成17年10月 放送大学学園教務部教務課教育課程編成係長
- 平成19年11月 放送大学学園教務部教務課 (兼) 面接授業係長
- 平成20年 5月 放送大学学園教務部教務課教育課程編成係長
- 平成20年10月 北海道大学学務部入試課係長
- 平成25年 4月 北海道大学学生支援課係長
- 平成28年 4月 北海道大学理学・生命科学事務部事務課係長
- 平成30年 4月 小樽商科大学教務課課長補佐代理 (兼) 入試室長
- 令和 3年 3月 北海道大学学務部学生支援課課長補佐



施設部施設企画課長に

まつむら やすなり
松村 泰成 氏

- 昭和54年 8月12日生
- 平成14年 3月 電気通信大学電気通信学部卒業
- 平成17年 4月 北海道大学
- 平成17年 4月 函館高等専門学校
- 平成22年 4月 北海道大学
- 平成22年12月 官房文教施設企画部参事官付
- 平成24年 4月 独立行政法人国立大学財務・経営センター施設助成課
- 平成27年 4月 官房文教施設企画部計画課管理調整係長
- 平成27年11月 独立行政法人日本スポーツ振興センター
新国立競技場設置本部施設部設備課
- 令和 2年 4月 官房文教施設企画・防災部施設企画課環境施設企画係長
- 令和 3年 4月 官房文教施設企画・防災部施設企画課参事官付専門職
- 令和 5年 4月 官房文教施設企画・防災部施設助成課振興地域係長
- 令和 7年 4月 官房文教施設企画・防災部計画課調査係長 (併) 安全推進係長



施設部環境配慮促進課長に

かんの なおき
菅野 直樹 氏

- 昭和48年 5月16日生
- 平成 4年 3月 北海道旭川実業高等学校卒業
- 平成 4年 4月 釧路工業高等専門学校
- 平成16年 4月 宮城工業高等専門学校
- 平成19年 4月 宮城地区事務部施設課電気係長
- 平成21年 4月 仙台高等専門学校施設課電気係長
- 平成22年12月 北海道教育大学事務局財務部施設課専門職
- 平成30年 4月 北海道大学施設部施設整備課係長
- 平成31年 4月 北海道大学施設部施設整備課長補佐
- 令和 2年 4月 北海道教育大学事務局財務部施設課副課長
- 令和 6年 4月 室蘭工業大学施設課長



施設部施設整備課長に

もりもと ともひろ
森本 智博 氏

昭和46年11月生
平成 8年 3月 北海道大学大学院工学研究科修了
平成21年 4月 北海道大学
平成24年 2月 施設部環境配慮促進課係長
平成27年 4月 施設部施設整備課係長
平成30年 4月 施設部施設企画課係長
令和 2年 4月 施設部施設整備課課長補佐（兼）施設部施設企画課係長
令和 3年 4月 施設部施設企画課課長補佐、施設部施設企画課係長（免）



社会共創部産学連携課長に

はしば たかひろ
橋場 学博 氏

昭和48年 4月生
平成 7年 4月 北海道大学
平成 9年10月 国立日高少年自然の家
平成12年 4月 北海道大学
平成21年 4月 小樽商科大学財務課予算係長
平成23年 4月 北海道大学病院管理課係長
平成26年 4月 北海道大学財務部主計課係長
平成30年 4月 北海道大学病院経営企画課課長補佐
令和 5年 4月 北海道大学社会共創部産学連携課課長補佐



社会共創部広報課長に

さんぶいち りえ
三分一 利恵 氏

昭和45年 4月生
平成 5年10月 北海道大学
平成20年 4月 北海道大学総務部広報課係長
平成22年 4月 北海道大学学務部入試課係長
平成25年 4月 北海道大学総務企画部総務課係長
平成28年 4月 北海道大学工学系事務部総務課係長
平成30年 4月 北海道大学総務企画部企画課係長
令和 2年 4月 放送大学学園北海道学習センター事務長
令和 5年 4月 北海道大学社会共創部広報課課長補佐



学術情報部図書館利用支援課長に

なかやま まさや
中山 昌也 氏

昭和51年 8月生
平成15年 3月 千葉大学大学院文学研究科修了
平成16年 9月 東京大学附属図書館情報サービス課
平成21年 4月 東京大学大学院農学生命科学研究科・農学部総務課（図書チーム）
平成23年 4月 東京大学附属図書館総務課企画渉外係主任（文部科学省行政実務研修生）
平成24年 4月 東京大学法学政治学研究科等雑誌受入係主任
平成27年 4月 東京大学附属図書館柏地区図書課情報サービス係長
平成29年 4月 横浜国立大学図書館・情報部図書館情報課情報サービス係長（兼）専門職員
平成31年 4月 東京大学附属図書館情報管理課選書受入係長
令和 3年 4月 東京大学附属図書館情報管理課係長（情報管理チーム）（資料契約担当）
令和 5年 4月 東京外国語大学総務企画部学術情報課長



薬学事務部事務長に
てらした まさこ
寺下 雅子 氏

昭和48年 8月生
平成 8年 3月 北海道大学経済学部卒業
平成 8年 4月 北海道大学
平成26年 4月 北海道大学工学系事務部総務課係長
平成29年 4月 北海道大学法学研究科・法学部係長
令和 2年 4月 北海道大学医学系事務部総務課係長
令和 4年 4月 北海道大学医学系事務部総務課課長補佐
令和 6年 4月 北海道大学工学系事務部総務課課長補佐



工学系事務部総務課長に
しばた たまえ
柴田 珠江 氏

昭和46年12月生
平成 6年 3月 北海学園大学経済学部卒業
平成 6年 4月 北海道大学
平成22年 7月 北海道大学学術部産学連携・研究推進課係長
平成23年 4月 北海道大学研究推進部産学連携課係長
平成25年 4月 北海道大学研究推進部研究振興企画課係長
平成25年10月 北海道大学研究推進部外部資金戦略課係長
平成27年 4月 北海道大学研究推進部研究振興企画課係長
平成29年 4月 北海道大学政策調整室専門員
平成30年 4月 放送大学学園
令和 2年 4月 北海道大学学務部学務企画課課長補佐
令和 5年 4月 北海道大学総務企画部総務課課長補佐
令和 7年 4月 北海道大学監査室室長補佐（兼）監事支援室室長補佐



工学系事務部経理課長に
ふじさわ まさひろ
藤澤 真浩 氏

昭和48年 8月 4日生
平成 8年10月 北海道大学
平成 8年11月 国立日高少年自然の家
平成11年10月 北海道大学
平成19年 4月 北海道大学函館キャンパス事務部係長
平成22年 4月 北海道大学財務部主計課財務管理室係長
平成23年 4月 北海道大学財務部資産運用管理課係長
平成25年 7月 北海道大学財務部調達課係長
平成28年 7月 北海道大学獣医学研究科・獣医学部係長
平成29年 4月 北海道大学獣医学系事務部係長
令和 2年10月 北海道大学工学系事務部経理課課長補佐
令和 4年10月 北海道大学研究推進部研究振興企画課課長補佐



獣医学系事務長に
しまだ たいき
島田 大樹 氏

昭和48年 6月18日生
平成 8年 4月 北海道大学
平成21年 4月 小樽商科大学財務課契約係長
平成23年 4月 小樽商科大学財務課総務係長
平成23年 7月 北海道大学病院経営企画課係長
平成27年 7月 北海道大学研究推進部研究振興企画課係長
平成30年 7月 北海道大学理学・生命科学事務部事務課係長
令和 3年 4月 北海道大学財務部調達課係長
令和 4年 4月 北海道大学財務部調達課課長補佐
令和 7年 4月 北海道大学財務部主計課課長補佐



北海道大学病院経営企画課長に

は せ が わ か ず ひ こ
長谷川 和彦 氏

昭和47年 5月生
平成 7年10月 北海道大学
平成19年 4月 旭川医科大学総務部会計課契約第二係長
平成21年 4月 北海道大学財務部調達課係長
平成24年 4月 北海道大学病院管理課係長
平成27年 4月 北海道大学財務部資産運用管理課係長
平成30年 4月 北海道大学病院経営企画課課長補佐
令和 2年 4月 北海道大学総務企画部企画課課長補佐
令和 5年 4月 北海道大学病院総務課課長補佐
令和 6年 4月 北海道大学病院新病院デザイン課課長補佐



北海道大学病院総務課人事労務管理室長に

ま え し ま と も き
前島 朋基 氏

昭和49年 5月生
平成 9年 3月 北海学園大学経済学部卒業
平成10年 1月 北海道大学
平成10年 4月 国立大雪青年の家
平成12年10月 北海道大学
平成21年 4月 室蘭工業大学総務課人事係長
平成23年 4月 北海道大学理学・生命科学事務部事務課係長
平成26年 4月 北海道大学総務企画部人事課係長
令和 2年 4月 北海道大学総務企画部総務課専門員
令和 3年 4月 北海道大学総務企画部人事課課長補佐



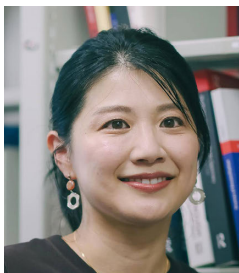
北海道大学病院医療技術部長に

お お た み の る
太田 稔 氏

昭和49年 7月 2日生
平成 8年 3月 札幌医療科学専門学校専門課程臨床工学技士科卒業
平成 8年 4月 JA北海道厚生連札幌厚生病院
平成12年 8月 株式会社ムトゥ
平成13年 4月 北海道大学医学部附属病院臓器移植医療部
平成15年10月 北海道大学医学部・歯学部附属病院診療支援部
平成18年 3月 北海学園大学法学部法律学科卒業
平成18年 8月 北海道大学病院診療支援部理工部門主任臨床工学技士
平成22年 3月 北海道大学大学院医学研究科医科学専攻修士課程修了
平成26年 4月 北海道大学病院診療支援部理工部門副臨床工学技士長
平成28年 4月 北海道大学病院医療技術部ME機器管理部門技師長・ME機器管理センター副部長
令和 7年 4月 北海道大学病院ME機器管理センター部長

新任教授紹介

令和8年4月1日付



法学研究科教授に

こはま しょうこ 氏
小浜 様子 氏

法学政治学専攻政治学講座

最終学歴

米国ヴァージニア大学大学院政治学部博士課程修了（平成26年12月）
博士（国際関係論）（米国ヴァージニア大学）

専門分野

国際政治、アメリカ政治



法学教授に

ふじさわ なおえ 氏
藤澤 尚江 氏

法学政治学専攻現代法講座

最終学歴

大阪大学大学院法学研究科博士後期課程修了
博士（法学）（大阪大学）

専門分野

国際私法



地球環境科学研究院教授に

ほり ちあき 氏
堀 千明 氏

環境生物科学部門
環境分子生物学分野

最終学歴

東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了（平成24年3月）
博士（農学）（東京大学）

専門分野

固体化学、材料化学、結晶学



農学研究院教授に

あいざき ひでお 氏
合崎 英男 氏

基盤研究部門農業経済学分野

生年月日

昭和47年2月

最終学歴

北海道大学大学院農学研究科博士後期課程修了（平成12年3月）
博士（農学）（北海道大学）

専門分野

農業経済学



農学研究院教授に

こいで ようへい 氏
小出 陽平 氏

基盤研究部門応用生命科学分野

生年月日

昭和53年12月28日

最終学歴

北海道大学大学院農学研究科博士後期課程修了（平成20年3月）
博士（農学）（北海道大学）

専門分野

植物遺伝育種学



農学研究院教授に

いじやま ゆたか 氏
実山 豊 氏

基盤研究部門生物資源科学分野

生年月日

昭和46年12月24日

最終学歴

北海道大学大学院農学研究科博士後期課程修了（平成11年9月）
博士（農学）（北海道大学）

専門分野

園芸学



農学研究院教授に

はやし たかし
林 岳 氏

基盤研究部門農業経済学分野

生年月日

昭和48年10月26日

最終学歴

北海道大学大学院農学研究科博士後期課程修了（平成13年3月）
博士（農学）（北海道大学）

専門分野

農業経済学、環境経済学、農業環境政策



農学研究院教授に

ひら とおる
比良 徹 氏

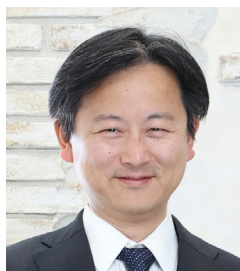
基盤研究部門生物機能化学分野

最終学歴

北海道大学大学院農学研究科博士後期課程修了（平成11年9月）
博士（農学）（北海道大学）

専門分野

栄養生理学、食品機能学



農学研究院教授に

ふくだ しんじ
福田 信二 氏

基盤研究部門生物環境工学分野

生年月日

昭和53年11月10日

最終学歴

九州大学大学院生物資源環境科学府博士後期課程修了（平成18年1月）
博士（農学）（九州大学）

専門分野

生態水理学、エコインフォマティクス、農業水理学



メディア・コミュニケーション研究院教授に

ほり しんや
堀 晋也 氏

メディア・コミュニケーション部門
多元文化教育論分野

生年月日

昭和53年7月21日

最終学歴

京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程修了（平成24年3月）
博士（人間・環境学）（京都大学）

専門分野

言語教育学



工学研究院教授に

あだち つよし
安達 毅 氏

環境循環システム部門
資源循環工学分野

生年月日

昭和44年6月11日

最終学歴

京都大学大学院工学研究科修士課程修了（平成6年3月）
博士（工学）（東京大学）

専門分野

資源経済学、資源システム工学、ファイナンス、
資源生産の環境影響評価



工学研究院教授に

いその たくや
磯野 拓也 氏

応用化学部門分子機能化学分野

生年月日

昭和63年2月10日

最終学歴

北海道大学大学院総合化学院博士後期課程修了（平成26年3月）
博士（工学）（北海道大学）

専門分野

高分子化学



工学研究院教授に

おがさわら やすし 氏
小笠原 泰志 氏

応用化学部門生物工学分野

生年月日

昭和52年6月26日

最終学歴

東京工業大学大学院理工学研究科博士後期課程修了（平成17年9月）
博士（理学）（東京工業大学）

専門分野

天然物化学



工学研究院教授に

おぶせ ひであき 氏
小布施 秀明 氏

応用物理学部門
固体量子物理工学分野

生年月日

昭和52年5月2日

最終学歴

北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了（平成17年3月）
博士（工学）（北海道大学）

専門分野

物性理論、トポロジカル相、開放量子系、
不規則系、量子ウォーク



工学研究院教授に

くぼた こうじ 氏
久保田 浩司 氏

応用化学部門有機工業化学分野

生年月日

平成元年4月2日

最終学歴

北海道大学大学院総合化学院博士後期課程修了（平成28年3月）
博士（工学）（北海道大学）

専門分野

有機合成化学、有機金属化学、分子触媒化学



工学研究院教授に

こばやし かずみち 氏
小林 一道 氏

機械・宇宙航空工学部門
熱流体システム分野

生年月日

昭和53年7月24日

最終学歴

北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了（平成19年3月）
博士（工学）（北海道大学）

専門分野

流体工学、分子流体力学



工学研究院教授に

たかはし こうすけ 氏
高橋 航圭 氏

機械・宇宙航空工学部門
機械材料システム分野

生年月日

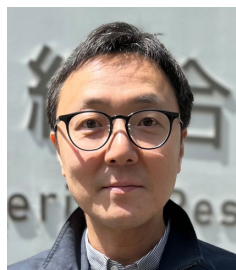
昭和57年7月30日

最終学歴

カリフォルニア大学ロサンゼルス校博士課程修了（平成23年6月）
Ph.D.（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）

専門分野

材料強度学、複合材料工学、粘接着界面



工学研究院教授に

ほんだ しんや 氏
本田 真也 氏

機械・宇宙航空工学部門
機械材料システム分野

生年月日

昭和56年4月3日

最終学歴

北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了（平成21年3月）
博士（工学）（北海道大学）

専門分野

振動工学、最適設計工学、複合材料工学



工学研究院教授に

まえき まさとし
真栄城 正寿 氏

応用化学部門分子機能化学分野

生年月日

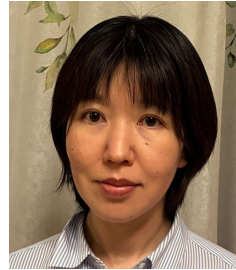
昭和59年5月16日

最終学歴

九州大学大学院総合理工学府博士後期課程修了（平成26年3月）
博士（工学）（九州大学）

専門分野

マイクロ化学、分析化学



経済学研究院教授に

さいとう なお
斉藤 尚 氏

現代経済経営部門
社会経済・歴史分析分野

最終学歴

早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程修了（平成25年2月）
博士（政治学）（早稲田大学）

専門分野

経済哲学



経済学研究院教授に

はやかわ ひとし
早川 仁 氏

現代経済経営部門経済政策分野

最終学歴

東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学（平成25年3月）
博士（経済学）（東京大学）

専門分野

金融経済学



医学研究院教授に

さいとう よりふみ
佐藤 賢文 氏

微生物学免疫学分野

最終学歴

京都大学大学院医学研究科博士課程修了（平成17年3月）
医学博士（京都大学）

専門分野

ウイルス学・感染症内科学



医学研究院教授に

まえだ たく
前田 拓 氏

機能再生医学分野

生年月日

昭和53年11月5日

最終学歴

北海道大学大学院医学研究院博士課程修了（平成30年3月）
博士（医学）（北海道大学）

専門分野

形成外科



医学研究院教授に

やまさき みわこ
山崎 美和子 氏

解剖学分野

最終学歴

金沢大学大学院医学系研究科博士課程修了（平成18年3月）
医学博士（金沢大学）

専門分野

解剖学、神経科学（神経解剖学、神経生理学）



歯学研究院教授に

なかむら こういち
中村 光一 氏

口腔機能学分野

生年月日

昭和55年12月10日

最終学歴

北海道大学大学院歯学研究科博士課程修了（平成22年3月）
博士（歯学）（北海道大学）

専門分野

小児歯科・障害者歯科



獣医学研究院教授に

しもづる みちと
下鶴 倫人 氏

環境獣医科学分野
野生動物学教室

生年月日

昭和54年10月21日

最終学歴

東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了（平成20年3月）
博士（獣医学）（東京大学）

専門分野

野生動物学



文学研究院教授に

いむら のぶたか
今村 信隆 氏

人文学部門文化多様性論分野

生年月日

昭和52年

最終学歴

北海道大学大学院文学研究科博士課程単位修得退学（平成23年3月）
博士（文学）（北海道大学）

専門分野

美学、芸術学（特に美術批評史、美術館史）



文学研究院教授に

おくの まりこ
奥野 満里子 氏

人文学部門哲学宗教学分野

生年月日

昭和45年10月26日

最終学歴

京都大学大学院文学研究科博士後期課程修了（平成10年9月）
博士（文学）（京都大学）

専門分野

倫理学



文学研究院教授に

つた きよき
蔦 清行 氏

人文学部門言語科学分野

生年月日

昭和52年1月11日

最終学歴

京都大学大学院文学研究科博士後期課程修了（平成19年3月）
博士（文学）（京都大学）

専門分野

国語学・文献学・歴史言語学



情報科学研究院教授に

アボルハサン メーラン
ABOLHASAN MEHRAN 氏

ビッグデータとIoTに関する
協同センター（CCB）

生年月日

1976年12月6日

最終学歴

ウーロンゴン大学博士課程修了（2003年12月）
博士（通信工学）

専門分野

通信工学、ワイヤレスネットワーク、
Internet of Things (IoT)



情報科学研究院教授に

フーマンサドル アミール
HOUMANSADR AMIR 氏

ビッグデータとIoTに関する
協同センター (CCB)

生年月日

1980年6月17日

最終学歴

イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校博士課程修了 (2012年8月)
博士 (電気計算機工学)

専門分野

AIセキュリティとプライバシー



情報科学研究院教授に

リップマン ジャスティン
LIPMAN JUSTIN 氏

ビッグデータとIoTに関する
協同センター (CCB)

生年月日

1971年5月15日

最終学歴

ウーロンゴン大学博士課程修了 (2003年4月)
博士 (通信工学)

専門分野

安全で信頼性の高いネットワーク接続技術、
サイバーセキュリティ



情報科学研究院教授に

マジ サブランス
MAJI SUBHRANSU 氏

ビッグデータとIoTに関する
協同センター (CCB)

生年月日

1984年5月24日

最終学歴

カリフォルニア大学バークレー校博士課程修了 (2011年12月)
博士 (電気計算機工学)

専門分野

コンピュータビジョン、機械学習



人獣共通感染症国際共同研究所教授に

まつの けいた
松野 啓太 氏

危機分析・対応部門

生年月日

昭和58年3月25日

最終学歴

北海道大学大学院獣医学研究科獣医学専攻博士課程修了 (平成23年3月)
博士 (獣医学) (北海道大学)

専門分野

獣医微生物学・ウイルス学



スラブ・ユーラシア研究センター教授に

おびや ちか
帯谷 知可 氏

中央ユーラシア部門

最終学歴

東京大学大学院総合文化研究科博士課程退学 (平成3年3月)
博士 (地域研究) (京都大学)

専門分野

中央アジア近現代史、中央アジア地域研究



観光学高等研究センター教授に

じゃん ぎょんざい
張 慶在 氏

生年月日

昭和57年3月16日

最終学歴

北海道大学大学院国際報メディア・観光学院博士後期課程修了 (平成26年9月)
博士 (観光学) (北海道大学)

専門分野

コンテンツ・ツーリズム、戦争記憶と観光、
観光とメディア、感情・多感覚観光



大学文書館教授に

いのうえ たかあき
井上 高聡 氏

生年月日

昭和45年4月13日

最終学歴

北海道大学大学院教育学研究科修士課程修了（平成8年3月）
修士（教育学）（北海道大学）

専門分野

北海道大学史、北海道教育史

教育イノベーション機構教授に

いいだ なおひろ
飯田 直弘 氏

教育推進研究部

生年月日

昭和53年9月21日

最終学歴

九州大学大学院人間環境学府博士後期課程単位取得退学（平成21年8月）
博士（教育学）（九州大学）

専門分野

比較教育学、比較高等教育

教育イノベーション機構教授に

いとう たかゆき
伊藤 孝行 氏

教育推進研究部

最終学歴

國學院大學大学院博士課程後期修了（平成17年3月）
博士（文学）（國學院大學）

専門分野

日本語学、日本語教育



教育イノベーション機構教授に

ひらた みき
平田 未季 氏

教育推進研究部

最終学歴

北海道大学国際広報メディア研究科博士課程単位取得満期退学（平成26年3月）
博士（国際広報メディア）（北海道大学）

専門分野

人文・社会／日本語教育分野



総合IR本部教授に

みずたに ゆうすけ
水谷 祐輔 氏

生年月日

昭和54年8月7日

最終学歴

北海道大学大学院情報科学研究科博士後期課程修了（平成23年3月）
博士（情報科学）（北海道大学）

専門分野

組織学、生物物理学、大学IR

訃報

名誉教授 ^{うしやま}牛山 ^{けいじ}敬二 氏
(享年92歳)



名誉教授 牛山敬二先生は、令和7年10月25日にご逝去されました。

牛山先生は、昭和31年3月に東京教育大学文学部社会科学科を卒業、同大学大学院文学研究科を経て同36年3月に農林省農業総合研究所に入所、同55年4月に本学経済学部教授に就任されました。そして、平成8年3月のご退職まで、その優れた学識をもって本学の研究・教育にご尽力されるとともに、

評議員（昭和62年8月～平成元年7月）として本学の運営の枢機にも参画されました。ご退職後は、つくば国際大学にご勤務されました。

牛山先生のご専門は、日本農業論です。農業総合研究所在職中の『農民層分解の構造一戦前期』（昭和50年）は、第二次大戦前の日本の大地主制の実相を、新潟県蒲原地域の十数年にわたる調査に基づき解明したもので、学界の高い評価を得ました。このご研究により、同52年に東京大学より経済学博士の学位を授与されています。

本学赴任後の牛山先生は、日本の農業政策が大きく変わる中で転換を迫られる北海道農業にご関心を移され、多数の研究者を組織していくつもの調査・研究を実施・公表されました。その一端は、先生の共編著『経済構造調整下の北海道農業』（平成3年）にみることができます。

また、先生は、1980年代末から体制

転換のただ中にあった東欧の旧ユーゴスラビア、ハンガリーなどの農業にも注目され、調査・比較研究を試みられました。なかでも、平成2年と同3年のポーランド農村の調査・研究は、プロイセン支配時代から調査時期に至る地主・貴族の所領と小農民社会の実態・変化を、それまで同国ではなされたことのない特定農村の全戸調査を通じて分析するという大掛かりなものであり、その成果は、故・吉野悦雄本学名誉教授等との共著『ポーランドの農業と農民』（同5年）に発表されています。

牛山先生はご自身のご研究だけでなく、土地制度史学会、農業経済学会などの重鎮として研究の発展と後進の指導にも力を尽くされました。先生の真摯なご活躍を通じたいずれも顕著なご功績にあらためて感謝申し上げますとともに、謹んで哀悼の意を表します。

(経済学院・経済学研究院・経済学部)

教授 ^{むらい}村井 ^{ゆういち}祐一 氏
(享年57歳)



教授 村井祐一先生が、令和8年2月26日にご逝去されました。

村井先生は石川県のご出身で、石川工業高等専門学校、金沢大学を経て、平成5年3月に東京大学大学院工学系研究科修士課程を修了、その後、同7年4月から福井大学工学部に助手として勤務される間、同8年7月に、東京大学より博士（工学）の学位を取得されました。学位取得後も、平成13年3月から日本学術振興会・若手海外特別研究員としてImperial College Londonに赴任するなど精力的に活動され、同15年4月に北海道大学大学院工学研究科の助教

授として着任されました。その後、平成22年4月に教授に昇任されています。

村井先生のご専門は流体工学で、研究分野は混相流の理工学、風車をはじめとした流体機械全般、動画処理計測技術開発など多岐にわたり、特にエネルギー・環境問題の解決に貢献する基礎研究に注力されました。それらの研究成果が評価され、平成19年に「流体エネルギー制御システム技術」の業績名で、文部科学省・文部科学大臣表彰 若手科学者賞を受賞されました。長年研究を続けられたテーマの一つが、気泡注入による船舶の摩擦抵抗低減技術であり、混相流体力学の知見から、抵抗が減ることだけでは無く、抵抗を変化させる要因についての学理を追求し、研究グループを組織するなど、盛衰ある研究分野を常に支えてこられました。また産業界とのつながりも強く、我が国をはじめ欧州の船舶関連企業・団体へのアドバイザーも務められました。加えて、国立博物館での発明品展示や各種アウトリーチ活動、都市景観に優しいデザイン風車の発明に関連させた市民参加行事の開催な

ど、学問の発展と科学教育を両立した活動に貢献されました。

学協会では、実験計測技術を厳しく評価し発展を奨励する任として、Experiments in Fluids誌のアドバイザーリーボードメンバー、アソシエイトエディターを歴任、混相流国際会議（ICMF）のガバニングボード議長、混相流計測国際会議（ISMTM-F）のバイスチェアを務められるなど、日本を代表する研究者として国際活動に尽力されました。令和5年には日本混相流学会の会長を務められ、同4年からは、日本学術会議の連携委員としてその任にあたられていました。

主宰されていた流れ制御研究室では、常に一研究者として学生と同じ目線での研究活動に取り組み、学術界や産業界で活躍する、多くの後進を輩出されました。

先生のご貢献に改めて感謝し、ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

(工学院・工学研究院・工学部)

名誉教授 ほんま ゆきひこ 本間 行彦 氏
(享年89歳)



名誉教授 本間行彦先生（37期）におかれましては、令和8年2月27日にご逝去されました。

本間先生は昭和11年に札幌市にお生まれになり、同30年に北海道札幌西高等学校卒業後、北海道大学医学部にご入学されました。昭和36年にご卒業

後、北海道大学第一内科に入局されました。昭和47年には、オランダ国立グローニンゲン大学研究院にご留学され、北海道大学医学部助手、講師を経て、同62年に北海道大学医学部保健診療所の教授に就任されました。平成6年より名称が変わり、北海道大学保健管理センター所長になりました。平成12年に北海道大学を定年退職された後、北海道漢方医学センター・北大前クリニックを開設されました。

平成13年には日本東洋医学会学術総会（札幌）の会頭をお務めになり、また、第4回北海道新聞学術文化研究奨励賞（昭和58年）、北海道医師会賞・北海道知事賞（平成9年）、日本東洋医学会学術賞（平成13年）を受賞されています。

北海道漢方医学センター・北大前ク

リニックでは、呼吸器疾患、特に間質性肺炎の患者さんを数多く診られ、本間先生の温かいお人柄を慕い、北海道全域のみならず、本州からも患者さんが通われていました。本間先生の著書である『漢方が効く 北大名誉教授30年のカルテから』（北海道新聞社）、『特発性間質性肺炎（IIP）のすべて：私はIIPをこう診てきた』（西村書店）は、多くの方々が読まれたことと思います。呼吸器内科の同門会長もお務めいただき、同門会の発展にも大きくご貢献されました。

本間先生のこれまでの長年にわたるご指導に改めて感謝し、ここに謹んで心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(医学院・医学研究院・医学部)

資料

令和8年度入学者の道内・道外別及び卒業年度調べ

学部・学科等	募集人員	入学者数		一般・フロンティア・国際総合入試（備考）								その他	
				人数		比率		人数		比率			
		全体	女子	道内	道外	道内	道外	R7年度卒業	過年度卒業	R7年度卒業	過年度卒業	人数	比率
総合入試文系	95	100	25	16	84	16.0%	84.0%	79	21	79.0%	21.0%	0	0.0%
国際総合入試	5	3	2	0	3	0.0%	100.0%	3	0	100.0%	0.0%	0	0.0%
計	100	103	27	16	87	15.5%	84.5%	82	21	79.6%	20.4%	0	0.0%
総合入試理系													
数学重点選抜群	133	133	17	40	91	30.1%	68.4%	94	37	70.7%	27.8%	2	1.5%
物理重点選抜群	239	242	18	71	169	29.3%	69.8%	158	82	65.3%	33.9%	2	0.8%
化学重点選抜群	240	242	55	71	171	29.3%	70.7%	162	80	66.9%	33.1%	0	0.0%
生物重点選抜群	169	173	74	30	142	17.3%	82.1%	128	44	74.0%	25.4%	1	0.6%
総合科学選抜群	253	254	92	67	187	26.4%	73.6%	205	49	80.7%	19.3%	0	0.0%
国際総合入試	10	8	4	3	5	37.5%	62.5%	8	0	100.0%	0.0%	0	0.0%
計	1,044	1,052	260	282	765	26.8%	72.7%	755	292	71.8%	27.8%	5	0.5%
文学部	155	156	76	47	108	30.1%	69.2%	111	44	71.2%	28.2%	1	0.6%
教育学部	30	32	12	12	18	37.5%	56.3%	21	9	65.6%	28.1%	2	6.3%
法学部	180	185	75	66	114	35.7%	61.6%	130	50	70.3%	27.0%	5	2.7%
経済学部	160	164	36	81	83	49.4%	50.6%	124	40	75.6%	24.4%	0	0.0%
理学部													
数学科	23	24	2	4	20	16.7%	83.3%	21	3	87.5%	12.5%	0	0.0%
物理学科	17	17	2	3	12	17.6%	70.6%	12	3	70.6%	17.6%	2	11.8%
化学科	31	32	5	7	23	21.9%	71.9%	25	5	78.1%	15.6%	2	6.3%
生物科学科													
生物学専修分野	10	10	3	0	9	0.0%	90.0%	7	2	70.0%	20.0%	1	10.0%
高分子機能学専修分野	5	5	2	1	4	20.0%	80.0%	5	0	100.0%	0.0%	0	0.0%
小計	15	15	5	1	13	6.7%	86.7%	12	2	80.0%	13.3%	1	6.7%
地球惑星科学科	10	10	0	1	9	10.0%	90.0%	9	1	90.0%	10.0%	0	0.0%
計	96	98	14	16	77	16.3%	78.6%	79	14	80.6%	14.3%	5	5.1%
医学部													
医学科	90	90	28	32	58	35.6%	64.4%	60	30	66.7%	33.3%	0	0.0%
保健学科													
看護学専攻	67	67	59	53	14	79.1%	20.9%	53	14	79.1%	20.9%	0	0.0%
放射線技術科学専攻	35	36	10	27	9	75.0%	25.0%	30	6	83.3%	16.7%	0	0.0%
検査技術科学専攻	35	36	25	25	11	69.4%	30.6%	31	5	86.1%	13.9%	0	0.0%
理学療法専攻	17	18	6	11	7	61.1%	38.9%	14	4	77.8%	22.2%	0	0.0%
作業療法専攻	17	17	8	5	12	29.4%	70.6%	12	5	70.6%	29.4%	0	0.0%
小計	171	174	108	121	53	69.5%	30.5%	140	34	80.5%	19.5%	0	0.0%
計	261	264	136	153	111	58.0%	42.0%	200	64	75.8%	24.2%	0	0.0%
歯学部	43	43	15	14	29	32.6%	67.4%	21	22	48.8%	51.2%	0	0.0%
薬学部	24	24	9	6	18	25.0%	75.0%	12	12	50.0%	50.0%	0	0.0%
工学部													
応用理工系学科	48	49	5	14	33	28.6%	67.3%	32	15	65.3%	30.6%	2	4.1%
情報エレクトロニクス学科	38	40	5	7	31	17.5%	77.5%	24	14	60.0%	35.0%	2	5.0%
機械知能工学科	30	30	3	7	22	23.3%	73.3%	21	8	70.0%	26.7%	1	3.3%
環境社会工学科	56	56	13	4	50	7.1%	89.3%	34	20	60.7%	35.7%	2	3.6%
計	172	175	26	32	136	18.3%	77.7%	111	57	63.4%	32.6%	7	4.0%
農学部	53	57	16	9	48	15.8%	84.2%	41	16	71.9%	28.1%	0	0.0%
獣医学部	35	37	25	1	36	2.7%	97.3%	25	12	67.6%	32.4%	0	0.0%
水産学部	175	182	51	45	137	24.7%	75.3%	131	51	72.0%	28.0%	0	0.0%
現代日本学プログラム	-	16	10	-	-	-	-	-	-	-	-	16	100.0%
合計	2,528	2,588	788	780	1,767	30.1%	68.3%	1,843	704	71.2%	27.2%	41	1.6%

備考：「一般・フロンティア・国際総合入試」の欄には、高等学校卒業程度認定試験合格者、高等専門学校第3学年修了者、外国の学校等卒業生、帰国生徒選抜による入学者及び外国人留学生は含まれない。これらの入学者は、「その他」の欄に計上している。

(学務部入試課)

令和8年度入学者の都道府県分布及び地域比率

地域名	入学者	男子	女子	地域%
-----	-----	----	----	-----

北海道	780	508	272	30.1%
-----	-----	-----	-----	-------

東北	92	70	22	3.6%
----	----	----	----	------

青森県	18	15	3
-----	----	----	---

岩手県	19	15	4
-----	----	----	---

宮城県	30	23	7
-----	----	----	---

秋田県	8	6	2
-----	---	---	---

山形県	8	5	3
-----	---	---	---

福島県	9	6	3
-----	---	---	---

関東	765	542	223	29.6%
----	-----	-----	-----	-------

茨城県	48	29	19
-----	----	----	----

栃木県	32	24	8
-----	----	----	---

群馬県	22	15	7
-----	----	----	---

埼玉県	102	81	21
-----	-----	----	----

千葉県	80	63	17
-----	----	----	----

東京都	336	225	111
-----	-----	-----	-----

神奈川県	145	105	40
------	-----	-----	----

北陸・中部	367	273	94	14.2%
-------	-----	-----	----	-------

新潟県	34	26	8
-----	----	----	---

富山県	22	13	9
-----	----	----	---

石川県	52	38	14
-----	----	----	----

福井県	6	4	2
-----	---	---	---

山梨県	11	9	2
-----	----	---	---

長野県	37	23	14
-----	----	----	----

岐阜県	26	23	3
-----	----	----	---

静岡県	65	51	14
-----	----	----	----

愛知県	114	86	28
-----	-----	----	----

地域名	入学者	男子	女子	地域%
-----	-----	----	----	-----

近畿	352	252	100	13.6%
----	-----	-----	-----	-------

三重県	28	20	8
-----	----	----	---

滋賀県	11	8	3
-----	----	---	---

京都府	62	42	20
-----	----	----	----

大阪府	104	79	25
-----	-----	----	----

兵庫県	107	72	35
-----	-----	----	----

奈良県	35	28	7
-----	----	----	---

和歌山県	5	3	2
------	---	---	---

中国・四国	109	77	32	4.2%
-------	-----	----	----	------

鳥取県	3	3	0
-----	---	---	---

島根県	3	2	1
-----	---	---	---

岡山県	19	15	4
-----	----	----	---

広島県	46	34	12
-----	----	----	----

山口県	5	3	2
-----	---	---	---

徳島県	7	6	1
-----	---	---	---

香川県	8	5	3
-----	---	---	---

愛媛県	14	7	7
-----	----	---	---

高知県	4	2	2
-----	---	---	---

九州・沖縄	82	56	26	3.2%
-------	----	----	----	------

福岡県	25	11	14
-----	----	----	----

佐賀県	3	2	1
-----	---	---	---

長崎県	10	8	2
-----	----	---	---

熊本県	8	6	2
-----	---	---	---

大分県	3	3	0
-----	---	---	---

宮崎県	4	4	0
-----	---	---	---

鹿児島県	6	6	0
------	---	---	---

沖縄県	23	16	7
-----	----	----	---

その他	41	22	19	1.6%
-----	----	----	----	------

高等学校卒業程度認定試験等	6	5	1
---------------	---	---	---

帰国生徒選抜	7	4	3
--------	---	---	---

外国人留学生	28	13	15
--------	----	----	----

入学者数合計	2,588	1,800	788
--------	-------	-------	-----

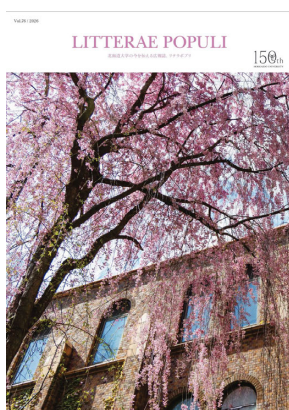
地域別入学者数割合は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

(学務部入試課)

編集メモ

- 広報誌『リテラポプリ』Vol.76を発行しました。今回は、「変革する」をテーマに、特集「岩と熱が拓く知の変革」を取り上げ、アポイ岳の「岩」から探る天然水素や、次世代の「熱」蓄積技術など、北大が挑むGX（グリーントランスフォーメーション）の研究を紹介しています。ぜひご覧ください。

<https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/litterae.html>



- 創基150周年記念事業として、本学OB作家 岩井圭也氏執筆による、北海道大学を舞台とした連作小説の第4話『北極星をえがく 一滴の海』を4月24日（金）から配布しております。以下の特設サイトから試し読みもできますので、ぜひご覧ください。現在、第1～3話を期間限定で全文公開中です。最終話の第5話は2026年7月に発行予定です。

<https://www.hokudai.ac.jp/novel/>





キャンパス懐古 13 大野池の桜(1980年代)

例年、札幌の桜の開花は、4月下旬から5月初旬にかけてです。新年度始まりのキャンパスの緊張が和らいだころ、黄緑に芽吹き始めた木々の中に、柔らかい彩りを添えてくれます。大野池近くにも桜の木が花を咲かせます。

1990年代半ば、大野池の周囲にはウッドデッキが設

置され、雰囲気のある憩いの場となりました。それ以前は、周辺と比べると一段低い低湿地であった地形の様子がよく分かりました。病院の入院患者も看護師同伴で芝生にくつろぎ花見を楽しんでいます。

(大学文書館・北海道大学150年史編集室)